

平成 25 年度～平成 26 年度
女性獣医師支援特別委員会報告

女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて
— 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために —

平成 27 年 5 月



目 次

1 はじめに	1
2 女性獣医師支援特別委員会の設置目的等	2
3 アンケート調査	4
4 アンケート調査結果の分析 — 女性獣医師をめぐる現状と課題 —	6
5 今後の対応 —具体的な取り組み等の提案—	21
6 おわりに	25
参考資料1：シンポジウム「すべての獣医師がより活躍できる環境づくり に向けて — 女性獣医師の就業現場から —」の開催報告	30
参考資料2：獣医師の就業環境等に関する現況調査の概要	113
参考資料3：中間報告における調査結果の分析	134
参考資料4：中間報告後の追加分析	160

女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて — 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために —

1 はじめに

今後の我が国の発展には「女性の活躍」が大きな柱となるという考え方とともに、平成 25 年 6 月に閣議決定された「日本再興戦略」では、女性が輝く日本を構築するための政策が掲げられ、「職場復帰や再就職の支援」、「女性役員や管理職の増加への数値目標」等が示されている。私たち獣医師の各職域においても、女性の活躍促進の必要性はかねてから指摘されてきた。

女性獣医師の割合は近年特に増加している。平成 24 年 12 月末現在の農林水産省の集計によれば、獣医師全体に占める女性の割合は 27% であるが、年代別にみると 20 代では 45%、30 代では 48% と、若い世代では約半数が女性である。全国 16 の獣医学系大学に在籍する獣医学生の約半数が女子学生であることからも、近い将来、女性獣医師と男性獣医師の割合は均衡していくものとみられる。

一方、同集計によれば、20 代から 50 代の女性獣医師の約 7% は無職であり、男性獣医師の約 1 %との差が際立っている。このことは、女性獣医師が出産、子育て等のために離職し、その後、様々な理由により再就職が進まないことによるものとされている。

このような状況を分析して要因を明らかにし、女性獣医師がより働きやすい環境づくりをめざすことは、すべての獣医師が働きやすい環境づくりにつながり、獣医師全体のワーク・ライフ・バランスの改善に資することから、日本獣医師会では、藏内勇夫会長直轄の特別委員会として、平成 25 年 9 月に女性獣医師支援特別委員会を設置し、平成 27 年 5 月まで議論を重ねてきた。

平成 26 年 1 ~ 2 月に農林水産省の補助を受けて「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を実施し、その結果の概要や委員自らの経験等をもとに議論を進め、平成 26 年 10 月に、現状と課題、必要と考えられる対策等について「女性獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて—獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために—（中間報告）」としてまとめた。

その後も調査結果の詳細な分析等を進め、平成 27 年 2 月には、平成 26 年度獣医学術学会年次大会（岡山）にて、シンポジウム「すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて—女性獣医師の就業現場から—」を開催し、女性獣医師支援特別委員会の活動報告、各職域を代表する委員の現状、課題等についての発表、総合討論を行って、広く意見を聴いた。

本報告書は、シンポジウムの成果も含め、これまでの議論の結果をとりまとめ、今後の対応や具体的な取り組み等について提案するものである。

2 女性獣医師支援特別委員会の設置目的等

本委員会の設置目的は、女性獣医師のキャリアアップと就業の継続に係る方策を検討し、その活動を支援することである。検討事項等の詳細は〔別紙1〕を、これまでの活動状況は〔別紙2〕を参照されたい。

委員は、産業動物診療、小動物診療、公務員（農政、厚生関連部局等）の各職域において、いわば第一世代の女性獣医師として仕事をしてきた10名の女性獣医師である（委員名簿27ページ）。

〔別紙1〕

女性獣医師支援特別委員会の設置について

1 目的

近年獣医学系大学入学者のほぼ半数を占める女性獣医師の就業を支援するためには、キャリアアップと就業の継続に係る方策を検討し、獣医師の地域・職域偏在を解決する一助として女性獣医師の活動支援を図る。

2 検討事項

（1）女性獣医師の就業推進対策

- ア 就業を希望する女性獣医師と女性獣医師の就業を希望する雇用者への情報提供に関すること
- イ 未就業の女性獣医師、または就業していても獣医事に従事していない女性獣医師に対し、獣医事に関連する職場へ就業するための学習機会の提供に関すること
- ウ 女性獣医師が生涯にわたって獣医学に関する知識・技術を研鑽し、キャリアアップを図るために体系的な学習機会の提供に関すること

（2）女性獣医師のための職場環境等の改善対策

3 実施方法

- （1）別紙の有識者の協力を得て、構成された特別委員会で検討を行う。
- （2）必要に応じ、関係者を招致し、意見を聴取する。
- （3）必要に応じ、小委員会を設置して検討を行う。
- （4）必要に応じ、他の関係者のオブザーバーとしての参画を得る。

4 検討期間

平成25年11月1日～平成27年6月30日

5 その他

- (1) 委員会に関する庶務は、日本獣医師会において処理する。
- (2) 委員会の運営に関する事項は、必要に応じ委員会に諮って定める。

[別紙2]

女性獣医師支援特別委員会の活動状況

1 委員会の開催

- 第1回委員会（平成25年11月13日）
- 第2回委員会（平成26年6月3日）
- 第3回委員会（平成26年8月26日）
- 第4回委員会（平成27年1月20日）
- 第5回委員会（平成27年5月12日）

2 アンケート調査の実施

- 調査名：「獣医師の就業環境等に関する現況調査」
- 調査期間：平成26年1月17日～2月16日
- 対象：全国の獣医師
- 調査方法：インターネットによるアンケート調査
- 回答数：4,371

3 中間報告のとりまとめ（平成26年10月31日）

- 「女性がより活躍できる環境づくりに向けて
－獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために－（中間報告）」

4 シンポジウムの開催（平成27年2月13日）

- タイトル：すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて
－女性獣医師の就業現場から－
- 会場：岡山コンベンションセンター

5 最終報告のとりまとめ（平成27年5月29日）

- 「女性がより活躍できる環境づくりに向けて
－獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために－（最終報告）」

3 アンケート調査

(1) アンケート調査の実施

女性獣医師の就業環境の実態を把握し、就業支援のための基礎資料とする目的として、農林水産省の補助をうけて「獣医師の就業環境等に関する現況調査」(アンケート調査)を、平成26年1月17日からの1か月間に、専用WEBサイトを用いたインターネットアンケート方式で実施した。

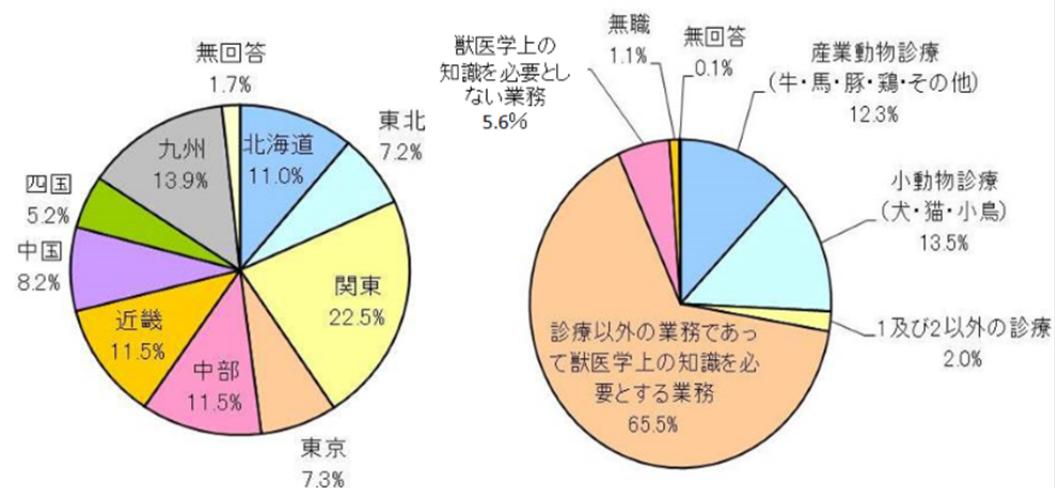
実施にあたっては、獣医師全体の実態を把握する必要があると考え、調査対象は、女性獣医師に限定せず、また、現在獣医師としての資格を活かして働いているかどうかを問わず、広く獣医師全体を対象とした。

その結果、全国から男性2,923名、女性1,429名、計4,371名の回答が得られた。

(2) 回答者の地域・職域別内訳

回答者の内訳は、図1のとおり、地域別では、北海道から九州まで、広く分布し、獣医師法第22条の届出に基づく、業務の分類では、産業動物診療が537名で12.3%、小動物診療が588名で13.5%、それ以外の診療が86名で2%、診療以外の業務で獣医学上の知識を必要とする業務が2,864名で65.5%で、うち公務員が2,525名で57.7%、獣医学上の知識を必要としない業務が244名で5.6%、無職が46名で1.1%であった。

図1 回答者の内訳（地域・職域）

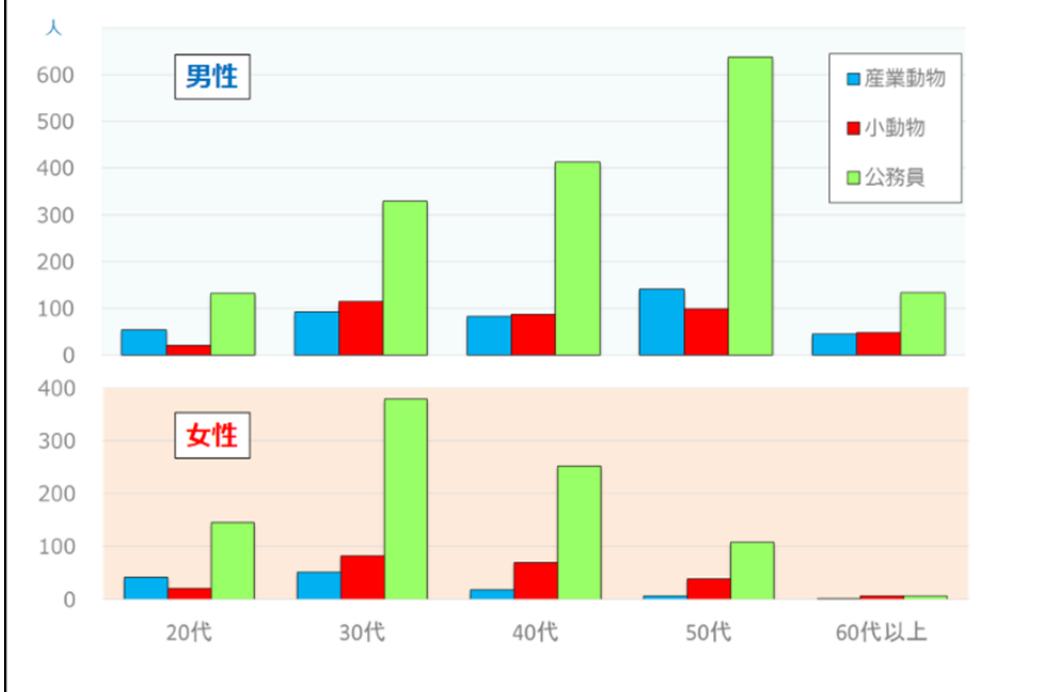


(3) 回答者の男女別、年齢別の分布

回答者の職域、年齢の分布は、図2のとおり男性と女性でかなり偏りがみられた。20代、30代では男女の数がほぼ同数であるのに対し、40代では男性675名に対し、女性380名、50代では、男性が1,023名に対し、女性179名、60代以上では、男性324名に対し、女性19名と年代が上になるほど、女性の比率は少なくなっていた。

また、職域別では、公務員が多く、とくに、男性では50代が637名、女性では30代が373名と多かった。

図2 回答者の職域・年齢分布



4 アンケート調査結果の分析 — 女性獣医師をめぐる現状と課題 —

(1) 仕事上の不安や負担

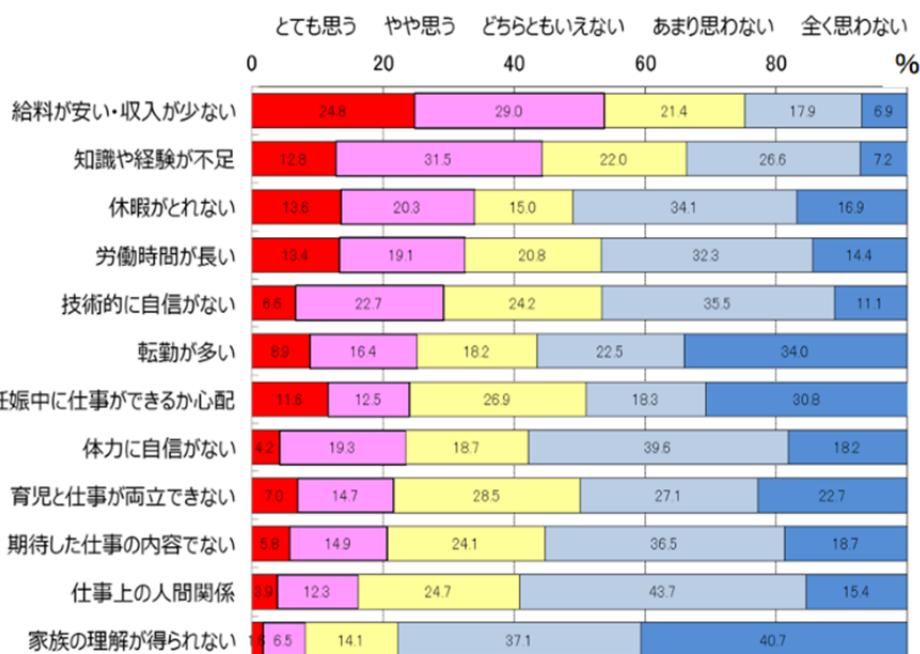
図3－1に、仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うかどうかを項目ごとに質問した回答結果を示した。「とても思う」、「やや思う」と回答し、不安や負担感を感じている割合が高かった項目は、「給料が安い、収入が少ない」で、回答の半数以上であった。特に、40代以下の男性や公務員でその割合は高かった。

次いで高かった項目は、「知識や経験が不足」で、全体では44%だが、20代では男女とも77%、30代では男性で53%、女性で60%を占め、若い世代ほど高く、免許を取得しただけでは、知識や経験が不足と感じていることがわかった。

その次が、「休暇がとれない」「労働時間が長い」で、全体では約3割だったが、小動物診療、また、個人診療施設では約7割を占め、個人の動物病院の獣医師は、特に、厳しい就業環境にあることがわかった。

一方、仕事上の人間関係や家族の理解については、6割以上の人人が問題と感じておらず、周囲の理解のもと、獣医師としてプライドをもって仕事をしている様子が伺われた。

図3－1 仕事上の不安や負担（全体）



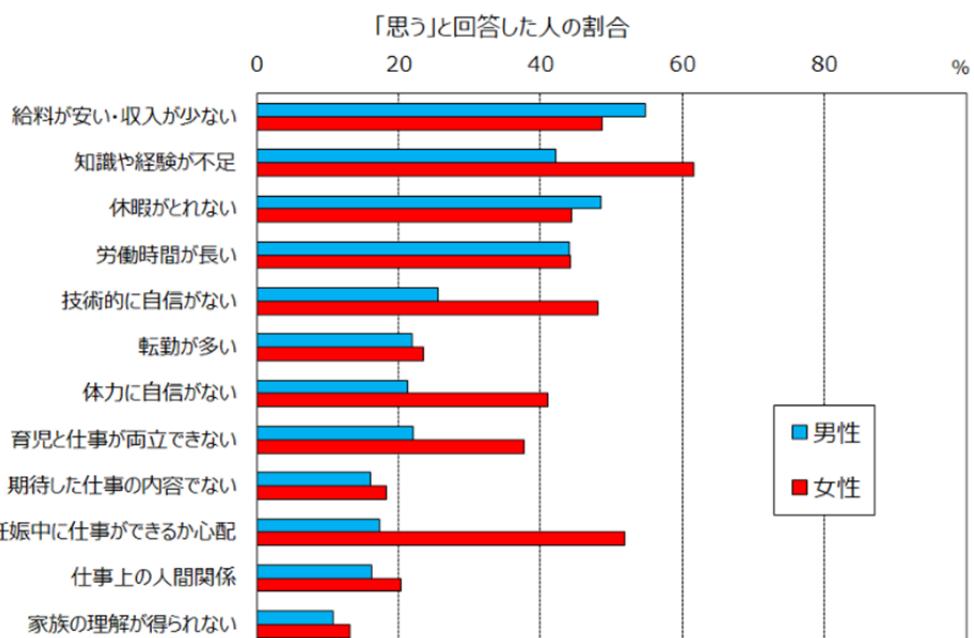
次に、図3－2に、仕事上の不安や負担感について、男女を比較した結果を示した。

「とても思う」、「やや思う」と回答した人の割合は、男性では「給料が安い」とした回答がトップで、次いで、「休暇がとれない」、「労働時間が長い」、「知識や経験が不足」となっていた。

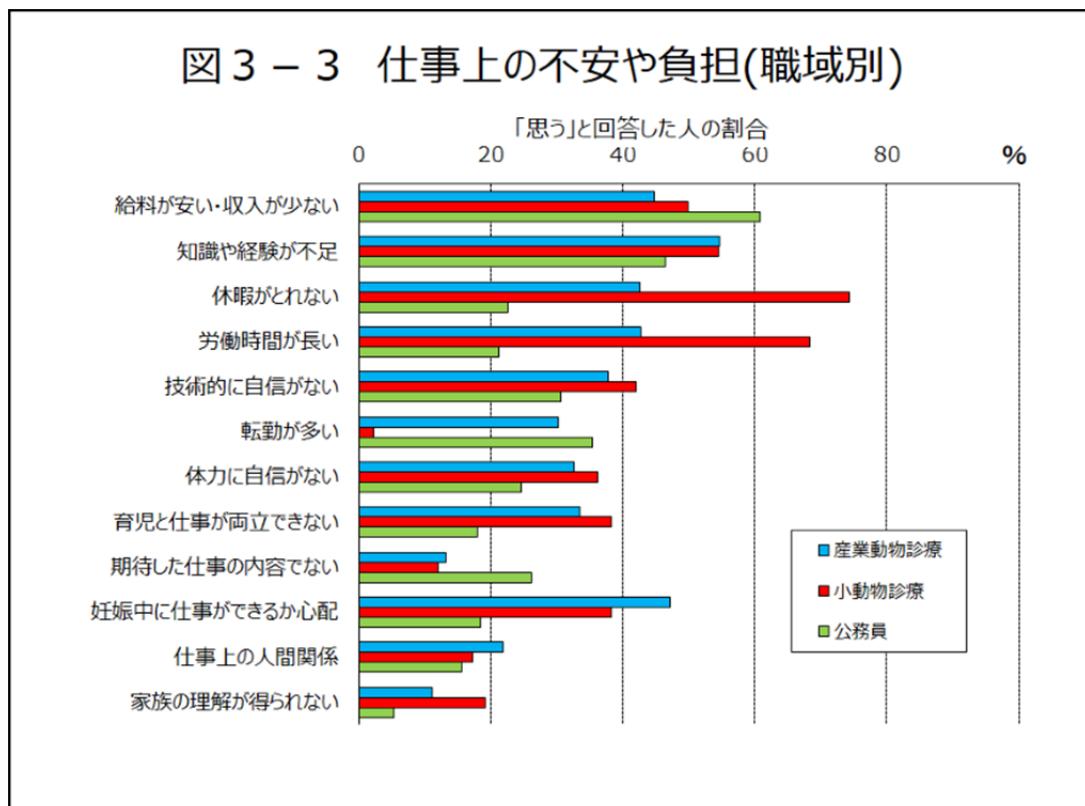
一方、女性では、給料や、休暇、労働時間という男女共通の課題に加え、「妊娠や育児と仕事との両立が難しい」、「体力的に自信がない」との回答も多く、女性獣医師は、男性獣医師より、数多くの負担や不安を抱えている実態が伺われた。

なお、「知識や経験が不足」、「技術に自信がない」とする回答も多かったが、これは、まだ40代以上の女性獣医師は少なく、回答者が若い年代に偏っているためと考えられた。

図3－2 仕事上の不安や負担(男性・女性)



次に、図3-3で仕事上の不安や負担感を職域別に比較した。
特に際立っていたのは、「休暇がとれない」、「労働時間が長い」の項目における小動物診療分野の回答結果であり、約7割と突出していた。
また、産業動物診療分野では、「妊娠中に仕事ができるか心配」とする回答が他の職域より多かった。
一方、公務員は、休暇や労働時間、仕事との両立については比較的恵まれているものの、「給料が安い」、「転勤が多い」、「期待した仕事の内容でない」とする回答が他の職域より多かった。



(2) 女性の就業支援の整備状況

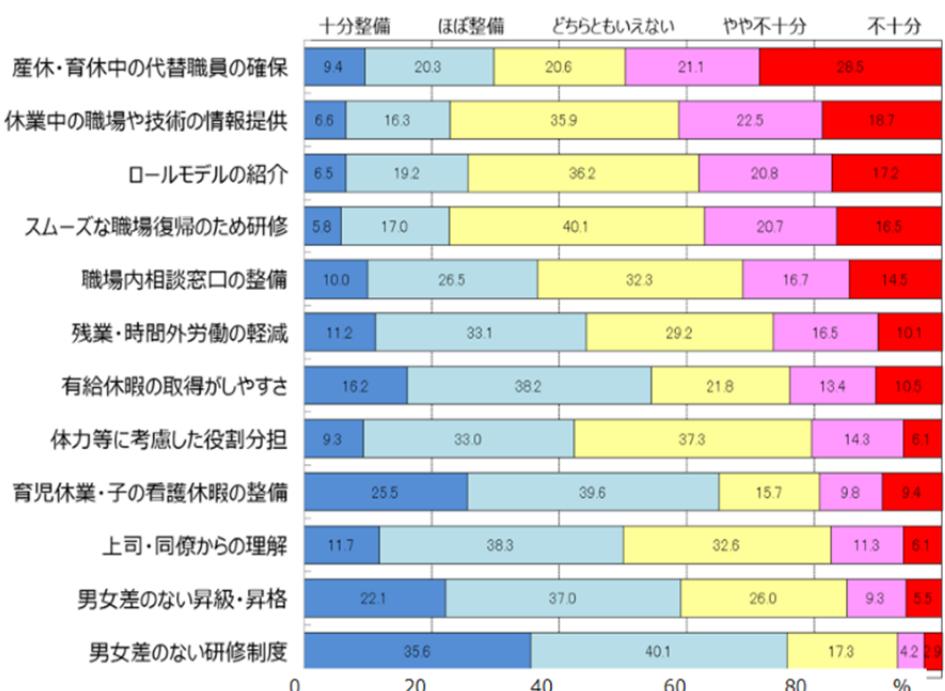
図4－1に、職場における女性の就業支援がどの程度整備されていると感じているかを項目ごとに質問した回答結果を、「不十分」、または「やや不十分」と回答した割合の高い順に示した。

トップは、「産休・育休中の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備」で、約半数が不十分と答えた。

次いで「休業中の職場や技術情報の提供」、「子育てと仕事を両立しているモデルケース、いわゆるロールモデルの紹介」、「休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実」が約4割であった。

一方、「男女差のない研修制度」、「育児休業・子の看護休暇の整備」については、「整備されている」という回答が6割以上であった。

図4－1 女性の就業支援の整備状況（全体）



男性、女性で比較すると、図4-2のように、いずれの項目も女性の方が不十分とする回答が多かった。

項目別では、男女とも「代替職員の確保」が最も不十分としており、「職場内相談窓口の整備」や「育児休業制度等の整備」等、職場内の問題については比較的両者の認識は一致していた。

一方、「休業中の情報提供」、「ロールモデルの紹介」、スムーズな「職場復帰のための研修」等については認識に差があり、男性が考えている以上に、女性獣医師が、妊娠、出産で仕事を離れてもスムーズな復職を望んでいること、育児中も仕事を続けたいと高い就業意欲を持っている一方でそのための体制の整備がまだ不十分と感じていることが伺われた。

図4-2 女性の就業支援の整備状況（男性・女性）

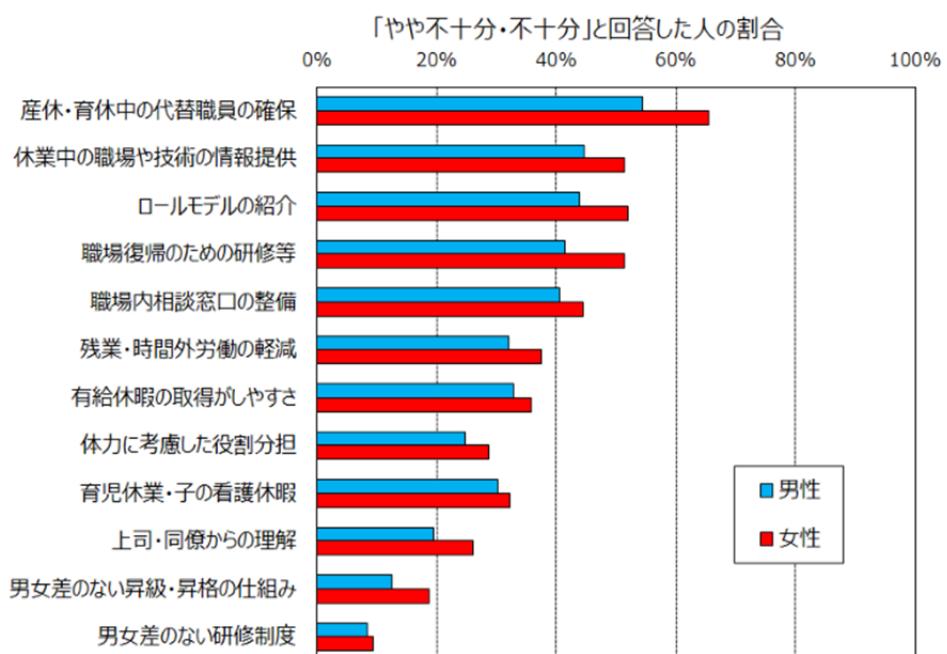


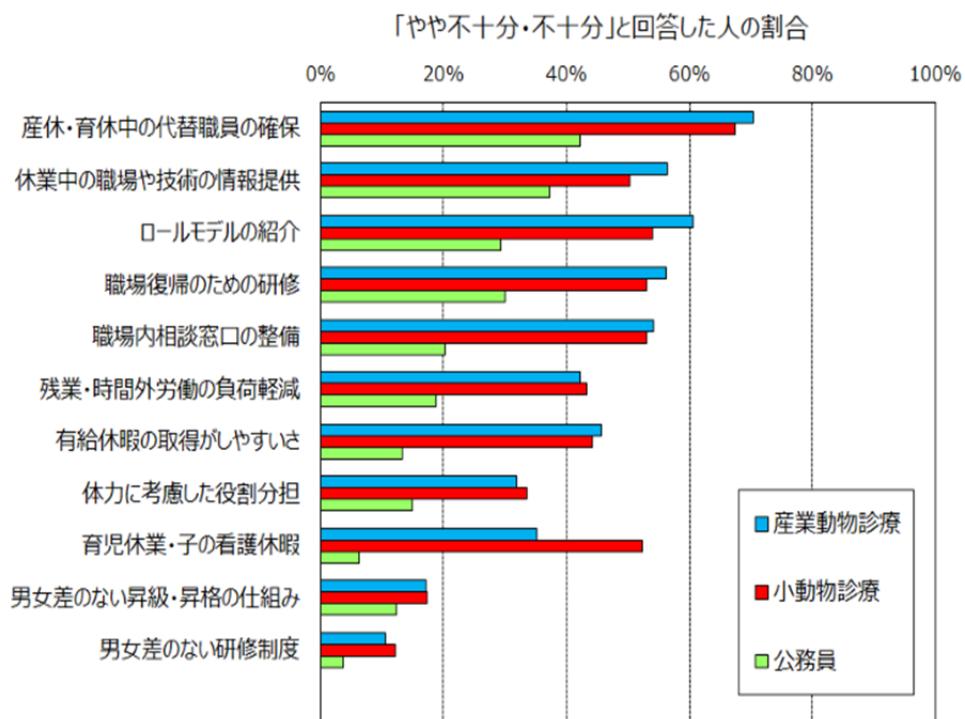
図4－3に、女性の就業支援の整備状況を職域別に比較した結果を示した。

産業動物診療では、全体として、他の職域と比較し、不十分とした回答が多く、「代替職員の確保」、「ロールモデルの紹介」、「職場内相談窓口の整備」、「休業中の情報提供」、「職場復帰のための研修」等が、不十分であるとした人が過半数を超えた。これまで産業動物分野の女性獣医師が少なかったことから、体制の整備が遅れている実態が反映されたものと考えられた。

また、小動物診療でも不十分とする回答が多く、特に、「育児休業、子の看護休暇等の整備」、「残業・時間外労働の軽減」、「有給休暇の取得」等、長時間労働、休暇制度の充実が切実な課題となっている実態が伺われた。

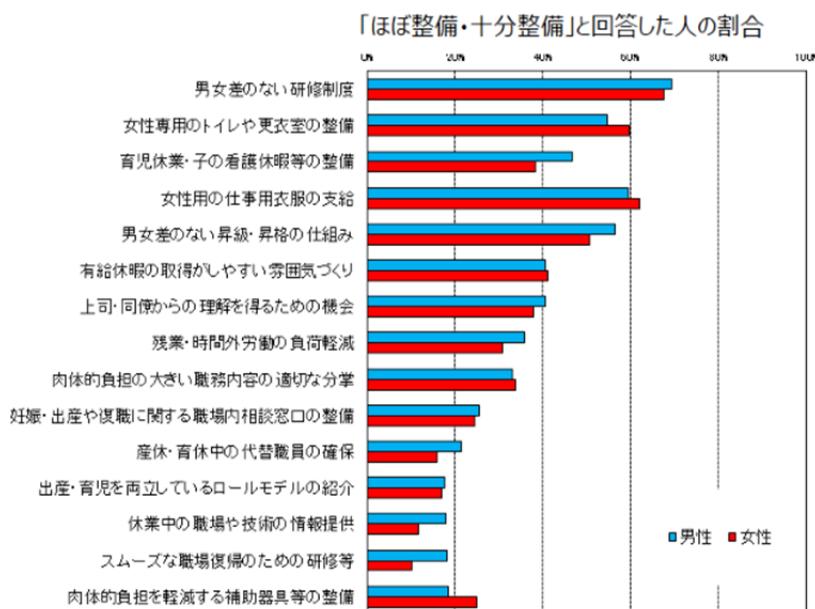
一方、公務員については、全体に不十分とする回答は少なかったが、「代替職員の確保」、「休業中の情報提供」については約4割の人が不十分と回答していた。

図4-3 女性の就業支援の整備状況（職域別）



一方、女性の就業支援の整備状況について、「十分整備されている」、「ほぼ整備されている」と感じている割合を、男性、女性で比較すると、図4-4のように、全体に男性の方が、「整備されている」との回答が多かった。

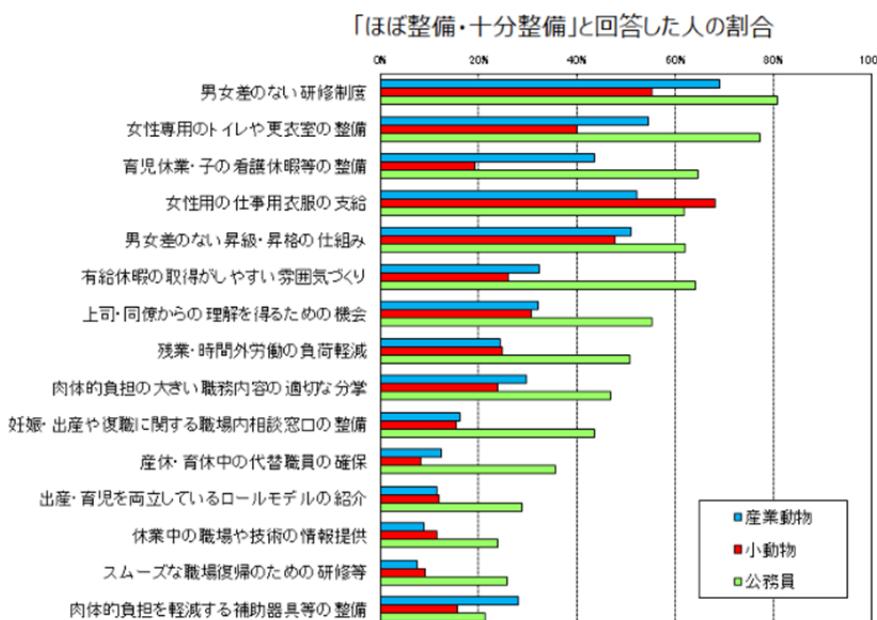
図4-4 女性の就業支援の整備状況（男性・女性）



また、職域別では、図4-5のように、公務員では、「整備されている」との回答が多くの項目で過半数を超えていた。

特に、男女差のない研修や昇給、育児休業や子の看護休暇など、制度的なものについては、「整備されている」との回答が多かった。

図4-5 女性の就業支援の整備状況（職域別）

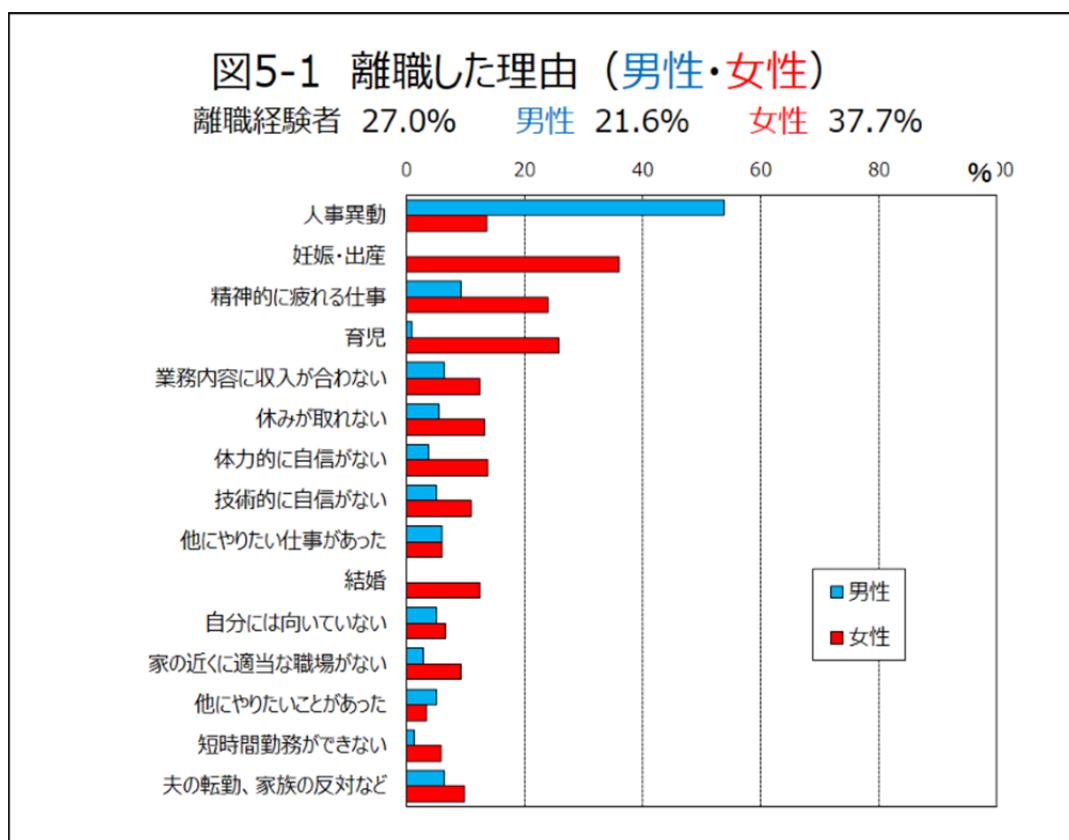


また、自由回答意見でも、「出産、子育て中の女性職員への優遇措置が、他の職員への負担になっている」という意見が多く寄せられていた。

今後、女性獣医師の割合の増加に伴い、体制整備等のハード面だけではなく、代替職員の確保や、雇用保険の利用等をそれぞれの職場で推進するといった運用面での充実とともに、職場の人間関係を円滑にすすめるための利用する側の自覚と配慮等、ソフト面での充実とそのための支援が必要であると思われた。

(3) 離職した理由

「これまで、獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことがありますか」という設問については、図5-1のとおり、全体の27%で離職経験があり、男性21.6%に対し女性は37.7%と離職経験者が多かった。離職の理由は「人事異動」がトップで、男性では54%を占めた。女性では、「妊娠・出産」が36%、次いで、「育児」の26%、「精神的に疲れる仕事」の24%であった。

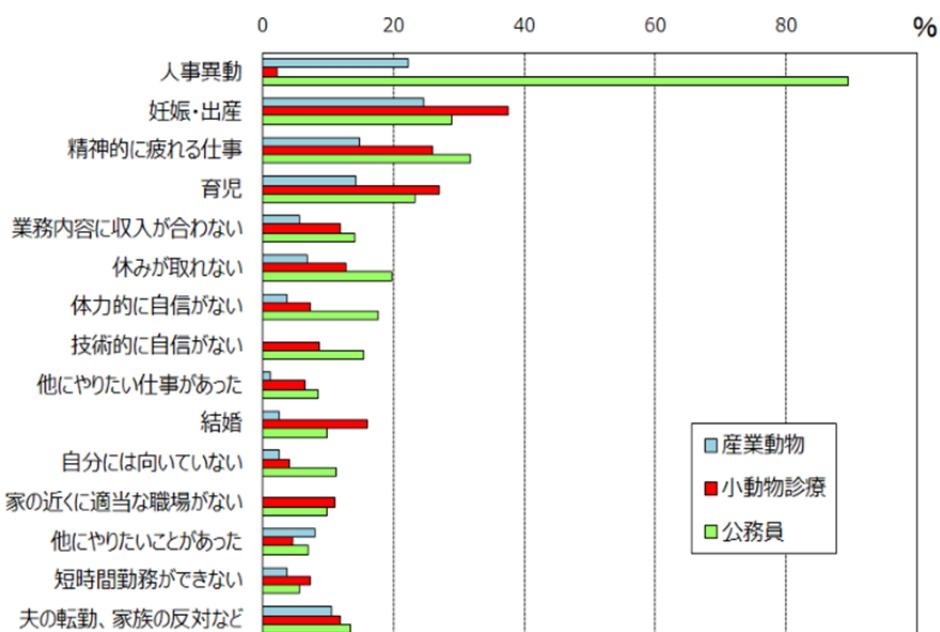


離職理由を職域別に比較すると、図5－2のとおり、公務員では「人事異動」が約9割と突出していた。なお、「獣医学上の知識を必要としない業務についている人」の離職理由のトップは「人事異動」で54%、また、現在、無職の人の離職理由も「人事異動」が27%でトップ、「妊娠・出産」と「育児」がそれぞれ23%であった。

昨今、女性の社会進出に伴い、職員の勤務地や仕事内容について、介護や育児等に配慮する企業が増えている。公務員獣医師の不足・偏在が深刻な課題とされるなか、給料、休暇等の待遇改善とともに、人事異動が離職につながらないよう、さらなる配慮やより柔軟な対応が求められていると考えられた。

図5-2 離職した理由(職域別比較)

離職経験者 産業動物診療16.2% 小動物診療21.9% 公務員14.2%



(4) 自由回答について

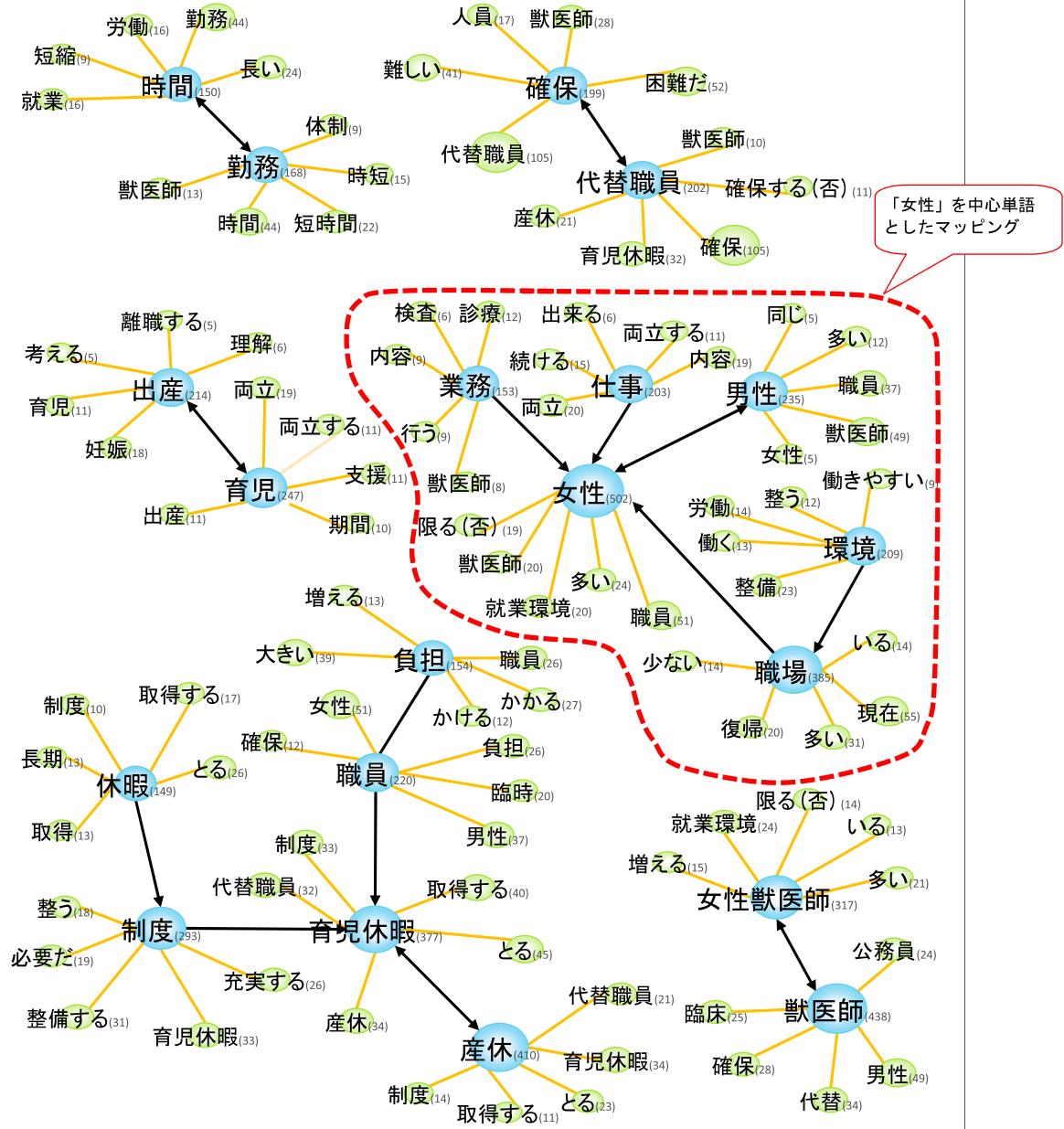
今回のアンケート調査では、1,960名という非常に多数の方から自由回答が寄せられた。

図6-1は、コンピュータ処理によって、全自由回答から、よく使用されている単語を中心単語として抽出し、それにつながる単語を専用ソフト(Quick-MINING ASP, (株)マクロミル提供)で集計し、マッピングしたものである。

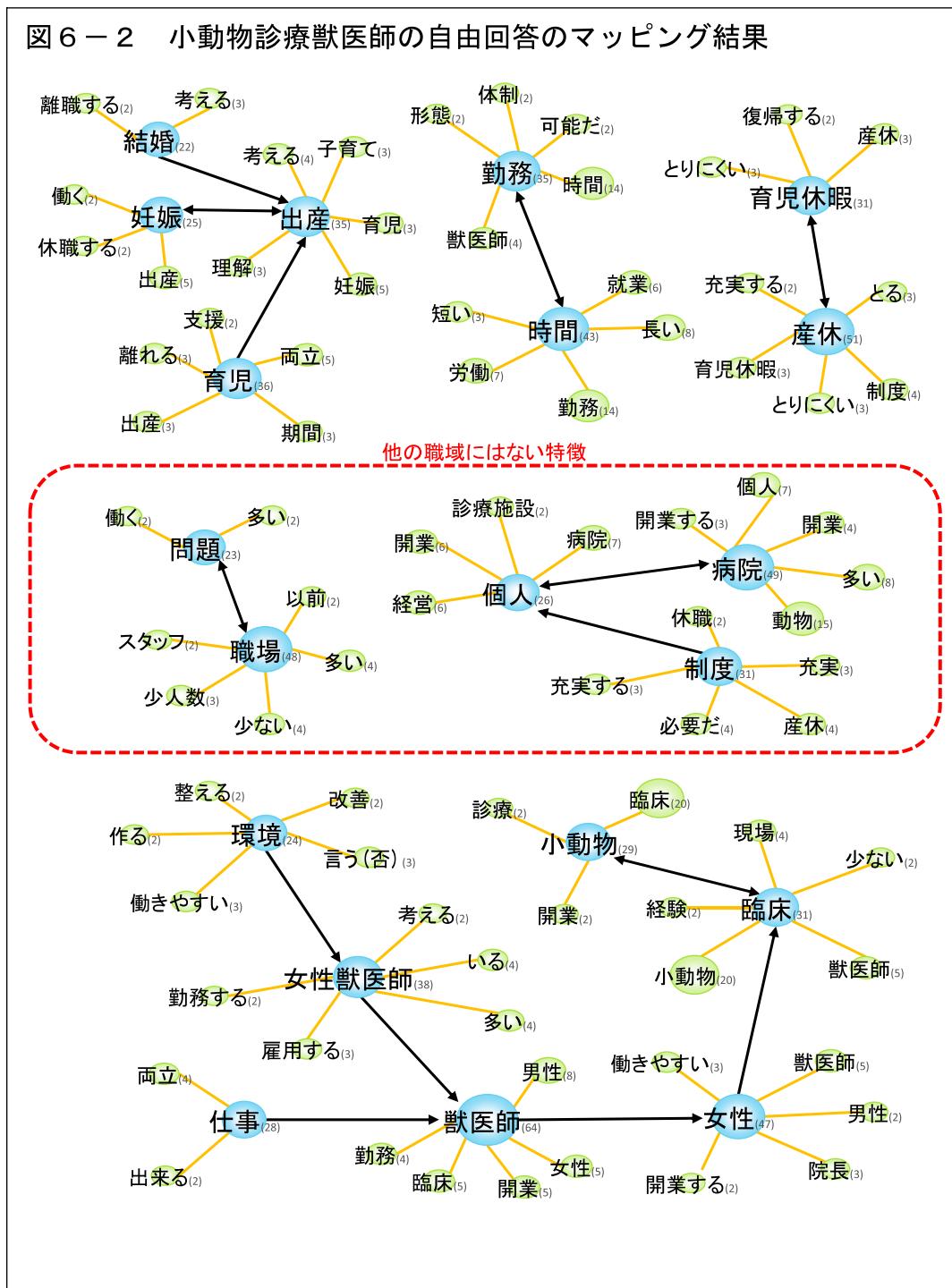
1,960の回答のうち、502の回答に「女性」という単語が使われており、ブルーで示した女性という中心単語から、職場・男性・仕事等の単語がつながっていることを黒の矢印で示しており、カッコ内の数字が出現数、「限る(否)」は、限らない、限るべきではないと否定的な表現であったことを示している。

この結果、女性獣医師のライフステージの中では、出産と育児が大きなトピックであること、仕事との両立には、男性も含めた職場環境の整備が必要であること、その具体策として、産休・育休を取得しやすい仕組みづくり、特に代替者確保策が必要であること、短時間勤務の仕組みが必要とされていること等のコメントが多かったことが読み取れた。

図 6－1 全自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果



同じように、図6-2に小動物診療獣医師からの292の回答をマッピングしたところ、他の職域とは異なる特徴が認められた。図で、赤の点線が囲ったように、小動物診療分野では、個人経営の小規模な動物病院が多いため、スタッフも少なく、産休や育休等の制度も充実しておらず、女性獣医師には厳しい職場環境であると感じていることが伺われた。

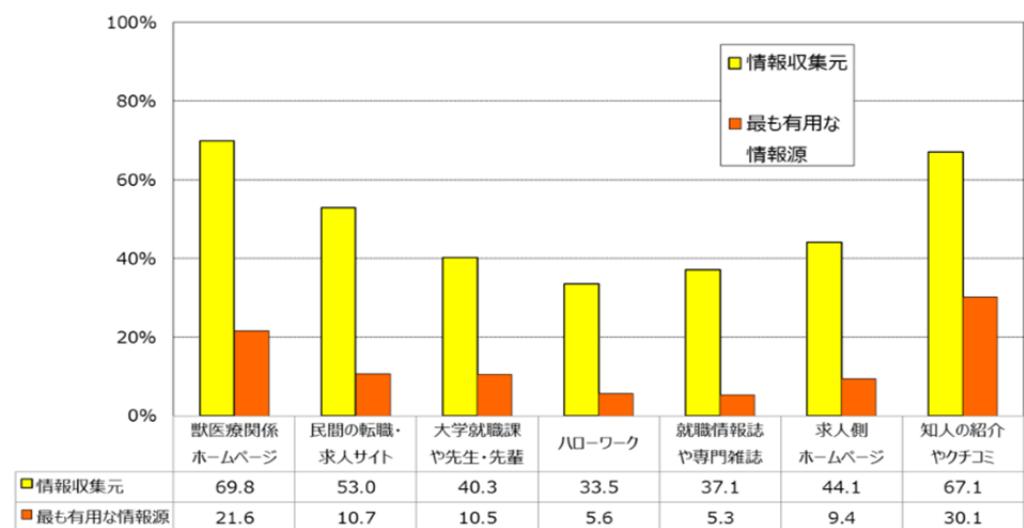


(5) 再就職のための情報収集について

図7に示したように、再就職のための情報収集先としては、獣医療関係のホームページや、知人や友人の紹介やクチコミとする回答が多く、一般的なハローワークや就職専門誌は少なかった。

特に、20代、30代については、獣医療関係のホームページからが約8割、求人サイトが7割とインターネットを利用して情報収集していることがわかった。

図7 再就職のための情報収集について



以上、アンケート調査の結果、女性獣医師の就業環境は厳しく、特に、産業動物診療や小動物診療において、「育児や仕事との両立」、「妊娠中の仕事」等に不安を抱えていることが明らかになった。

さらに、今回男性獣医師からも回答を得たことで、男女共通の課題も多いことが浮かびあがった。「公務員の給料が安い」、「若手獣医師の知識や経験の不足」、「小動物診療の休暇がとれない」、「労働時間が長い」等でこれらを改善し、女性獣医師が働きやすい環境を整備することは、すべての獣医師が働きやすい環境づくりにつながることが示唆された。

また、女性の就業支援の実態として、公務員は比較的整備されているが、診療分野ではまだ不十分との回答が多く、特に、小動物診療では、「有給休暇の取得」や、「育児休業」等、「子育て支援のための休暇制度の充実」を望む声が多かった。

一方、離職については、回答者の1/4が離職経験者で、離職理由のトップは「人事異動」で、特に公務員の男性では突出していた。また、女性の離職理由は「妊娠や育児」も多かった。

アンケート調査のまとめ

○獣医師が抱えている不安

・女性獣医師の課題

育児と仕事が両立できない・妊娠中の仕事

・男女共通の課題

給料が安い・収入が安い（公務員・20～30代）

休暇がとれない・長時間労働（小動物診療）

知識、経験の不足、技術的に自信がない（20～30代）

○女性の就業支援の実態（不十分との回答が多かったもの）

産休中や代替職員の確保 休業中の情報提供

ロールモデルの紹介、スムーズな復帰のための研修

子育て支援のための休暇制度（小動物診療）

○離職について 離職経験者は27%

離職理由のトップは人事異動 女性：妊娠や育児

5 今後の対応—具体的な取り組み等の提案—

調査結果の分析や委員会での議論を通じて「女性獣医師をめぐる現状と課題」が明らかになった。また、シンポジウムでは、それぞれの就業現場の深刻な実情とともに、改善のために考えられている対策等も紹介された。

まだ女性獣医師が珍しい存在であった時代には成り立っていたやり方、すなわち、女性獣医師も男性獣医師と同等に長時間勤務や力仕事をこなす、産休等による女性獣医師の不在を同僚の獣医師がカバーする、といったやり方は、女性獣医師が半数を占めるようになれば、もはや成り立たない。このことは、多くの職場で既に顕在化し、深刻化している。

女性獣医師が活躍しやすい環境を整備することは急務である。

また、職場環境の改善が必要な課題は、女性獣医師特有のものばかりではなく、男性獣医師にも共通するものが少なくない。男性獣医師であっても体調を崩したり年齢を重ねれば能力を発揮しにくいこともあるし、家事、育児や介護は女性だけの役割ではない。女性獣医師が活躍しやすい環境づくりは、すべての獣医師が活躍しやすい環境づくりにつながる。

そのため、職場の同僚、雇用者や管理者である獣医師を含む獣医師全体、さらには将来獣医師として活躍することとなる獣医学生も一緒に考え、獣医師及び関係者全員で取り組む必要がある。

女性獣医師の活躍促進のために必要と考えられること、具体的な取り組みを以下に提案する。

(1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

女性獣医師の活躍を促進することの意義、労働条件等の支援策の整備とその適切な運用の必要性等について、獣医師及び関係者全体で理解を醸成することが、まず重要である。

特に、「休暇が取れない」「労働時間が長い」との回答が約7割を占め、男女ともに厳しい就業環境にある小動物診療分野、また、女性の就業支援の整備が不十分との回答が多かった産業動物診療分野について、雇用者側の労働関係法令や社会保険制度等に関するコンプライアンス意識の向上や就業環境改善のための職場全体の理解醸成を強力に進める必要がある。

また、今後の獣医療を担う獣医学生に対し、職業教育を充実していく必要がある。

<必要と思われる施策>

- ① 獣医師及び関係者全員の理解醸成のための手引書の作成
- ② 雇用者のコンプライアンス意識の向上のための労働関係法令、保険制度等に関するセミナーの開催、手引書の作成
- ③ 獣医学生に対する就業意識の教育や女性獣医師就業支援策等の紹介、

そのための資料の作成

(2) 仕事を続けやすい環境づくり

ア 勤務形態の多様化の促進

多くの女性獣医師は、出産や育児と両立できるなら、職場が近くなら、短時間なら、仕事を続けたいと考えている。ライフステージに応じてパート、短時間勤務、ワークシェアリング等多様な働き方を認め、互いに助け合うことを提案したい。

「短時間なら働く」、「近くなら働く」、「特定の時間帯ならば働く」という働く側の希望と、「繁忙時に働いてほしい」、「経験を生かした仕事を手伝ってほしい」といった雇用者側の希望をマッチングさせるしくみが必要である。

<必要と思われる施策>

- ① ワークシェアリングやスポット業務などの短時間勤務を活用するための調査・検討
- ② 短時間勤務を促進する給与制度や保険制度の整備
- ③ さまざまな求人と求職者を結びつけるためのきめ細かい求人サイトの整備

イ 出産休暇・育児休暇が取りやすい環境の整備等

(ア) 代替獣医師の確保

女性獣医師が安心して出産・育児休暇を取得し、仕事を続けるためには、理解醸成だけでなく、産休・育休中の代替獣医師の確保が必要である。

小さな職場では、一人休めば、同僚に大きな負担がかかってしまう。大きな職場でも多くの女性獣医師のライフステージが重なれば同様である。女性獣医師たちが職場への支障や気兼ね等なく出産・育児休暇を取得できるようにするために、休暇中には代替獣医師が来てくれることが当たり前、とすることが必要である。休暇制度が整備され、取得も進んでいる公務員獣医師の職域でも、代替職員の確保が必要であることが強く指摘されている。

<必要と思われる施策>

- ① 全国、各職域の定年退職者や再就職希望の獣医師を幅広く登録した獣医師人材バンクの整備
- ② 定年退職者による支援を期待しにくいとされる小動物診療分野の地域相互協力体制の整備、地域密着型のきめ細かい求人情報サイトの整備

③ 代替獣医師の確保のための調査・検討

(イ) 相談体制・情報の提供

仕事と子育てを両立している身近なロールモデルや気軽に相談できる相談者の存在が重要である。結婚や出産を控えている、育児休業中で一時的に職場を離れている、仕事上の悩みを抱えている等の女性獣医師が、気軽に相談できるようなしきみが各職場にあることが理想であるが、これが不十分な場合に備え、包括的な支援センターの設置や相談員の配置などが必要である。

また、精神的につらいことが離職理由の上位にあげられたことから、小動物診療におけるペットロスへの対応を含む、メンタルケアに関する支援も必要である。

<必要と思われる施策>

- ① 仕事と子育てを両立しているロールモデルの紹介、相談員の配置
- ② 包括的な支援センターの設置等による相談体制の整備
- ③ 女性獣医師の活躍促進のための幅広い情報を一元的に提供する総合的な情報プラットフォームの構築

(3) 復職しやすい環境づくり

ア 必要な情報を入手しやすい環境の整備

休職や退職により、一旦職場から離れてしまった獣医師は、離職によるブランク、休職中の情報不足など多くの不安を抱えている。

スムーズな復職を支援するため、気軽に相談できるような仕組みとともに、求人情報をはじめとする復職に係る様々な情報が、容易に得られる仕組みが必要である。さらに、復職のための情報だけでなく、女性獣医師のライフステージや多様な働き方などに対応した幅広い情報を一元的に提供される仕組みが重要である。

<必要と思われる施策>

- ① 休職や退職を経験したロールモデルの紹介、相談者の配置
- ② 包括的な支援センターの設置による相談体制の整備
- ③ 女性獣医師の活躍促進のための幅広い情報を一元的に提供する総合的な情報プラットフォームの構築
- ④ 獣医師人材バンクや地域密着型の求人情報サイトの整備
- ⑤ 職場を離れていても定期的に情報を得られる仕組みの構築

イ 離職中の継続的支援（技術研修等の機会の提供）

一時的にでも職場から離れてしまった獣医師は、離職によるブランク、休職中の情報不足等に加え、技術や経験の不足についての不安も抱えている。

る。復職しない理由にも「自信がない」の回答が少なくなかった。こうした不安を取り除く技術研修や情報交換の場が必要である。その形式について、セミナー形式の集合研修だけでなく、育児等をしながら参加することもできるようにする配慮が必要である。

＜今後必要と思われる施策＞

- ① 復職に向けた新しい技術等の研修の実施
- ② 労働関係法令や就業支援制度等に関するセミナー
- ③ 自宅で隨時受講できるインターネットを用いた研修（e ラーニング）の実施
- ④ 研修・セミナー実施のための資料・教材の作成

6 おわりに

委員会では当初、「女性獣医師支援は今さら必要か」「古い世代の意見が役に立つか（もっと若い獣医師の意見を聞くべき）」、との意見が少なくなかった。しかし、アンケート調査の結果が示され、各委員の長年の実体験やそれを支えてきた思い等が紹介され、議論を重ねるうちに、自らが出産や育児をしながら勤務した時代とは違った、職場に女性獣医師が増えてきたこと等による深刻な状況が認識されるようになった。

アンケート調査は、短期間での実施だったにもかかわらず、4,371名もの獣医師にご協力いただいた。「女性獣医師の就業環境を考えるための参考に、現在の職場の問題点など、ご自由にお書きください」とした問への自由回答が1,900件を超えたことからも、女性獣医師の就業実態や活躍促進への関心の高さとともに、悩みや困難に直面されている獣医師が多い実態が反映されたものと思われた。4,371名のうち、50歳代の男性が1,023名と高い割合を占め、その6割が公務員であったことからも、女性獣医師の割合が高くなっている職場の管理的立場の方々の関心等の高さが伺えた。

お忙しい中、調査にご協力いただいた方々に改めて心から感謝したい。

アンケート調査の自由回答意見の中に、出産、子育て中の女性獣医師への優遇措置に関する意見が多かったことについては既述したが、男性獣医師や出産・育児を経験していない女性獣医師から、女性獣医師が優遇され過ぎている、甘えが助長される、女性間に不公平感が出ている、といった厳しい意見が数多く見られたことについて、ここでも改めて触れておきたい。獣医師全体の理解醸成や支援体制の整備が重要である一方で、女性獣医師一人ひとりが心がけてほしいと考えられることもある。育児等の制約があっても、限られた時間の中で最大限の責任を果たす、配慮してもらう周囲への感謝の気持ちを忘れない、国を挙げた子育て支援対策の充実が待たれるが、急な子どもの病気等に備え自分でバックアップ体制を確保するよう努める、妊娠、出産は個人差が大きく、育児、介護も個々に事情が異なるので、お互いの多様性を尊重すること等。そして、自身の配偶者、親、職場の上司や同僚の理解醸成を積極的に行うことも期待したい。

シンポジウムでは、各職域を代表する委員から、女性獣医師の就業の実態がわかりやすく、リアルに報告され、ふだん知ることのできない他の職域の女性獣医師の実情を共有する貴重な機会となった。報告した各委員はそれぞれの職域のロールモデルである。各委員のご厚意により、報告内容が参考資料（62～106頁）として添付されているので、広く紹介され、活用されることを期待している。

シンポジウムの参加者との質疑やパネルディスカッションでは、それぞれの職場での様々な有効な取り組みが紹介されたが、職域ごとの事情の違い、同じ職域でも規模や経営形態による違い等も浮き彫りになった。同時に、働きやすい条件の整備は経営面と相反することが多く、個々の対応には限界があることも指摘され、日本獣医師会の全国的な取り組みや国の施策に期待する声も多かった。特に、獣医師人材バンク、全国的な相談体制、情報プラットフォームの整備、技術研修の開催や資料、手引書の作成等については、早急な取り組みが求められる。また、小動物診療分野等における代替獣医師の情報共有等の協力体制構築に向け、日本獣医師会と地方獣医師会の連携のもと、整備を進めることが望まれる。

農林水産省の女性獣医師等の就業支援策や日本獣医師会が今後強化して進める幅広い取り組みは、若い世代の獣医師や将来獣医師として活躍する獣医学学生を含むすべての獣医関係者が知って、これらを最大限に活用して、活躍しやすい環境づくりをめざすことが望まれる。そのためには、獣医師会の組織率を高めることも重要であり、加入率を上げるための新たな工夫が必要なのではないか、との議論も委員会ではなされた。

近い将来、獣医師全体の半数を占めこととなる女性獣医師が、出産、育児等を経験しつつキャリアアップもし、自信と誇りをもって獣医師として活躍を続けることができれば、より良い獣医療の提供につながるほか、獣医師をとりまく環境全体の活性化や獣医師の社会的地位の向上にもつながるのでないかと期待する。

女性獣医師が生き生きと活躍を続けられる職場は、男性獣医師を含むすべての獣医師が活躍しやすい職場である。このことを、あらためて関係者全員が共有し、具体的な取り組みを開始し、広げ、継続していただきたいと考える。

女性獣医師支援特別委員会 委員名簿

(委員長)

栗本まさ子 日本乳業技術協会業務執行理事

(副委員長)

稻垣靖子 神奈川県畜産技術センター企画指導部企画研究課
(神奈川県湘南家畜保健衛生所前所長)

(委員)

荒井桂 才ホーツク農業共済組合女満別家畜診療所診療所長補佐
石田真知子 千葉県農業共済組合連合会家畜部診療課係長
及川知子 横浜市栄区役所(福祉保健センター)生活衛生課生活衛生係長
木村哲子 東京都動物愛護相談センター多摩支所統括課長代理(監視第一係長)
嶋田直子 ベリイどうぶつ病院院長
西木千絵 にしき動物病院院長
前田育子 茨城県畜産センター養豚研究所首席研究員兼飼養技術研究室長
三谷邦子 老司どうぶつ病院院長

(以上 10名)

(担当理事)

酒井健夫 日本獣医師会副会長
(兼任: 学術・教育・研究兼獣医学術学会担当理事)

參 考 資 料

参考資料1 シンポジウム「すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて」の開催報告

1 開催状況

平成27年2月13日（金）岡山コンベンションセンターにてシンポジウム「すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて－女性獣医師の就業現場から－」を開催した。

内容は、農林水産省担当官から女性獣医師をめぐる情勢について問題提起に続き、本会女性獣医師支援特別委員会副委員長から中間報告が行われた後、産業動物臨床、小動物臨床、公務員獣医師の各分野の現場の立場から女性獣医師の現状と課題について講演を行った。最後に、各分野の男性管理者をコメンテーターとして加え、すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けた総合討論を行った。プログラムの詳細は以下のとおり。

（1）問題提起「女性獣医師をめぐる情勢」

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 課長補佐 萩窪恭明

（2）報告「女性獣医師支援特別委員会 報告」

女性獣医師支援特別委員会 副委員長 稲垣靖子

（3）分野別現状と課題

ア NOSAIオホーツクにおける現状と課題

オホーツク農業共済組合 女満別家畜診療所 診療所長補佐 荒井 桂

イ 小動物臨床に携わる女性獣医師の現状～一開業獣医の経験から～

にしき動物病院 院長 西木千絵

ウ 公務員女性獣医師の就業現場の現状と課題

茨城県県西家畜保健衛生所 防疫主査 前田育子

（4）総合討論

座長 栗本まさ子（女性獣医師支援特別委員会委員長）

酒井健夫（日本獣医師会副会長）

パネラー 稲垣靖子、荒井 桂、西木千絵、前田育子

コメンテーター 酒井淳一（山形県農業共済組合連合会参事）

市川陽一朗（いちかわ動物病院院長）

新井英人（東京都動物愛護相談センター所長）

2 講演内容

(1) 問題提起「女性獣医師をめぐる情勢」

農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課 課長補佐 萩窪恭明

獣医事に従事する獣医師に占める女性獣医師の割合については、平成 14 年 12 月末では約 18% であったが、平成 24 年では約 28% に増加している。特に、20~30 歳代では半数近くが女性獣医師になっている。また、職域ごとに異なるものの、産業動物診療では約 5% から約 11% に増加するなど、各職域ともにこの 10 年間で女性の占める割合が増加している。現在、獣医系大学の在学者は約半数が女性であることから、今後とも女性獣医師の増加が見込まれている。

一方、平成 24 年 12 月現在、獣医師法第 22 条の届出のあった女性獣医師のうち、無職の女性獣医師は約 7% (750 人) である。女性獣医師が無職である主な理由としては、結婚や出産、子育てを理由とした離職や長期離職による技術力への不安等により再就職をためらうこと等が考えられる。女性医師 (約 1% (581 人)) や女性歯科医師 (約 2% (417 人)) の無職の割合と比較してもその高さが顕著であり、適切な獣医療提供体制を整備する上でも早急な対策が求められている。

政府では、日本経済の再生に向けた取組の中で、「女性が輝く日本」の実現を掲げ、政策を展開している。農林水産省としても、女性獣医師が生涯を通じてその能力を遺憾なく発揮できる環境を整えることが大切だと考えており、生活スタイルに合う職場への復帰や再就職に向けたスキルアップ、女性獣医師の就業環境の整備に向けた雇用者の理解醸成、獣医女子学生が将来を考える上で参考となる活躍する女性獣医師に関する情報提供等に取り組むこととしている。これらの取組の結果、女性獣医師に限らず、獣医師の就業環境の整備が進展するとともに、獣医師の職域・地域偏在が解消されることを目指している。

平成27年2月13日
平成26年度獣医学術学会年次大会（岡山）
@岡山コンベンションセンター

【問題提起】 女性獣医師をめぐる情勢

農林水産省 消費・安全局
畜水産安全管理課



今日の話の流れ ～女性獣医師をめぐる情勢～

- 1 獣医師をめぐる情勢
- 2 獣医師の年齢分布と地域特性
- 3 獣医師の職域別の年齢構成
- 4 女性獣医師に対する就業支援

獣医師をめぐる情勢

2

獣医師の職域分布

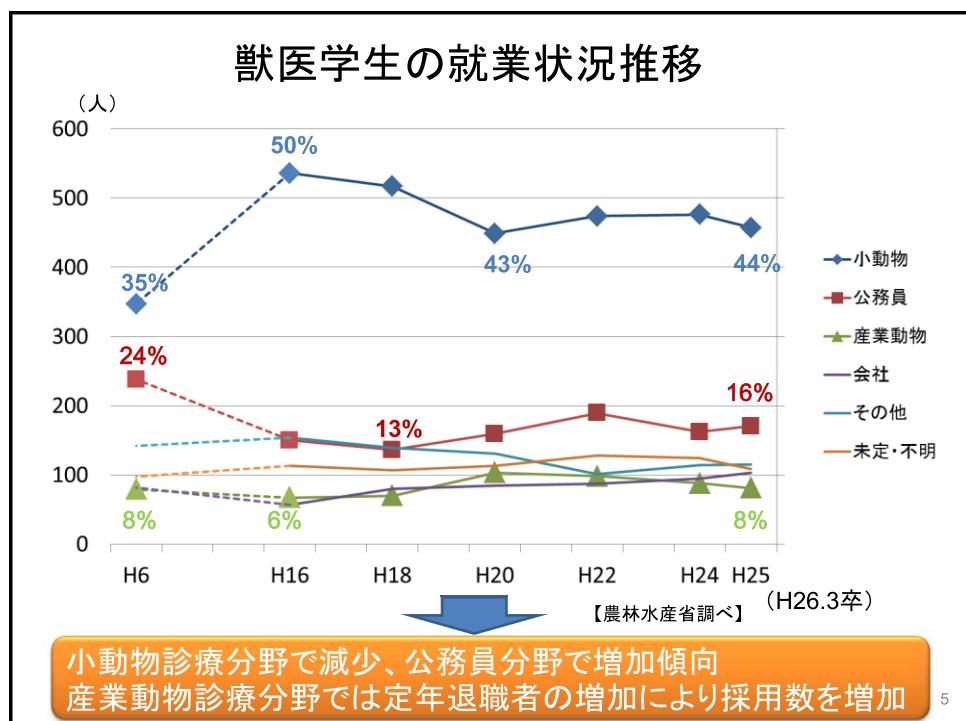
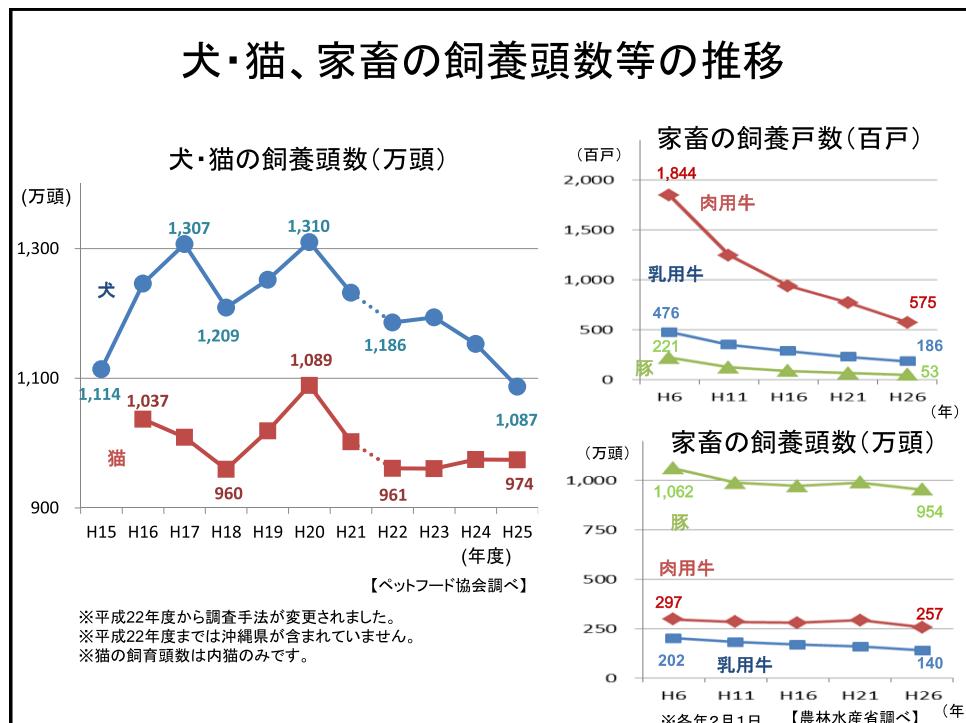
【(人):農林水産省調べ】

分 野	H14	H24	H24/H14
産業動物診療	4,590	4,366	-5%
公務員	9,402	9,237	-2%
うち家畜衛生	3,669	3,444	-6%
小動物診療	9,476	14,640	54%
その他の分野	3,262	5,541	70%
獣医事に従事しない者(無職を含む)	3,993	4,509	13%
合 計	30,723	38,293	25%



獣医師の職域偏在

3



獣医師の地域分布

【(人):農林水産省調べ】

地 域	H14		H24		全国比 H24-H14
	届出者総数	全国比	届出者総数	全国比	
北海道	2,952	9.6%	3,305	8.6%	-1.0%
東北地方	3,064	10.0%	3,013	7.9%	-2.1%
関東地方	7,909	25.7%	12,649	33.0%	7.3%
中部地方	4,834	15.7%	5,529	14.4%	-1.3%
近畿地方	3,817	12.4%	4,968	13.0%	0.5%
中国地方	2,365	7.7%	2,426	6.3%	-1.4%
四国地方	1,206	3.9%	1,326	3.5%	-0.5%
九州地方	4,576	14.9%	5,077	13.3%	-1.6%
合 計	30,723	100%	38,293	100%	



獣医師の地域偏在

6

産業動物獣医師の確保対策

獣医学生等の就業の誘導

- 1 獣医学生に対する臨床実習の実施
畜産地帯の獣医学大学、農業共済診療施設等での臨床実習や都道府県の家畜保健衛生所等での行政実習を実施
- 2 獣医学生に対する修学資金の貸与
月額12万円を上限として貸与
- 3 高校生等に対する修学資金の貸与 (平成26年度から実施)
獣医学入学前に大学へ納付する費用(入学金、授業料、実習費等:175万円)を上限として貸与

基本方針・都道府県計画
(獣医師の確保目標)

卒後研修による獣医師の定着化

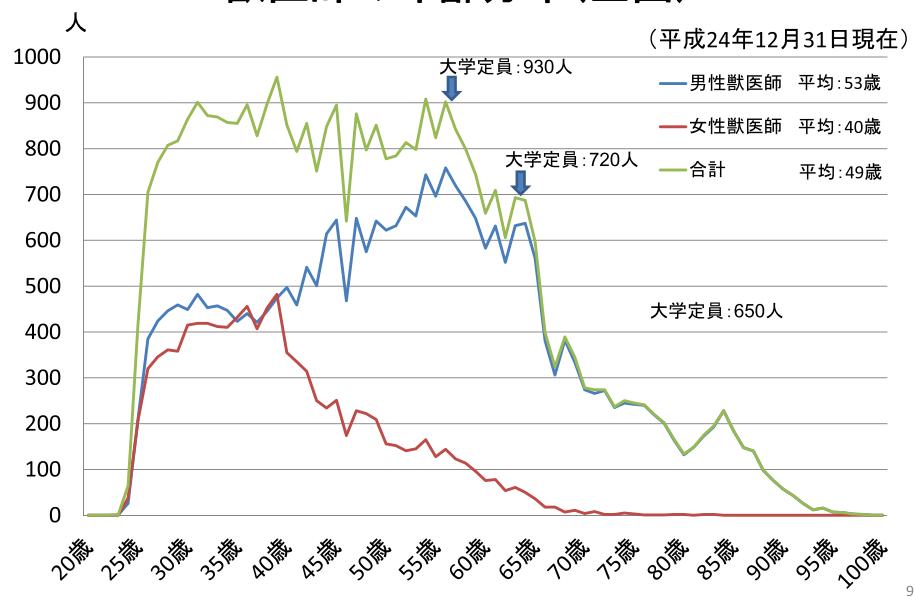
- 1 新卒獣医への初期臨床研修の実施
実践的な診断技術や臨床現場における基礎的知識の修得
- 2 中堅獣医への臨床研修等の実施
農場管理技術や家畜伝染病の衛生管理技術の修得

地域の実情に
応じた
獣医療の提供と
産業動物
獣医師の確保

獣医師の年齢分布と地域特性

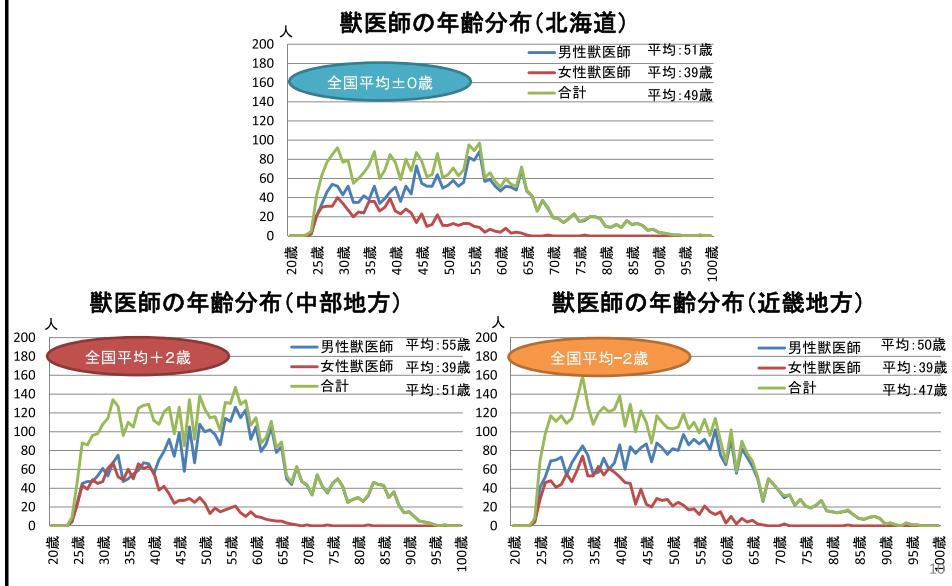
8

獣医師の年齢分布(全国)

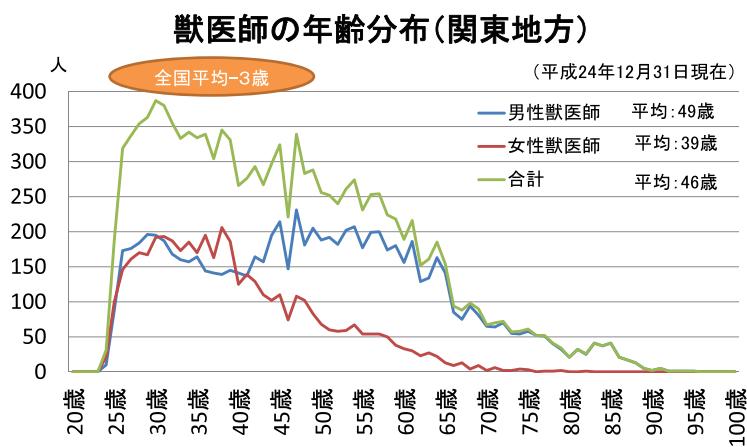


9

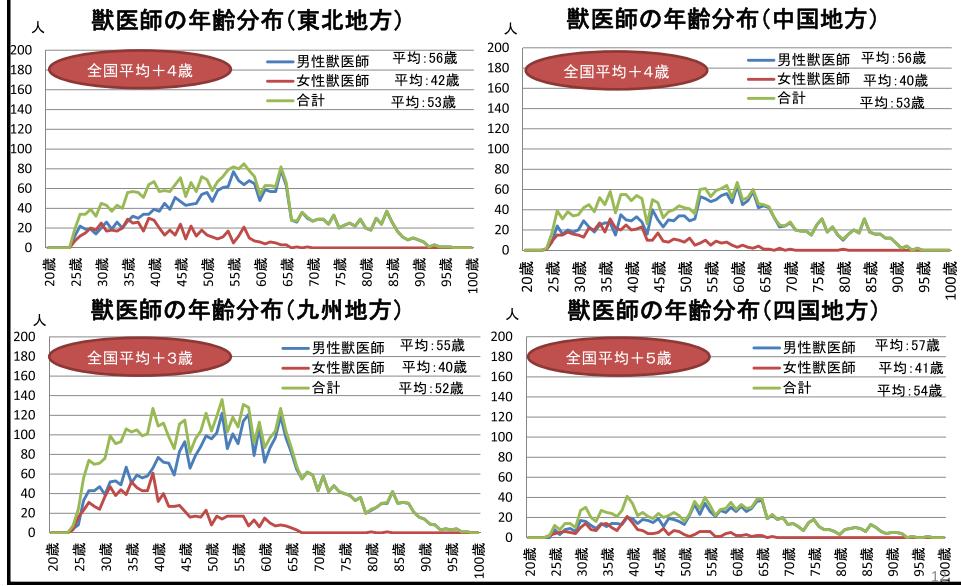
獣医師の平均年齢が全国平均と同等の地域 (全国平均49歳±2歳)



獣医師の平均年齢が全国平均より低い地域 (全国平均49歳-3歳)



獣医師の平均年齢が全国平均より高い地域 (全国平均49歳≥3歳)



獣医師の年齢分布と地域特性(ポイント)

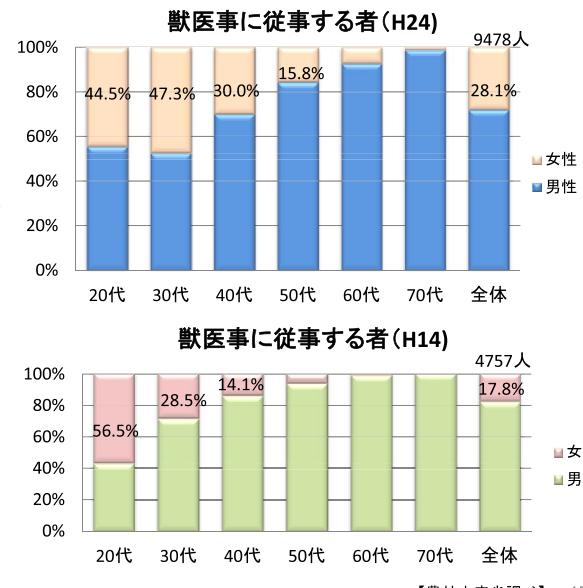
- ① 地域によって、獣医師の高齢化が進展
➤ 新規獣医師の確保に苦慮
- ② 地域を問わず、20~30歳代の獣医師のうち、女性獣医師は約半数

獣医師の職域別の年齢構成

14

獣医事に従事する女性獣医師

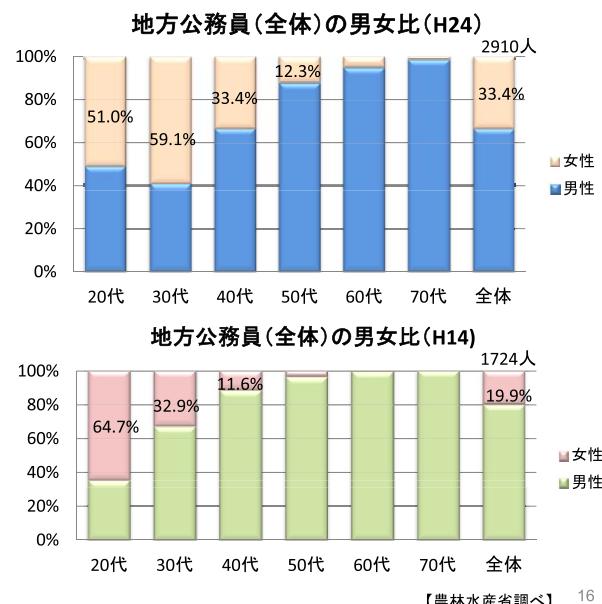
- 全体では、10年間で約7000人(約1.3倍)増加
(H14:約27000人 → H24:約34000人)
- 女性獣医師は約3割で、20~30歳代では約半数
(10年前:約2割)
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.6倍
(H14:17.8% → H24:28.1%)



【農林水産省調べ】 15

地方公務員(全体)の女性獣医師

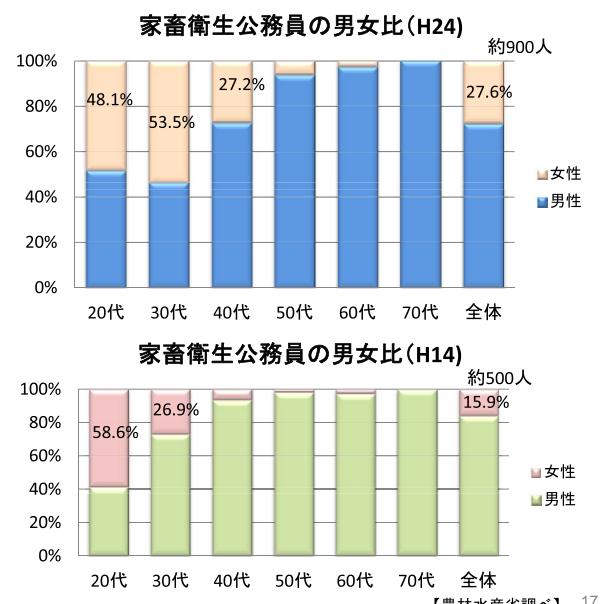
- 全体では、10年間、現状維持で推移。
(H14:8663人 → H24:8702人)
- 地方公務員獣医師の1/3は女性獣医師で、20~30歳代では半数以上
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.7倍
(H14:19.9% → H24:33.4%)



【農林水産省調べ】 16

地方公務員(家畜衛生分野)の女性獣医師

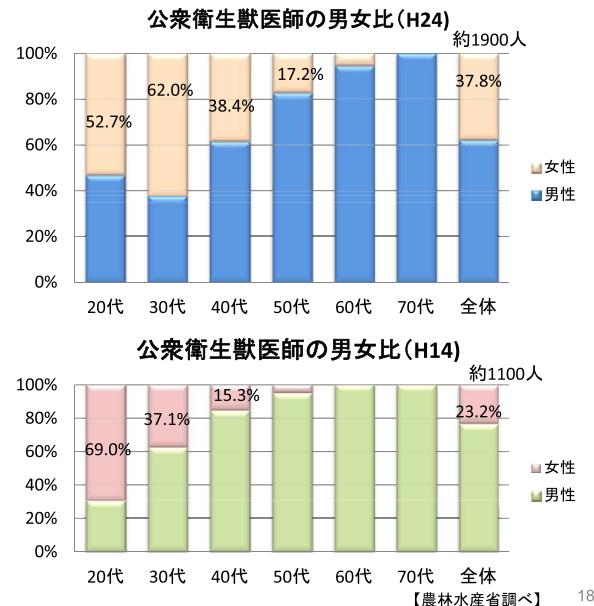
- 全体では、10年間で約200人(約0.94倍)減少
(H14:約3300人 → H24:約3100人)
- 約3割は女性獣医師で、20~30歳代では約半数
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.7倍
(H14:15.9% → H24:27.6%)



【農林水産省調べ】 17

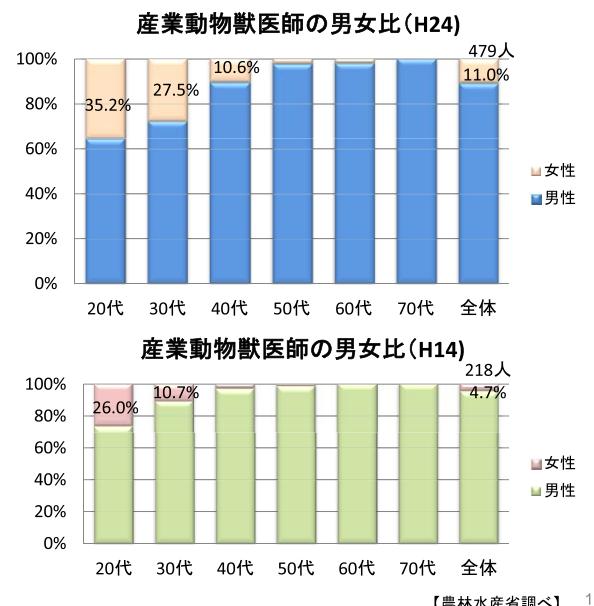
地方公務員(公衆衛生分野)の女性獣医師

- 全体では、10年間で約300人(約1.06倍)増加
(H14:約4800人 → H24:約5100人)
- 約4割は女性獣医師で、20~30歳代では半数以上
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は約1.6倍
(H14:23.2% → H24:37.8%)



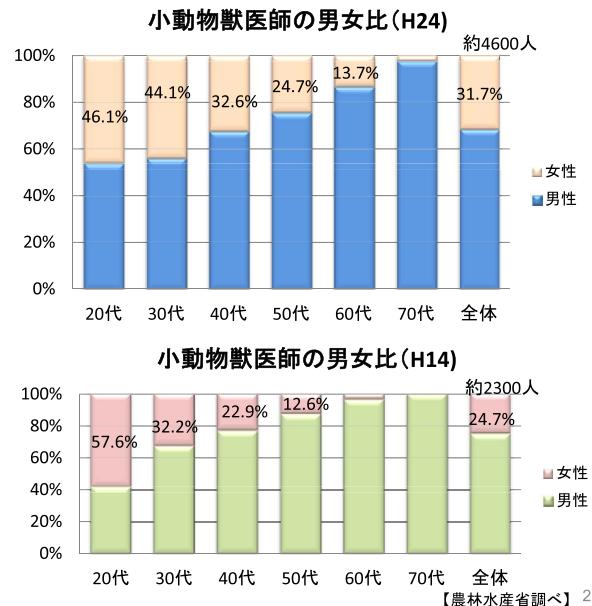
産業動物診療分野の女性獣医師

- 全体では、10年間で約200人(約0.95倍)減少。
(H14:4590人 → H24:4366人)
- 約1割は女性獣医師で、20~30歳代では約3割
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は**約2.3倍**
(H14:4.7% → H24:11.0%)



小動物診療分野の女性獣医師

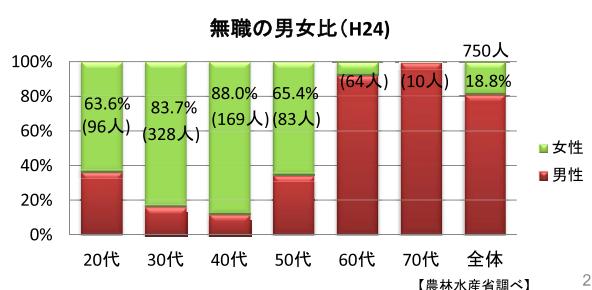
- 全体では、10年間で約5000人(約1.5倍)増加
(H14:約9,500人 → H24:約1.5万人)
- 約3割は女性獣医師で、20~30歳代では約4.5割
- 10年前と比較した場合、女性獣医師は**約1.3倍**
(H14:24.7% → H24:31.7%)



無職の女性獣医師

- 獣医師約3万8千人のうち、
 - 60歳未満の女性獣医師は約1万人
 - 約7百人(6.8%)が無職
(無職男性獣医師:約2百人(1%))
- 無職の者のうち、
 - 女性は約2割
 - 60歳未満では約8割
- 一方、
 - 無職の女性医師:約1%
 - 無職の女性歯科医師:約2%

年齢	届出者総数	獣医事に従事する者		無職		
		うち女性	うち女性	うち女性	うち男性	
20代	3,587	1,630	3,587	1,524	151	96
30代	8,809	4,319	8,364	3,955	392	328
40代	8,176	2,593	7,908	2,372	192	169
50代	8,204	1,372	7,998	1,267	127	83
60代	5,421	410	4,439	336	820	64
70代以上	4,096	35	1,653	24	2,316	10
20~50代	28,776	9,914	27,857	9,118	862	676
合計	38,293	10,359	33,949	9,478	3,998	750
						3,248



平成26年度 獣医大学の在籍者数

(単位:人)

学年	在籍者数	うち女性		卒業年度
6年生	1,055	486	46.1%	H26
5年生	1,057	524	49.6%	H27
4年生	1,077	535	49.7%	H28
3年生	1,068	539	50.5%	H29
2年生 ^{注1}	1,075	545	50.7%	H30
1年生 ^{注2}	979	487	49.7%	H31
合計	6,311	3,116	49.4%	

【農林水産省調べ】

注1:2年生には、東京大学の獣医学部を含まない。（東京大学は3年次に獣医学科に振り分けられるため）

注2:1年生には、北海道大学及び東京大学の獣医学部を含まない。（北海道大学は2年次に獣医学科に振り分けされるため）

22

獣医師の職域別の年齢構成(ポイント-1)

- ① 獣医事に従事する女性獣医師は、10年間で1.6倍になり、20～30歳代では約半数が女性
- ② 地方公務員の女性獣医師も、10年間で約1.7倍になり、家畜衛生では約3割、公衆衛生では約4割が女性
- ③ 産業動物獣医師は減少しているが、女性獣医師は10年間で2.3倍になり、20～30歳代では約3割が女性
- ④ 小動物診療の女性獣医師は、10年間で1.3倍になり、20～30歳代では約4.5割が女性

女性獣医師が増加する中、産業動物診療分野の増加が顕著な一方、小動物診療分野の増加は低い

23

獣医師の職域別の年齢構成(ポイント-2)

- ⑤ 60歳未満の女性獣医師のうち、**6.8%(676人)が無職**であり、30歳代では7.6%(328人)の女性が無職
- ⑥ 現在、獣医大学の在学者のうち、約半数が女子学生



今後とも女性獣医師の増加が見込まれる一方、医師等と比較しても、無職の女性獣医師の割合が高い

24

女性獣医師に対する就業支援

25

女性獣医師の現状と課題

現 状

働く女性獣医師は、20～30歳代で獣医師の約半数近く



獣医学生の約半数は女性であり、今後も女性獣医師が増加



課 題

- 結婚や出産、子育てで離職する者
- 長期離職による技術力への不安等により、再就職をためらう者



女性獣医師の約7%が無職

年代別(20～50歳代)の獣医師数

年代	届出者総数	無職		うち男性
		うち女性	うち男性	
20代	3,587	1,630	151	96
30代	8,809	4,319	392	328
40代	8,176	2,593	192	169
50代	8,204	1,372	127	83
合計	28,776	9,914	862	446

[農林水産省調べ(H24年12月末現在)]

女性獣医師が生涯を通じて、能力を十分発揮できる環境作りが大切

【日本再興戦略 - JAPAN is BACK -】

「職場復帰・再就職支援」、「女性役員・管理職の増加」等により、女性が輝く日本を作るための政策を実施

26

獣医師への就業支援対策

- > 結婚や出産、子育てで離職し、再就職をためらう女性獣医師
- > 産業動物獣医師の業務に不安を感じる女子学生

学生への情報提供

- セミナー
 - (内容例)
 - > 活躍する女性獣医師の体験談（産業動物・公務員等）
 - > 女性獣医師の就業支援対策

実習研修

- > 女性獣医師の職場での業務内容を体験（NOSAや民間診療施設、家保）



ライフプランを考える
機会の提供

女性獣医師のスキルアップ

- e-ラーニング
 - (教材例)
 - > 家畜保健衛生所の業務内容、必要な基礎知識
 - > 家畜伝染病の発生予防・まん延防止対策、飼養衛生管理基準

技術研修

- > 検査技術、診療技術（家畜保健衛生所等）



職場復帰・再就職の円滑化

雇用者の理解醸成

- セミナー
 - (内容例)
 - > 就業環境整備に積極的に取り組む優良事例

研修会

- (内容例)
- > 各種助成制度や関係法令、他業種での取組事例等

ワークショップ

- (内容例)
- > メンター制度やロールモデル普及

就業環境の向上

女性獣医師をめぐる情勢(まとめ)

女性獣医師に対する就業支援対策を講じることにより

各分野の課題を把握・分析し、
きめ細やかな対策に取り組む必要
(知恵と工夫、協力)

- 獣医師全体の就業環境が向上

(2) 報告「女性獣医師支援特別委員会 報告」

女性獣医師支援特別委員会 副委員長 稲垣靖子

【はじめに】

現在、内閣の成長戦略において「女性の活躍が中核をなすもの」と位置づけられ、「女性の活躍推進」に向け、様々な政策が掲げられている。

私たち獣医師の分野でも、獣医系大学の入学者の半数は女性が占め、女性獣医師の割合は年々増加している。

一方、出産や育児により離職し、復職が困難な状況にある女性獣医師も少なくないことが指摘されている。

このような状況のもと、女性獣医師が働きやすい環境づくりを目指すことは、すべての獣医師が活躍できる環境づくりにつながるものであり、日本獣医師会では、女性獣医師支援特別委員会を設置し、活動を開始した。

【これまでの活動状況】

第1回委員会（平成25年11月13日）

第2回委員会（平成26年6月3日）

第3回委員会（平成26年8月26日）

昨年度は、①女性獣医師の現状と支援対策、②獣医療提供体制整備推進総合対策事業（農林水産省補助事業）について意見交換し、同事業で実施する「獣医師の就業環境等に関する現況調査」と連携していくこととした。

今年度は、同調査の結果の概要や、各委員の経験等に基づき、獣医師の各就業現場における現状と課題、必要な対策について検討をすすめ、10月に中間報告をとりまとめ、理事会に報告した。

【獣医師の就業環境等に関する現況調査】

①調査目的 女性獣医師の就業環境の実態を把握し、就業支援のための基礎資料とする。

②実施期間 平成26年1月17日～2月16日

③実施方法 インターネットアンケート方式

④回答者 全国の調査協力獣医師 4,371名

内訳 男性67% 女性33%

職域構成比

診療業務 27.8%（産業動物12.3% 小動物13.5%）

診療以外の獣医業務 65.5%（公務員56.0%）

その他 6.7%

【調査結果の概要】

(1) 獣医師が抱えている不安

(ア) 労働条件

労働条件については職域による差が大きく、「労働時間が長い」「休暇がとれない」と感じている割合は、小動物診療では男女とも約7割と高いのに対し、産業動物診療では4割、公務員では2割であった。小動物診療は、個人や小規模施設が多いことから、労務環境が十分に整備されていない実態が伺えた。一方、公務員では「給料が少ない」とする割合が半数を超える、「期待していた仕事の内容でない」「やりがいを見つけられない」とする割合も診療分野と比較して約3割と高く、公務員獣医師の人材確保には待遇改善が課題であることが伺えた。

(イ) 技術や知識経験

「技術的に自信がない」「知識や経験が不足している」と感じている割合は、各職域とも女性の方が高く、産業動物診療69%、小動物診療63%、公務員55%と半数を超えた。ただし、技術や知識等については経験年数によって左右されることから、男女の年齢構成の差が影響していると思われ、獣医師資格取得後の実践的な研修システムの構築が求められていることが伺われた。

(ウ) 仕事と妊娠や育児等との両立

「妊娠中の仕事の継続」、「仕事と育児や家事との両立」について、不安を感じている女性は多かった。特に、「妊娠中の仕事の継続」については、産業動物診療で7割、小動物診療6割が、公務員でも3割と、多くの女性獣医師が不安を感じていた。

また、「仕事と育児や家事との両立」、「必要なときに短時間の勤務ができない」と感じている女性は、産業動物、小動物診療とともに約半数を占め、ライフステージに応じたきめ細かいサポートが必要であることが伺えた。

(2) 女性獣医師への就業支援の実態

(ア) 女性が働きやすい職務環境

男女差のない研修や昇任昇格制度、女性用被服の支給、更衣室等については、どの職域でも、比較的整備されているとの回答が多くかった。

一方、「有給休暇の取得しやすさ」については、診療分野で不十分とする回答が多く、特に小動物診療の女性は、過半数が不十分と回答した。

(イ) 子育て支援制度

公務員では、「育児休業や子の看護休暇」「残業や時間外労働」「保育園等への送迎」への配慮など、「子育て支援制度」について、比較的整備されているとの回答が多くかった。一方、診療分野では不十分とする回答が多く、特に、小動物診療の女性では、多くの設問で不十分とする回答が半数を超えた。特に、「産休等の代替者を確保」については、不十分とする回答が多く、産業動物診療で8割、小動物診療で7割、公務員でも5割であった。

このほか、復職のための研修制度、情報の提供、相談窓口の整備、モデルケースの紹介についても、不十分との回答割合が高く、育児や出産休暇の取得、スムーズな職場復帰など、子育てを支援するための就業環境の整備は、必ずしも十分でない実態が伺えた。

(3) 現在無職である女性獣医師の意見

現在無職である女性の意見は次のとおりであった。

離職理由は「妊娠・出産」「育児」「結婚」が多く、復職していない理由は、「育児」「適当な職場がない」「家事」多かった。また、復職については、短時間勤務など条件があれば獣医師資格を生かした仕事につきたいとの回答が多く、家事や育児等と両立しつつ獣医師として働きたいとの意欲をもっていることが伺えた。

【現状の課題と今後の対応】

今回、男女4,000名以上の獣医師の協力を得て現況調査を行った結果、獣医師の就業環境、特に小動物診療は、労働条件、妊娠や出産への配慮、子育て支援制度が整備されておらず、女性獣医師にとって働きやすい環境とはいえない実態が明らかになった。

なお、長時間勤務、休暇がとれない等の労働条件の改善、給与などの待遇改善、卒後研修の充実等は、男女を問わず獣医師共通の課題であり、女性獣医師が働きやすい環境を整えることは、すべての獣医師にとって、ワークライフバランスを保ち、活躍しやすい環境づくりにつながると考えられた。

そこで、女性獣医師の活躍促進のために必要と考えられる施策、具体的な取組みを以下に提案する。

(1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

女性獣医師の活躍を促進することの意義、労働条件の整備など支援策の必要性について、獣医師全体で理解醸成が必要である。特に小動物診療分野では、雇用者のコンプライアンス意識向上、セミナーの開催、手引書の作成など、職場全体の意識改革を強力に進める必要がある。また、今後の獣医療を担う獣医学生に対する就業教育も大切であると考える。

(2) 女性獣医師が就業を継続しやすい環境づくり

女性が出産、育児を経験しつつ、獣医師として就業を継続し、キャリアアップするためには次ぎのような環境づくりが必要と考えられる。

(ア) 勤務形態の多様化の促進 一旦離職しても、短時間勤務など育児と両立できれば復職したいという女性獣医師が多い。ワークシェアリングなど多様な勤務形態を調査検討し、その活用を促進するための給与や保

険制度の整備が必要である。

(イ) 出産・育児休暇を取得しやすい環境の整備

女性獣医師が安心して出産や育児休暇を取得し、就業を継続するためには、意識改革とともに、代替者の確保が必要である。そのため、OBなどを活用した獣医師人材バンク、地域密着型の求人情報サイト、短時間勤務可能な就職希望者の情報共有など、代替者確保を容易にする仕組みの構築が必要であろう。

(ウ) 復職しやすい環境づくり

離職によるブランク、ロールモデルの不在、情報不足等で、多くの女性獣医師が不安を抱えている。その悩みに応え、必要な情報を得られるよう、アドバイザーや相談窓口の設置、技術研修や情報交換の場が必要である。なお、就職のための情報の入手先として、インターネットとの回答が多かったことから、セミナー形式の集合研修のほか、インターネットを活用したeラーニング等も有効であろう。

【おわりに】

近い将来、獣医師の世界でも女性がほぼ半数を占めることとなる。女性獣医師が様々なライフステージのなかで、自信と誇りをもって生き生きと活躍を続けられる職場は、男性獣医師を含め、すべての獣医師が活躍しやすい職場である。このことを、あらためて関係者全員が共有し、よりよい獣医療の提供、獣医師の社会的地位向上につなげて行きたいと考える。

2015年2月13日 平成26年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会

すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて
– 女性獣医師の就業現場から –

女性獣医師支援特別委員会活動報告



神奈川県湘南家畜保健衛生所長
(女性獣医師支援特別委員会副委員長)
稻垣 靖子

1 女性獣医師支援特別委員会

<目的> 女性獣医師のキャリアアップ・就業継続支援

委員長	栗本まさ子（日本乳業技術協会）
産業動物診療	荒井 桂（オホーツク農業共済組合）
	石田真知子（千葉農業共済組合連合会）
小動物診療	嶋田直子（北海道函館市）
	西木千絵（東京都八王子市）
	三谷邦子（福岡県福岡市）
公務員	稻垣靖子（神奈川県湘南家畜保健衛生所）
	及川知子（横浜市健康福祉局）
	木村哲子（東京都動物愛護相談センター）
	前田育子（茨城県県西家畜保健衛生所）

1 女性獣医師支援特別委員会の活動状況

○委員会

第1回委員会（平成25年11月13日）

第2回委員会（平成26年6月3日）

第3回委員会（平成26年8月26日）

第4回委員会（平成27年1月20日）

○アンケート調査（平成26年1月～2月）

「獣医師の就業環境等に関する現況調査」

○中間報告（平成26年10月31日）

女性がより活躍できる環境づくりに向けて

－獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために－

2 アンケート調査

○調査目的

女性獣医師の就業環境の実態を把握し、

就業支援のための基礎資料とする。

○実施期間 平成26年1月17日～2月16日

○実施方法 インターネットアンケート方式

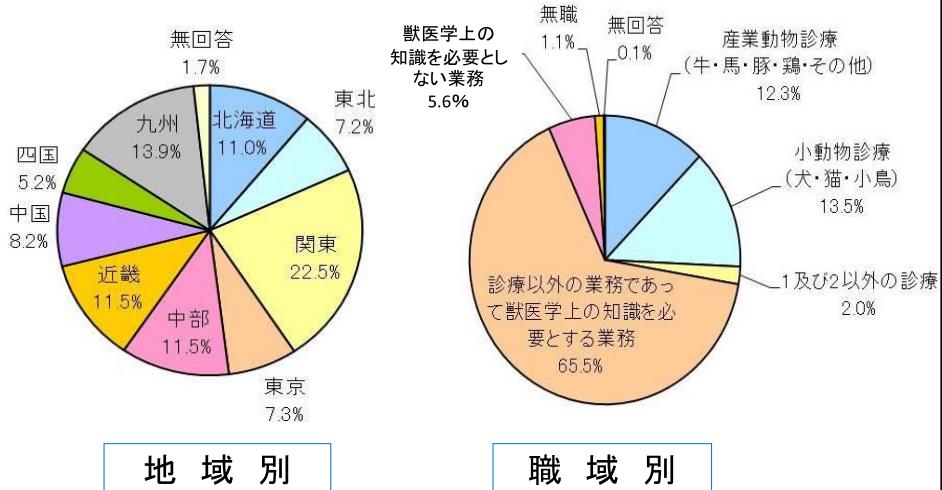


○回答者 全国の調査協力獣医師 4,371名

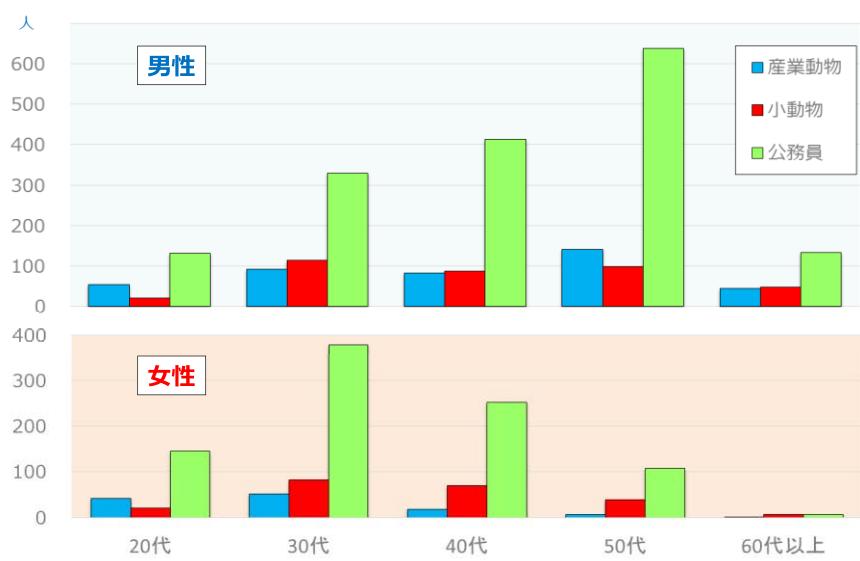
男性2,923名（67%）

女性1,429名（33%）

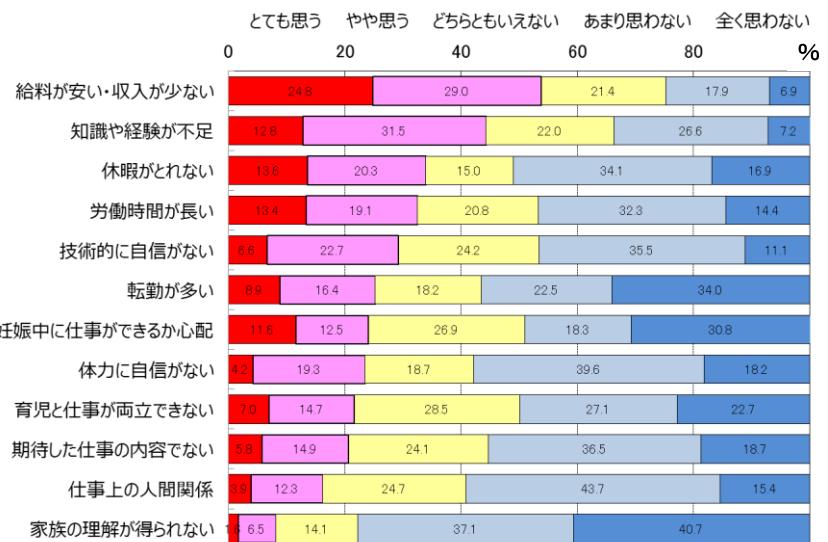
回答者の内訳（地域・職域）



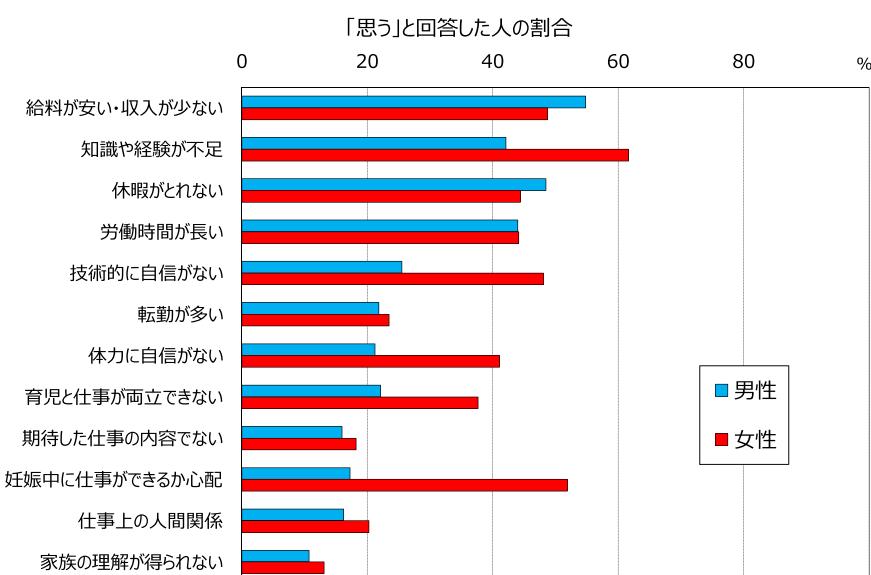
回答者の職域・年齢分布



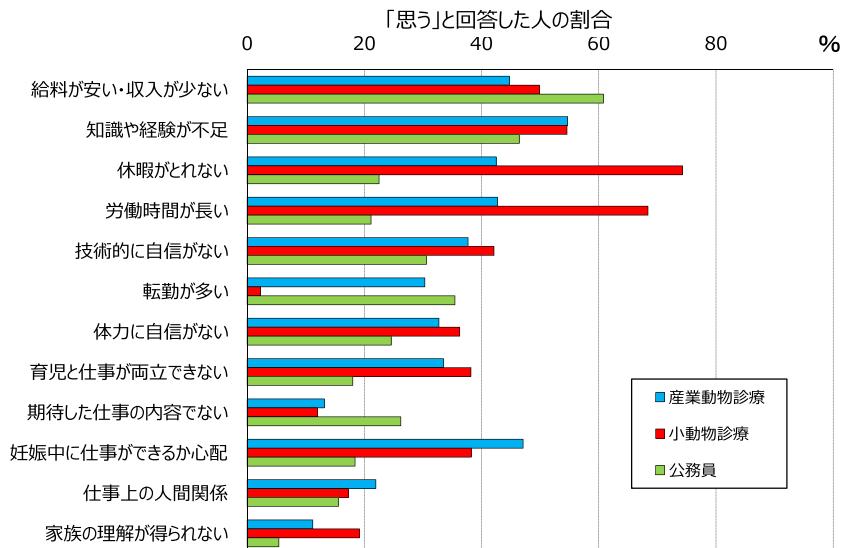
仕事上の不安や負担（全体）



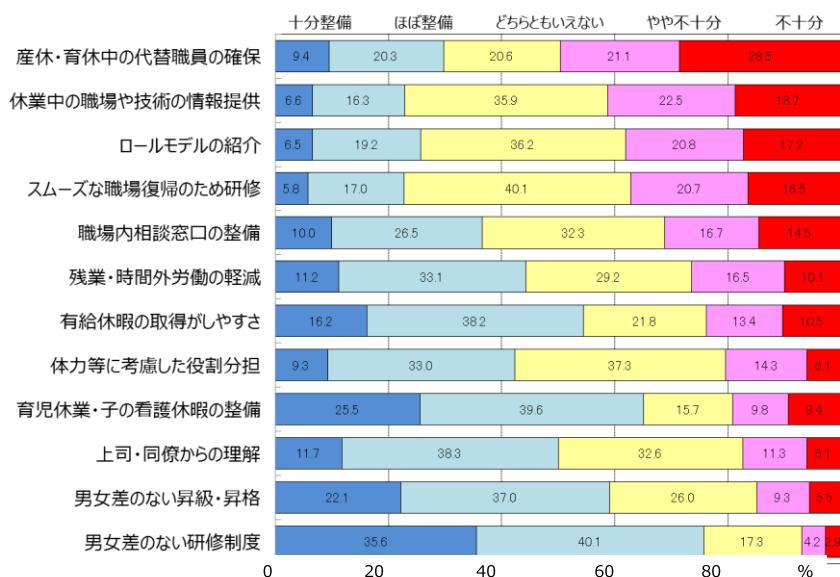
仕事上の不安や負担(男性・女性)



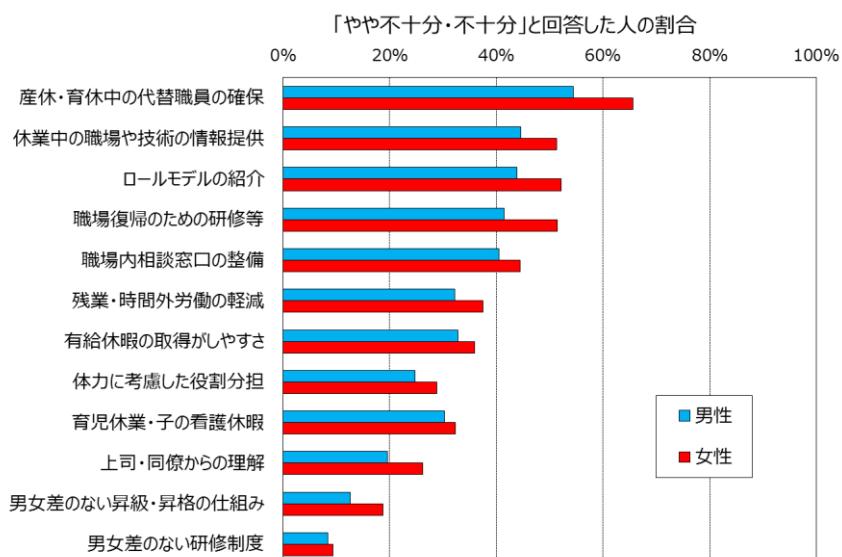
仕事上の不安や負担(職域別)



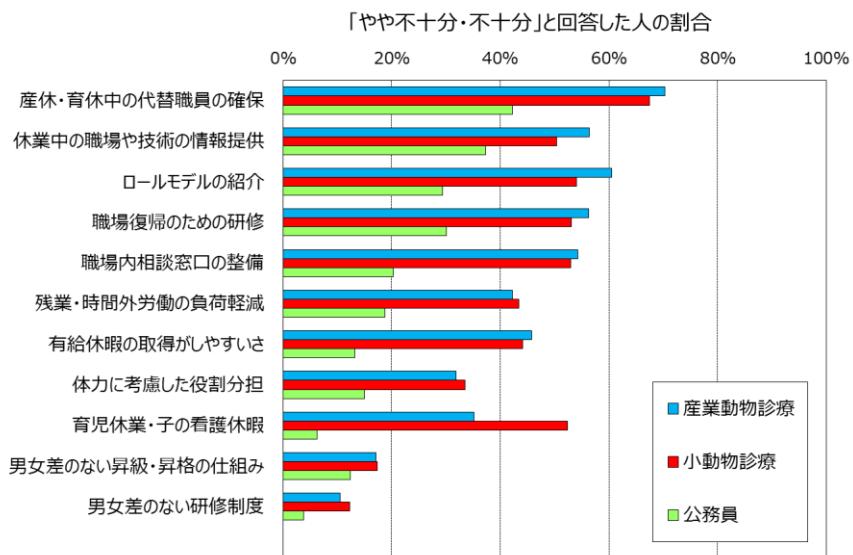
女性の就業支援の整備状況（全体）

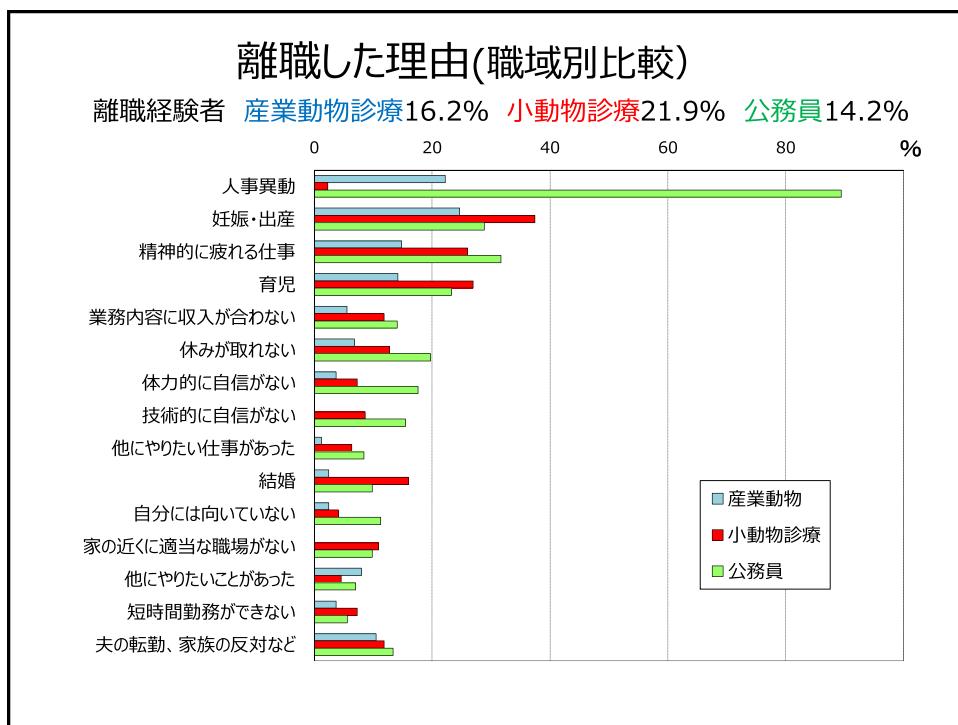
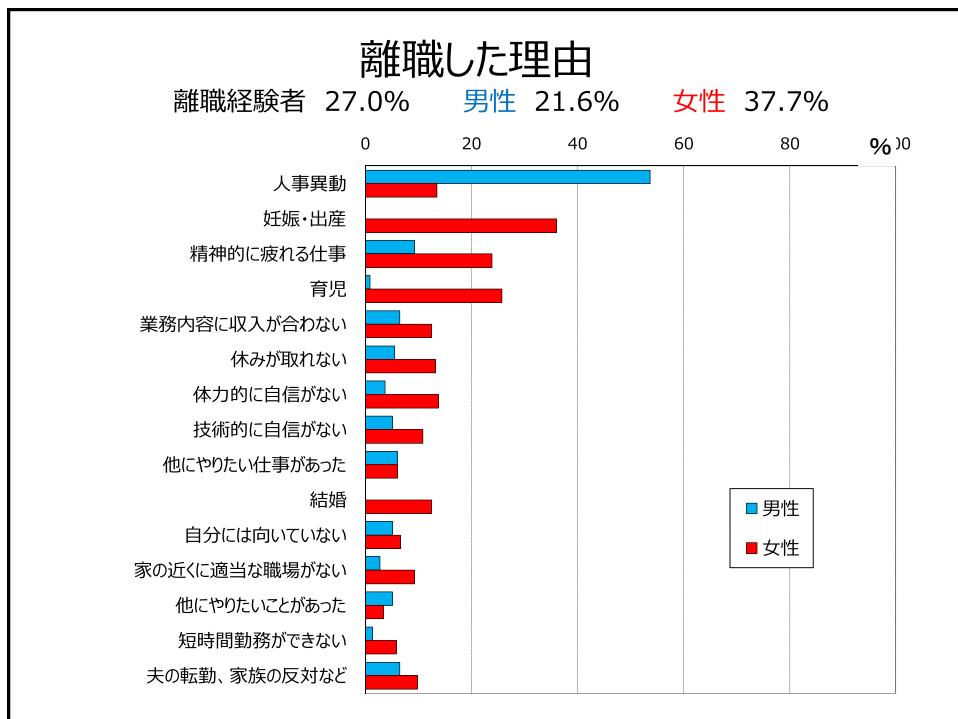


女性の就業支援の整備状況（男性・女性）

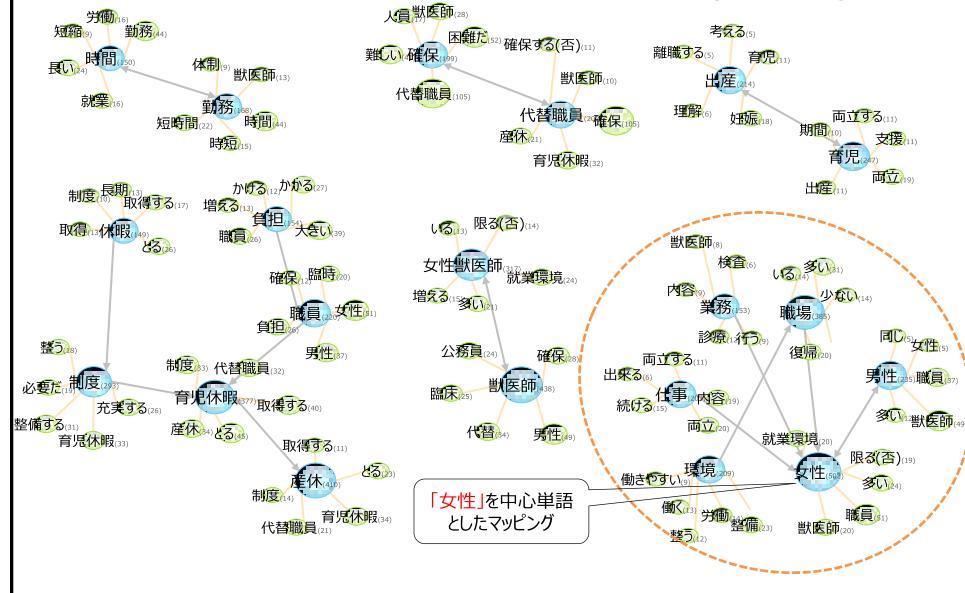


女性の就業支援の整備状況（職域別比較）

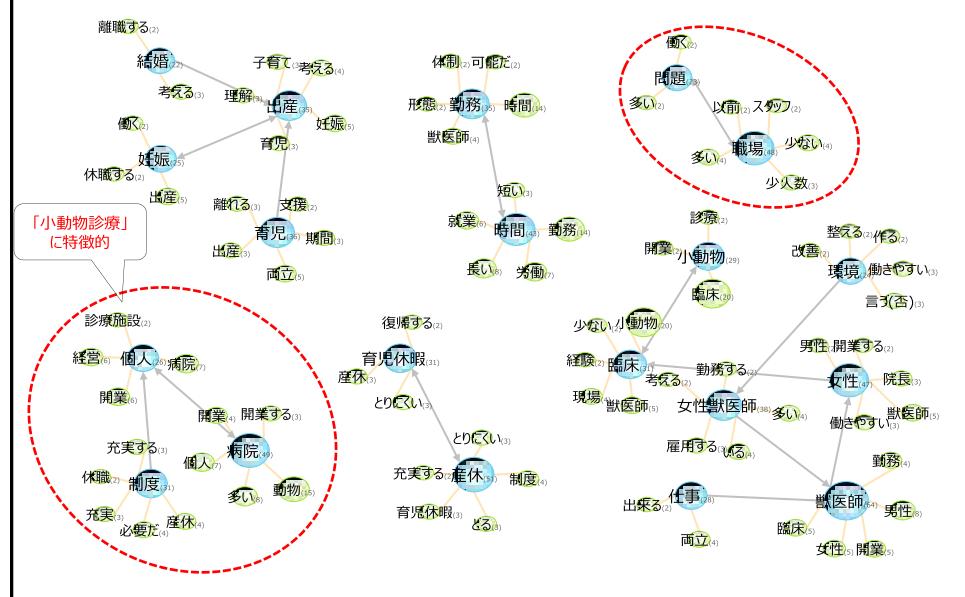




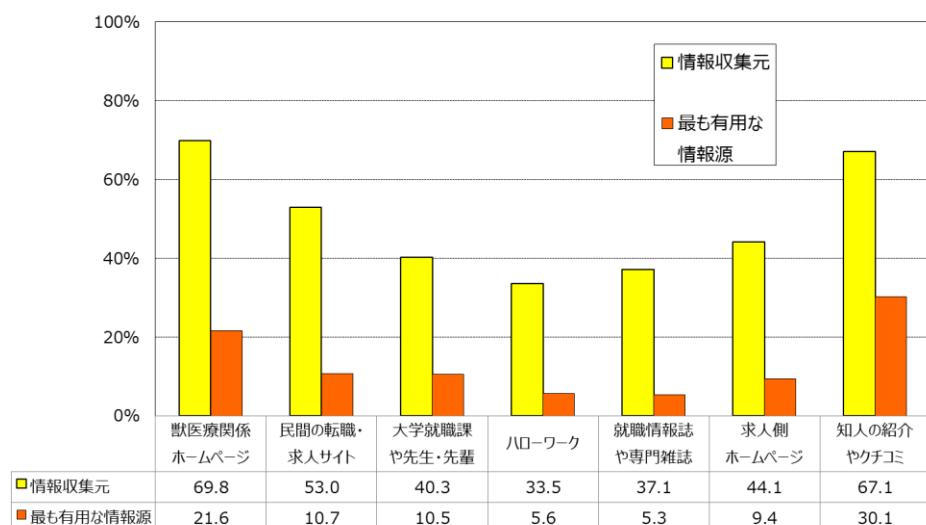
全自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果 (1960人)



小動物診療獣医師からの自由回答 (292人)



再就職のための情報収集について



2 アンケート調査のまとめ

○獣医師が抱えている不安

・女性獣医師の課題

育児と仕事が両立できない・妊娠中の仕事

・男女共通の課題

給料が安い・収入が安い（公務員・20～30代）

休暇がとれない・長時間労働（小動物診療）

知識、経験の不足、技術的に自信がない（20～30代）

○女性の就業支援の実態（不十分との回答が多かったもの）

産休中や代替職員の確保 休業中の情報提供

ロールモデルの紹介、スムーズな復帰のための研修

子育て支援のための休暇制度（小動物診療）

○離職について 離職経験者は27%

離職理由のトップは**人事異動** 女性：妊娠や育児

3 今後の対応

(1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

○ 獣医師全体の理解醸成

- ・女性獣医師の活躍を促進することの意義
- ・労働条件の整備など支援策の必要性

○ 小動物診療分野における就業環境改善

- ・雇用者のコンプライアンス意識向上
- ・労務管理セミナー、手引書の作成など

○ 獣医学学生に対する就業教育

- ・労働関係法令や給与・休暇・保険制度等に関する就業教育



3 今後の対応

(2) 仕事を続けやすい環境づくり

○ 勤務形態の多様化の促進

短時間なら、職場が近くなら、仕事を続けたい。

⇒ ライフステージに応じて、
パート、短時間勤務、ワークシェアリング
多様な働き方を認め、互いに助け合おう



○ 出産・育児休暇を取得しやすい環境の整備

・産休・育休中の代替者の確保が必要

獣医師人材バンク（OBや再就職希望者など）、
地域密着型の求人情報サイト……

さまざまな求人と求職を結びつける仕組みづくり

3 今後の対応

(3) 復職しやすい環境づくり

・休職・離職した獣医師

離職によるブランク、技術や経験の不足、職場の情報がない
多くの不安を抱えている

⇒ 仕事と子育てを両立しているロールモデルの紹介

アドバイザーや相談窓口の設置

再就職のための技術セミナー

インターネットを活用した情報提供

技術情報・求人情報

e ラーニングなどの研修



おわりに

近い将来、女性獣医師が約半数を占める。

女性獣医師が、様々なライフステージのなかで、

自信と誇りをもって生き生きと活躍し続けられる職場は

男性も女性もすべての獣医師が活躍しやすい職場である。

獣医師全体の
ワークライフバランス改善



よりよい獣医療の提供
獣医師の社会的地位向上



(3) 分野別現状と課題

ア NOSAIオホーツクにおける現状と課題

オホーツク農業共済組合 女満別家畜診療所 診療所長補佐 荒井 桂

オホーツク農業共済組合は北海道の東北部に位置し、オホーツク総合振興局管内の4つのNOSAIが合併し、平成20年4月に発足した。合併により獣医師は100名を超え、他に人工授精師、業務職員合わせて200余名の全道で十勝に次ぐ規模の組合になっている。実施している事業は農作物、畑作物、家畜、園芸施設などであり、主に麦、甜菜、馬鈴薯などの農畑作と酪農及び肉牛生産（黒毛和種）を主体とした加入引き受けを行っている。

当地区は、冬期間の寒さは厳しいものの比較的穏やかな気候と日照時間に恵まれ、この気候と土壤を活かし畑作と酪農を中心とした生産性の高い農業を展開しており、日本の食糧生産基地として重要な役割を担っている地域のひとつである。

また当組合管内は、原始の自然がそのまま残されている世界遺産知床を有し、さらに1月の末から3月にかけてはオホーツク海特有の流氷で海が覆われるなど、豊かな自然景観にも恵まれて、春夏秋冬、大勢の観光客が訪れる。

当組合での家畜の引き受け頭数は、平成25年実績で胎子を含み乳牛およそ20万頭、肉牛3万頭、馬500頭、豚1万頭弱、種雄畜33頭などで、現在101名の獣医師がその診療に携わっている。

当組合は臨床現場にいる獣医師99名のうち18名が女性獣医師であり、彼女達の仕事状況、仕事内容においては男性獣医師と比較しても全く差異はなく、管内各診療所で大いに活躍している。女性獣医師の年齢構成は50代40代が2名いるが、ほぼ30代と20代で構成されており、未婚の獣医師が大半である。しかし最近は既婚者が増えており、妊娠中で内勤の人、育児休暇中の既に2人目3人目を産み育てている人など様々である。

子育て中の彼女達を見ていると本当に大変そうで、子供の急な発熱等で仕事を休まなければならないことが多々あり、私達まわりの獣医師はその都度人員をやりくりしてサポートしている。

女性が働いていく中、結婚、妊娠、出産、子育ては当然起こり得る事象であり、それを支えていくために設定されている当組合の職員就業規則から、これらに関する部分を抜粋してみる。特別休暇として結婚1年内の連続する7日間の休暇、産前産後休暇として産前6週間（多胎の場合は14週間）と産後8週間の休暇が定められている。また、育児休業制度として子が1歳になるまで、その他の事情により1歳6カ月までの休業、また復

職後、子1人につき5日間の看護休暇も男女問わず認められ、他にも妊産婦の検診のための制度もある。

獣医師として働く場合、夜間当番があるが、子が小学校へ就学するまでの間、深夜（午後10時から午前5時まで）の業務の制限を請求する事が出来る。また、就業時間を育児短時間勤務として午前9時に始業し午後3時に終業する事も出来る。以前の産前6週、産後8週の休みしかなかった時代に比べると制度も色々と充実してきてはいるが、ぎりぎりの人数で稼動している現状では整備された制度を十分に活用できるゆとりはない。そのため、子供がまだ小さいうちから夜間当番に入り、フルタイムで就業してもらっているのが現状である。

管内9診療所に女性獣医師はそれぞれ1~2名ずつ配属されているが、当組合の本部がある北見家畜診療所は、在籍する獣医師の20名中5名が女性であり、更にその女性獣医師は全員が既婚者で2~3名の小さな子供をかかえながら診療業務にあたっている。このような妊娠、出産、子育て適齢期の女性獣医師が多数在籍する診療所では、様々な問題、軋轢が生じている。

ここにNOSAIオホーツクで仕事と子育てを両立させている女性獣医師たちから寄せられた切実な思いを伝えたいと思う。

妊娠による内勤や育児休業による欠員の補充がなされていない。そのため欠員は内部の人員で補うしかなく、欠員をカバーする獣医師には日中の診療件数の増加と夜間当番回数の増加等により精神的にも肉体的にも負担を強いられる事となる。復職後も夜間当番をしてない事や子の看護ための休暇や早退のたびに子供を持つ女性獣医師は精神的負担が積み重なっていく。職場での理解と協力を得る代わりに、他の獣医師へ負担と犠牲を強いているこの現状を開けて欲しい。彼女達が一番強く思っているのは女性獣医師の妊娠による内勤、出産後の育児休暇の取得が診療所内の他の獣医師の負担とならないような人員配置をして欲しい、ということである。

今のようなぎりぎりの人数だと他の獣医師に負担をかけるという思いから、妊娠が分かっても素直に喜べなかったり、次の子が欲しくても差し迫る業務処理と他の獣医師の疲労などを見ると二の足を踏んでしまうとも言われる。また、妊娠がわかつても内勤にして欲しいと言えず体調不良を我慢してしまう、妊娠中期を過ぎお腹も目だって來たので翌月からの内勤を申請したところ、人手が足りないのでもう少しの間診療に出て欲しいと言われ、まだ外勤を続けているなど組合の人員配置に配慮の足りない部分が多数みられる。

また、組合の広域合併により人事異動も広範囲となり、共働き獣医師の場合、夫婦で協力体制をとて仕事と育児の両立をさせているが、夫婦のどちらかが移動になると遠隔地での宿泊夜間当番となり、仕事をしながら

の子育て全てが母親の負担となるので、子供が小さいうちは夫婦を同一勤務地にして欲しい、などなど様々な思いが寄せられている。

現在、当組合での女性獣医師の結婚相手は同じ職場の獣医師、人工授精師、業務職員、勤務地域の酪農家などが多く、勤務場所への配慮がなければ仕事と家庭の両立は困難になる。前述の当組合の就業規則には、就業場所の変更により子の養育が困難となる場合、組合は子の養育に配慮しなければならない、という規定があるにもかかわらず、人事異動により様々な軋轢が生じているのも事実である。

昨今、獣医学部に通う学生の半数は女性である。獣医師国家試験による免許取得者は、数年も前からその半数は女性である。すなわち、あと10年から20年も経てば獣医師が勤務する職場の殆どはその半数が女性獣医師で占められるということになる。私たち産業動物分野においても間違いなくその男女比は限りなく均等に近づいていくものと思われる。その時、女性獣医師の妊娠、出産、子育てを今のように同僚の獣医師の善意や努力だけで支えていけるものであろうか。そのモデルケースのような当組合の1診療所に起こっている問題は、いずれ全国のNOSAIの全ての診療所で起こり得ることである。

しかし、私たちのように僻地の農村で勤務している獣医師にとって、代替要員など募集しても集まらない現状がある。都会と違い、OBの方々以外獣医師という資格を持った人がいないのである。ましてや明日から牛の診療をしてくれる人など皆無である。

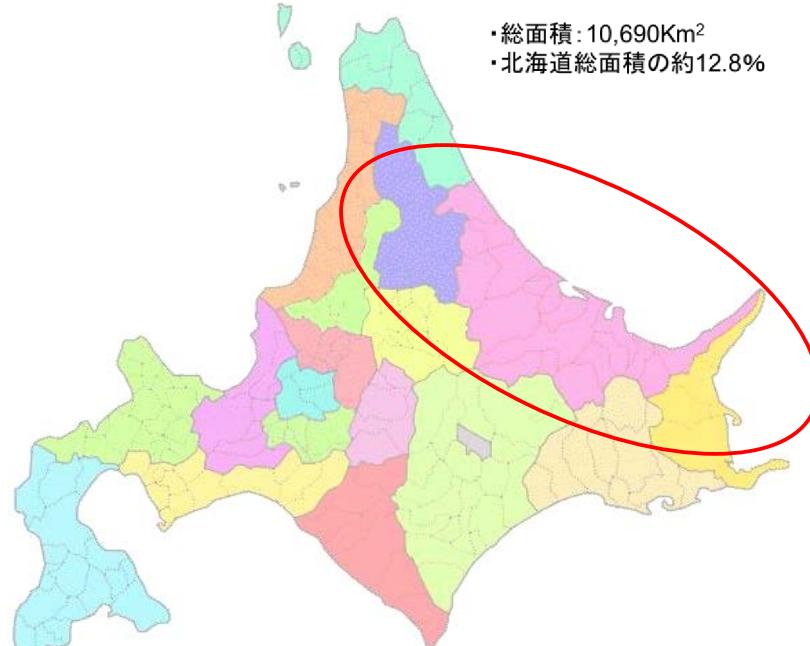
これらの事象から獣医師を雇用する全ての事業主は、雇用した獣医師がいずれ妊娠、出産し、育児休暇においては男女問わず取得するものとし、その対策を講じておくべきと考える。

今、産業動物臨床に就く獣医師が減少していると聞く。そんな中でも高度な教育を受けた若く優秀な獣医師が私たちの産業動物分野を選んで来てくれていることを大変嬉しく、また、頼もしく思う。この優秀な獣医師たちが出産や子育て等の理由で途中離脱することがないように、そして全ての獣医師が適正な労働環境の下で活躍していけるよう、この業界に携わる人々が考えるべき時期はもう既に来ていると思う。

NOSAⅠ オホーツクに おける現状と課題

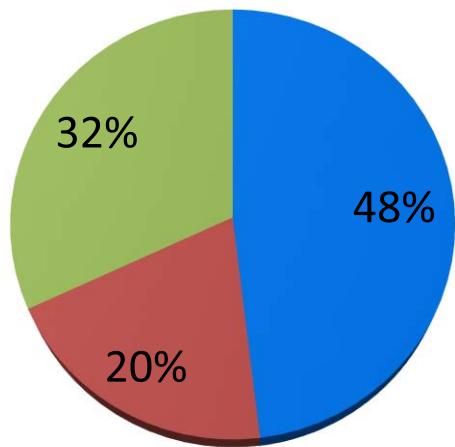
オホーツク農業共済組合 大空支所女満別家畜診療所 荒井 桂

・総面積:10,690Km²
・北海道総面積の約12.8%



職員数内訳

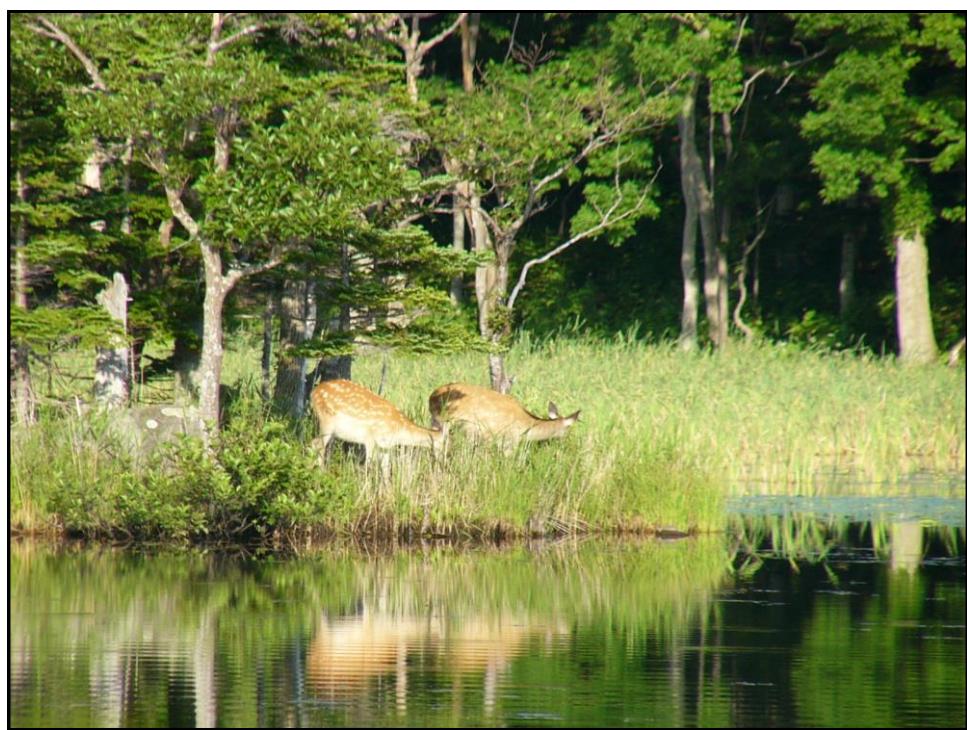
■ 獣医師 ■ 人工授精師 ■ 業務職員



H26.4.1 現在











概要



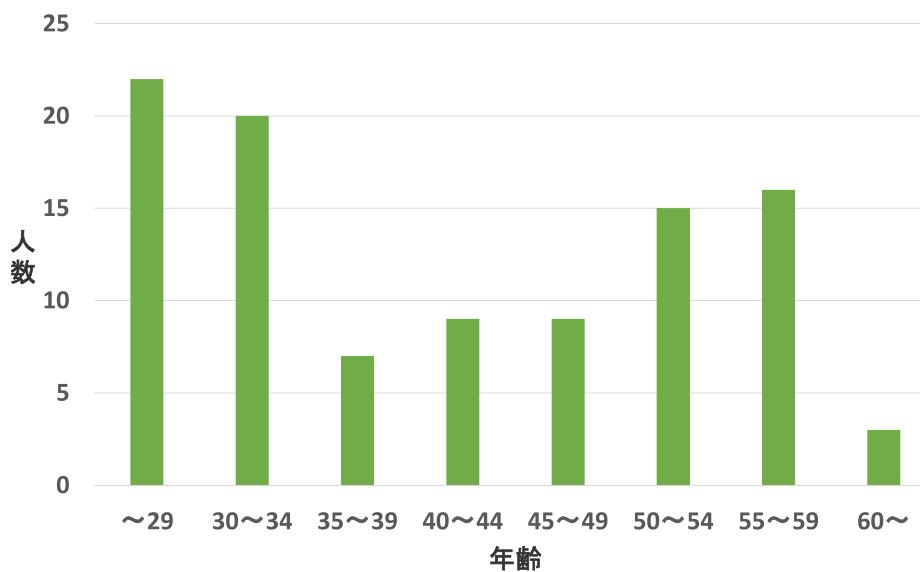
➤NOSAI才ホーツクについて

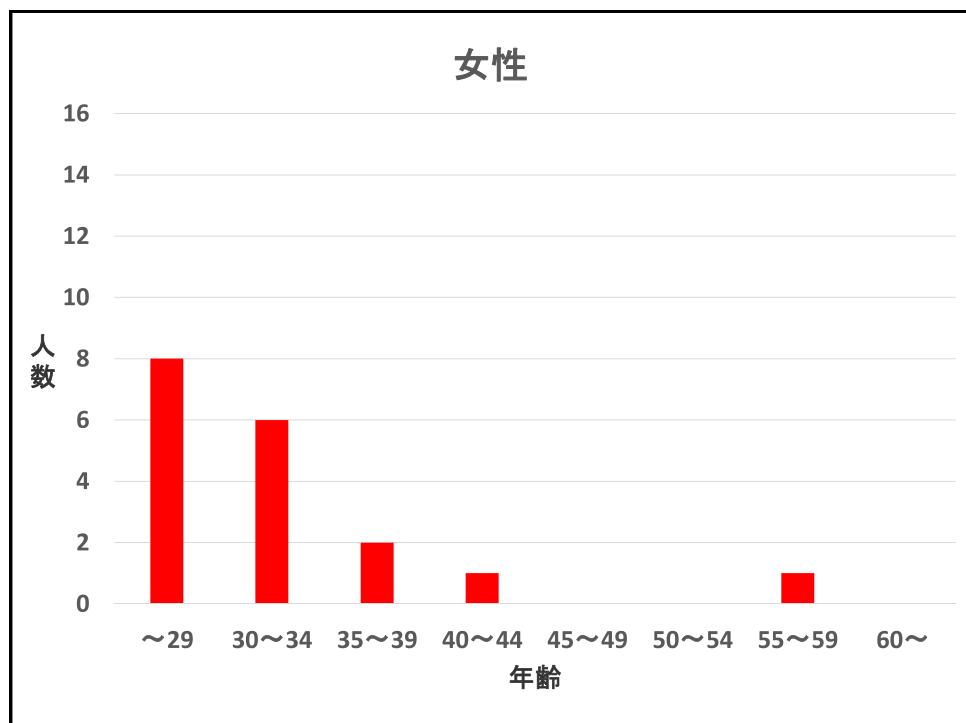
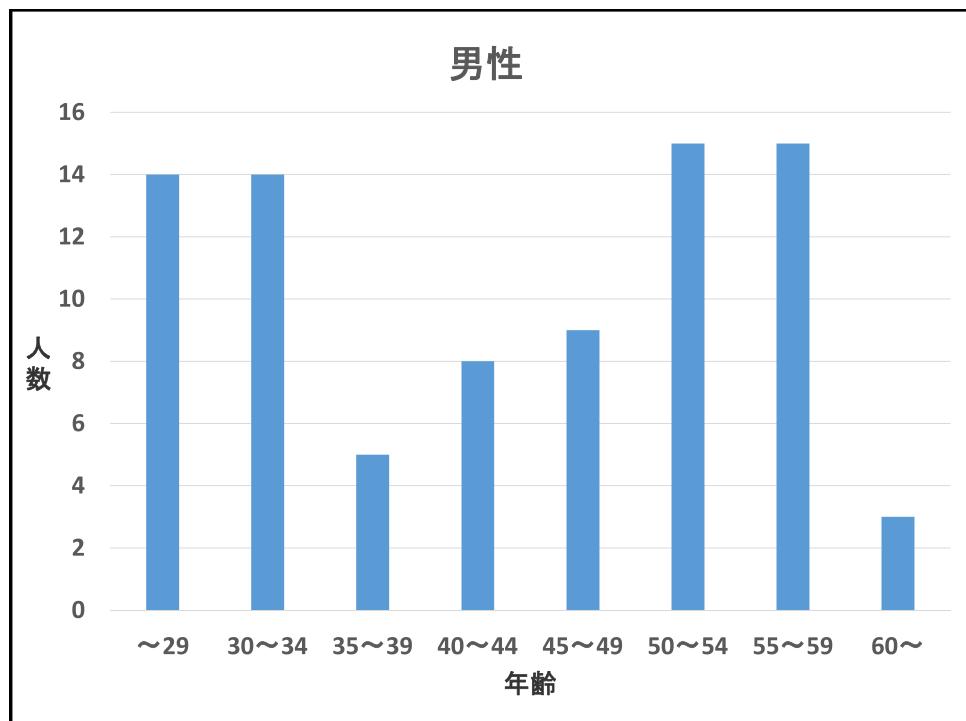
乳牛20万頭 肉牛3万2千頭
獣医師 101名 臨床獣医師99名 女性獣医師18名

➤女性獣医師達の思い



獣医師の年齢構成



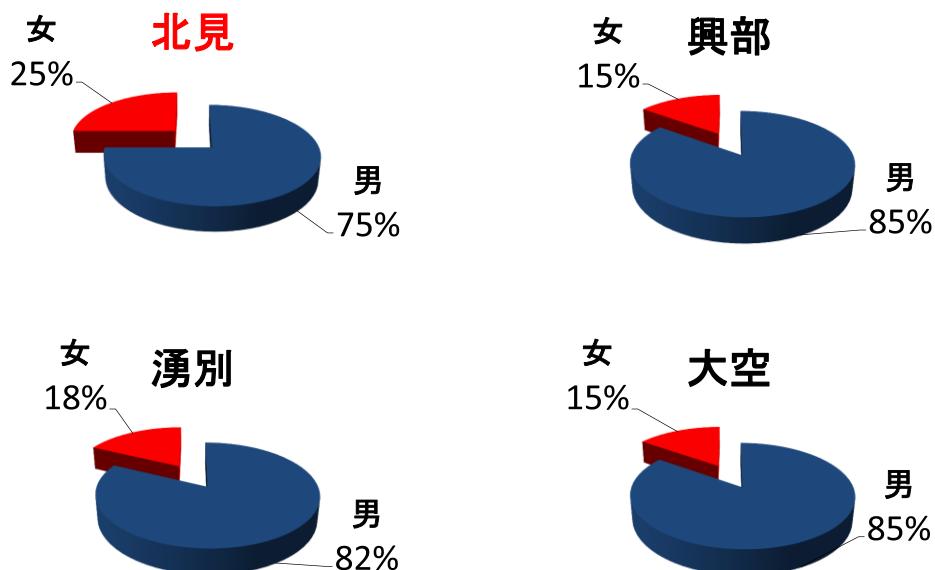


職員就業規則から

- ① 結婚のための特別休暇
- ② 産前産後の休暇
- ③ 育児休業制度
- ④ 看護休暇
- ⑤ 妊産婦検診制度
- ⑥ 育児短時間勤務
- ⑦ 深夜業務の制限



獣医師・支所別男女比

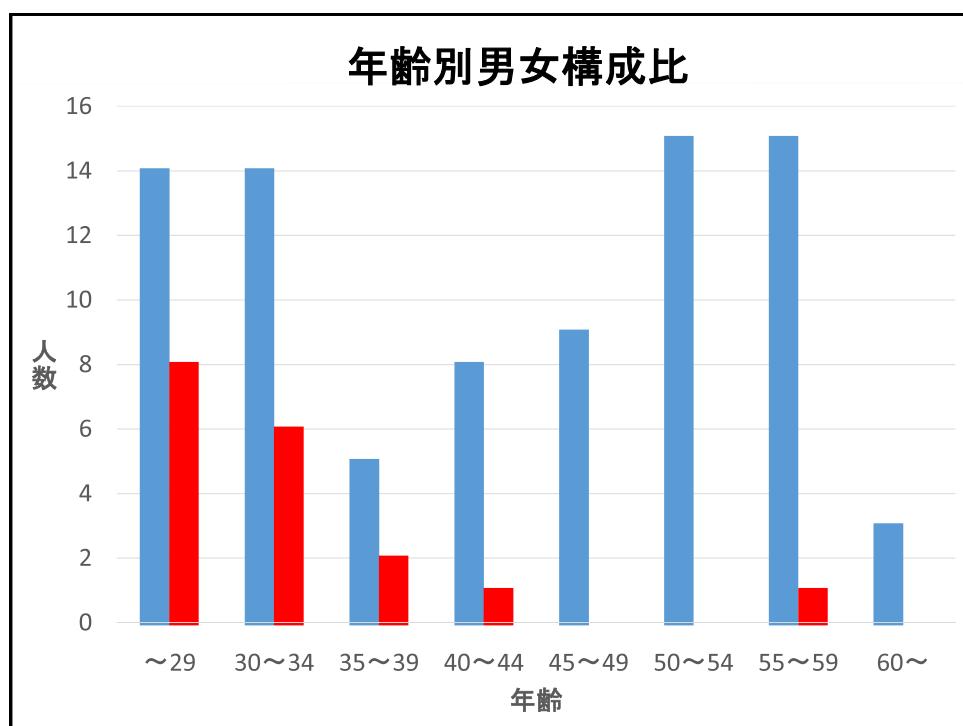
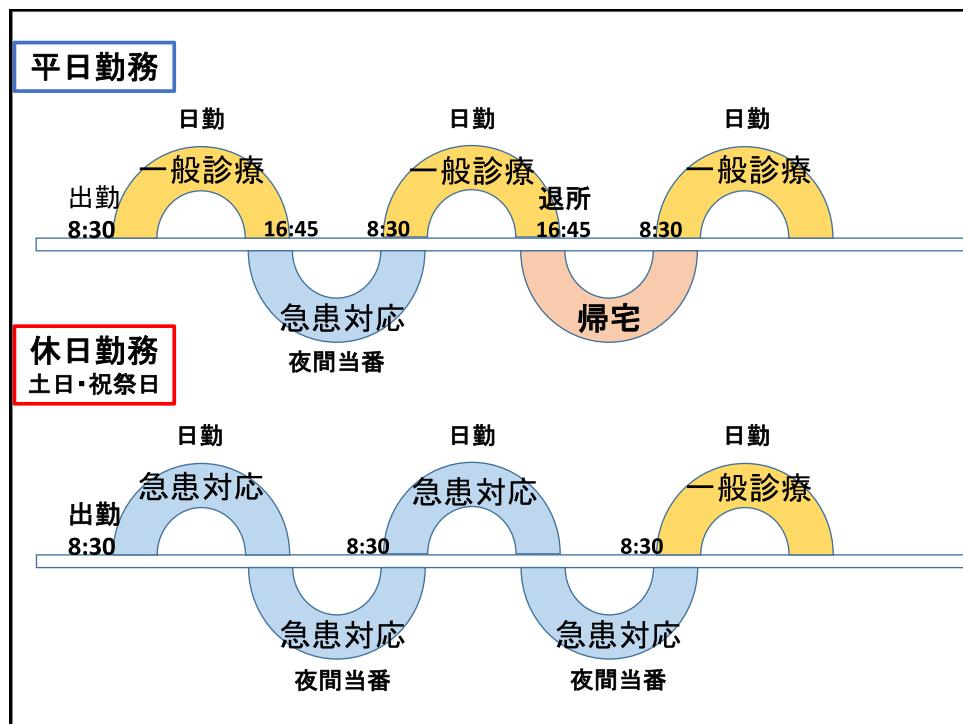


女性獣医師たちの思い

①妊娠・出産・育児などの休暇の取得が
他の獣医師の負担とならないように
欠員補充をしてほしい

②子供が小さいうちは
勤務地への配慮をしてほしい







イ 小動物臨床に携わる女性獣医師の現状～一開業獣医の経験から～ にしき動物病院 院長 西木千絵

【はじめに】

私は八王子市で開業して20年になる。開業は娘が0歳10ヶ月の時であった。開業の挨拶に回った先で「主婦と子育ての合間に出来るほど甘い仕事ではない」と言られた。小動物臨床歴10年での開業であったからもちろんそれも承知の上であった。開業2年目に流産したが、3年目には息子を出産。子供の小さいうちは自分の時間などは持ちようもなく、ただ我武者羅に頑張ってきた。

この私の経験を今回お伝えすることで、3Kと言われてきた小動物臨床の現場が女性だけでなく全ての獣医師にとって、少しでも働きやすくなることを願う。

【小動物臨床現場の女性獣医師の利点】

2014年、第二次安倍内閣は「女性が活躍できる社会の実現」を掲げて当初5人の女性官僚を起用し、女性活躍担当相というポストも出来た。また、百貨店業界においても店長をはじめ女性管理職を増やす動きが出ている。女性目線で客の要望を考慮できる上、職場環境を女性従業員にとってより良い方向に改善できるとの判断である。

現在、獣医学生もほぼ男女同数となり、これからは女性獣医師も戦力として大いに期待される。また女性獣医師側も結婚・育児までの腰掛就職ではなく技術・資格を生かして社会貢献できるようになって欲しい。

動物病院に患畜を連れて來るのも家で看病するのも女性であることが多い。臨床現場に女性がいると言うことは、仕事だけでなく家事や育児を行いながら動物の面倒を見る女性の視点がわかり、これは男性獣医師にも貴重なアドバイスとなるのではないだろうか。

【就業環境に関する現況調査の結果分析】

このたび、我々女性獣医師支援特別委員会が行ったアンケートで小動物臨床獣医師に仕事上の不安を問う設問において、① 労働時間が長い、② 休暇が取り難い、③ 技術・体力に自信がないという回答が顕著に高かった。男性女性を問わず、産業動物臨床・公務員獣医師と比して圧倒的に高い比率であった。

これは小動物臨床現場が非常に厳しいものであり、従事者はかなりの負担を強いられていることに他ならない。我々、小動物臨床従事者は慣習に囚われず自身の為にも職場環境を改善する努力をしていくべきではないだろうか。

【妊娠・出産にかかる負担点】

私が八王子市近辺の女性獣医師に独自に行ったアンケート調査においては、家事・育児との両立を負担点にあげる人が多かった。家事はご主人と二分できても妊娠・出産は100%女性負担、育児も女性が負担する部分が大きい。

労働基準法でも妊娠婦を働かせてはいけない期間が定められているし、男女雇用機会均等法でも妊娠に対する配慮が謳われているが、少人数で仕事をこなしている臨床現場ではなかなか守られていないのが実情である。

私は、第一子妊娠時は8カ月まで神奈川の動物病院に勤務していた。院長は妊娠中の私に配慮して下さり、レントゲン撮影や大型犬の診療からは外していただいたし、つわりがきつい時の早退なども認めて下さった。退職し出産までは臨床に携われないことが寂しく早く復帰したいと願っていたが、いざ育児が始まってみるとこちらの勤務可能時間と病院側の条件が合わずなかなか次の職が見つけられなかった。

現況調査でもあったように復帰までの時間が長引くほど不安感が大きくなる。そのため、この時期での開業を決意した。しかし子供が寝た時間を見計らっての開業準備は寝不足の連続で、非常にきつかった。

開業後の第二子出産時は1日前まで仕事をしていた。出産後20日までは休みをいただいて、診察は代診の先生に頑張ってもらい、オペは同級生が手伝いに来てくれていた。この二人の先生には本当に感謝している。

【育児にかかる負担点】

妊娠・出産は1年のことだが、育児はそれから長い年月が要求される。

私は当時の主人の勤務地の近くで開業した。少しでも育児の負担を主人と分担したかったからである。しかし実際は思うようには行かなかった。まもなく主人は転勤になり1時間半近くの通勤を余儀なくされた。さらに息子が3歳になった時には離島へと転勤が決まった。保育ママさん、保育園、保育園時間終了後の二次保育の手配や、子供の病気や怪我での急な呼び出し、さらに骨折して3カ月も通園できない、全て一人で対応しなければならなかつた。

そんな毎日でも病院に来る動物たちはおろそかにできない。私は女性ならではのきめ細かい看護をモットーにしてきた。1頭1頭の診療にも入院動物の看護にもかなりの時間を要することになる。自然と私の時間は仕事と育児で全て奪われることになった。

小学校に入学すると、運動会・学芸会・保護者会等学校行事への参加や学校のみならず学童保育所までも役員を引き受けなければならない。長期休みにはお弁当を作り、学童やおばあちゃんのいる友人宅に預ける。さらに習い事や塾に行かせることで少しでも子供が一人でいなければならない時間を減らす。でもそれはまた、送り迎えや塾にまでも夕食お弁当持ち込

み、発表会準備等の更なる負担が加算されることになって來るのだ。

中学・高校でもまだ学校行事や役員問題は継続する。我が家の場合は小学校時代によく調べもせぬうつかり進学塾に入れてしまったため本人の希望で私立中学へ入学した。公立なら給食だったが中学から毎日お弁当が必要となつた。さすがに私の負担が増え、それを見かねた娘が自分で朝起きて作るようになった。おかげで早起きが苦手な私の負担がかなり軽減された。

しかし私立中学に楽しそうに通う姉を見て、勉強嫌いなはずの息子まで受験を希望した。同じ中学には行けなかつたが、高校生になつた娘が息子と主人の分までお弁当を作ってくれるようになった。

実は数年前、スタッフ問題のストレスと息子の中学受験が重なり、私は脳梗塞を発症した。中学受験は2月初めの1週間にほぼ集中しているのだが、その間ずっと入院を余儀なくされた。主人と娘が代わる代わる息子の受験に付き添つてくれたが、息子の心情を考えるとつらかった。私自身も右手右足が思うように動かず、採血や手術も出来なくなるのではとの不安に苛まされる入院生活だった。幸い発症部位が良かったのと必死のリハビリが実を結び、今は日常生活に問題はない。担当医からは「二度目が起つたら保証はできない。そして一度目が来た人の90%に二度目は来る」と言われている。私の場合、これが気持ちを切り替える転機となつた。友人と会う機会や楽しいと自分が思えることには積極的に出て行こうと心掛けている。今まで仕事で疲れているし友人と休みも合わない、と機会を作ろうとしていなかつた。

今、育児との両立の真っ只中におられる先生方は、気持ちの余裕もなく育児を楽しむ事など出来ていないことも多いのではないかだろうか。自分が仕事をしていることで子供にも寂しい思いをさせている、と罪悪感を持つことさえある。親が頑張っている姿は必ず子供にも届くし、育児から開放される日は嫌でも来る。子供とも負担を分け合いながら、子供の成長を楽しむ余裕を持ちたい。

【家事・介護にかかる負担点】

八王子でのアンケート結果を見ると、既婚女性においては80%以上の家事を負担していると答えた女性が多かつた。育児に関してはもっと女性の負担率は高い。もちろん女性からの回答であるから男性側はもう少しやつているのに、と思われることもある。女性の目線と男性の目線には違いがある。おそらく100%の仕事量に差があると思う。だから男性が50%家事を負担していると思えても実は女性側から見ればそれが20%である、と思ってしまう事も出てくるのではないだろうか。

私も仕事が休みの日には、たまつた家事を一気にこなす。普通の洗濯や掃除は毎日やっていても、シーツや毛布などの大物洗濯、お風呂の目地やガスレンジ、換気扇、冷蔵庫などの掃除等、普段出来ない仕事が山積みに

なっている。犬もいつもは近所の散歩だけなので、晴れた日には広い公園にでも連れて行ってやりたい。季節の変わり目には衣替えや物置掃除、庭の手入れなどの仕事がある。週1回の定休しかない私には体力的には仕事の日よりきつかった。

しかし主人も島への単身赴任の成果か、戻ってから土日の夕食を担当してくれた。こうした家族の助けがありまた子供たちが成長したこともあるて、最近は少し自分の時間が増え、昼休みに夕食の準備が出来た日など夜の勉強会や好きなテニスに行くことも出来るようになった。

幸い今の所、義母も両親も元気で暮らしているので仕事と介護を両立しなければならなかった経験は私にはないが、近い将来介護が必要になる家族が出るかもしれない。実際、要介護者を家族に持って小動物臨床の仕事をされていた先生は体力的にも精神的にもかなり疲れていらした。

しかし家事や介護は、他の家族や専門家に肩代わりしてもらえる分野である。一人で背負い込むことがないよう周囲の協力を得て両立を成功させていただきたい。

【おわりに】

獣医師に限らず、結婚して家庭を持ち子供を育てながら仕事をしていく選択をする女性が増えている。反面、そのきつさから結婚をせず子供も持たない選択をする女性も増えている。

当院でも今まで3人の獣医師と1人のトリマーが、祖父母との同居なく家事・育児との両立を果たしている。しかし子供の急病などで他のスタッフへしわ寄せが行くこともある。数人の女性スタッフがチームを組んでシフトを補い合えたら理想的であろう。また短期間だけのいわば派遣獣医師も院長の息抜きやセミナー参加、スタッフ穴埋めにありがたい存在になると思われる。

日々命と向き合う臨床獣医師の仕事と家事・育児との両立は本当に大変である、と20年の生活を振り返り思う。私は今まで目の前にあるやらなければならないことをとにかく必死にこなしてきた。しかし全てをうまくやろうと頑張りすぎた、と反省している。

今只中におられる先生方、これからそこに突入する先生方には頑張ることより、上手に逃げる、そして楽しみを増やす努力をしていただきたい。男性方にもどうか周囲の女性への御協力をお願い致したい。

女性が輝いて活躍が出来るということは、男性方にも心地良く生活できる環境を生み出すことにつながる、そうあって欲しいと、切に願う。

小動物臨床に携わる 女性獣医師の現状



～ 一開業医の経験から ～



にしき動物病院
西木 千絵

1 就業環境等に関する現況調査結果から

(1) 仕事への不安を問う設問の回答

- ① 労働時間が長い
- ② 休暇が取り難い
- ③ 技術・体力に自信がない
- ④ 知識・経験不足
- ⑤ 妊娠中の仕事への不安
- ⑥ 仕事と家事の両立に不安
- ⑦ 勤務時間の融通性

① 労働時間が長い

職域	男性	女性
公務員	19.8%	22.5%
産業動物臨床	45.5%	39.7%
小動物臨床	66.5%	70.3%

② 休暇が取り難い

職域	男性	女性
公務員	22.9%	22.1%
産業動物臨床	47.9%	37.1%
小動物臨床	74.6%	74.0%

2 小動物臨床獣医師の妊娠・出産について

妊娠・出産は 100% 女性負担



業務上の問題点

レントゲン撮影

大型犬診察

手術

etc.

2 小動物臨床獣医師の妊娠・出産について

○労働基準法

* 産前42日(女性の請求があれば)・産後56日は
妊娠婦を働かせてはいけない

○男女雇用機会均等法

* 妊娠中の女性に対し、会社は時短勤務や時差通勤等
で配慮しなければならない

○マタニティハラスメント

* 妊娠や出産を理由に違法な解雇や契約打ち切り・
降格などの不利益な取扱いをする

3 育児にかかる負担

育メン？

- * 育児には長い年月が要求される
- * 家事は二分できても 育児はほぼ女性負担

保育園

- デメリット
- ①引き取り時間が早い
 - ②日曜保育が出来ない
 - ③仕事中でも熱発などで呼び出し
 - ④病気や怪我のとき預けられない
 - ⑤終了後の二次保育の手配

メリット

- ①子供の社会性が身につく
- ②親も解放される時間がある
- ③仕事に携わる満足感

3 育児にかかる負担

小学校・学童

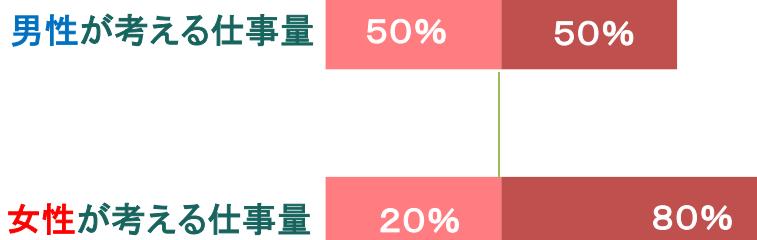
- ①運動会・学芸会・保護者会・個人面談など学校行事への参加
- ②子供一人当たり役員1回
- ③1~3(4)年生は学童保育所に入所
- ④長期休みにはお弁当や祖母出張
- ⑤習い事や塾に行かせて一人の時間を減らす

中学・高校

- ①学校行事・役員問題は継続
- ②毎日のお弁当作り
- ③部活・塾などで帰宅時間調整

4 家事・介護にかかる負担

女性目線と男性目線の違い



5 臨床獣医師との両立

子供の受験

診療のストレス

多忙

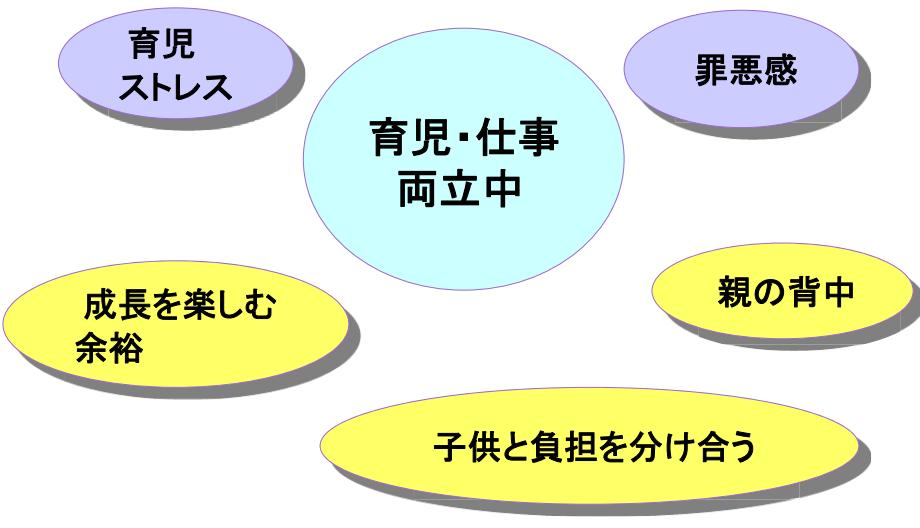
スタッフ問題

脳梗塞

機会を作ろうとしない
友人達と休みが合わない
仕事で疲れている

楽しいと思える時間を持つ
友人達との語らい
リハビリ兼ねたテニス

5 臨床獣医師との両立



6 女性獣医師による動物病院

○にしき動物病院(東京都八王子市)

臨床歴10年で1995年に開業

獣医師3名・看護士兼トリマー3名・トリマー1名

スタッフ全員女性

- ・育児・家事との両立に配慮
- ・皆でできるだけ早く仕事が終わるよう努力
- ・残業手術は最低限の人数で、交代制



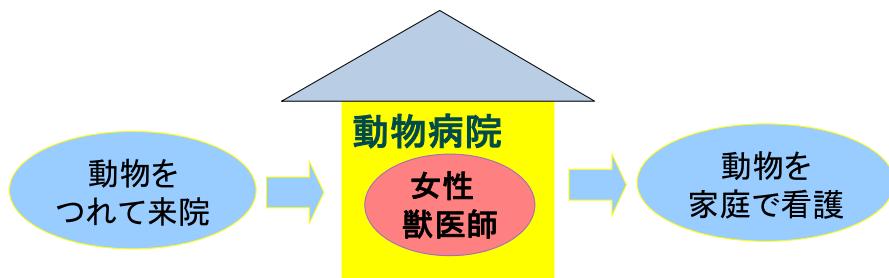
にしき動物病院の診療体制

午前診療		手術・検査・昼休憩	午後診療
9:30~12:30		12:30~15:30	15:30~18:30
曜日	獣医師	看護士 兼トリマー	トリマー
月曜	院長・獣医師 (~18:00)	2名	1名 (~17:00)
火曜	院長・獣医師 (~18:00)	3名	
水曜	副院長・獣医師 (~17:00)・院長	2名	
木曜(休診日)	副院長		
金曜	院長・副院長・獣医師 (~18:00)	2名	1名 (~17:00)
土曜	院長・副院長	3名	
日曜	院長・副院長	3名	

にしき動物病院の
女性スタッフ



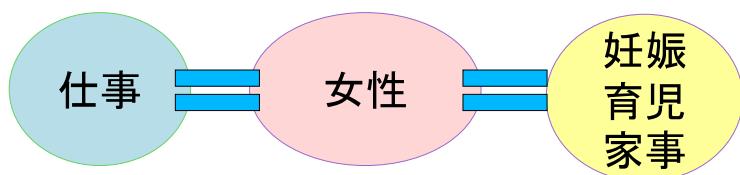
女性獣医師による動物病院のメリット



仕事・家事・育児を行いながら動物の世話をする
女性の視点がわかる

(男性獣医師にも貴重なアドバイス)

女性獣医師による動物病院の課題



にしき動物病院の課題

- ① 育児中は土日勤務が難しい
- ② 人件費がかかる
- ③ 院長に夜間などの負担が大きい
- ④ 欠員補充が困難

7 女性獣医師が働きやすい体制づくり

女性スタッフがシフトを補い合う

⇒ 一つのポストに対し2~3人の女性スタッフが担当する

派遣獣医師の登録

⇒ 短期間の派遣
院長の息抜き・セミナー参加・スタッフ穴埋め

夜間診療施設の充実

8 まとめ

小動物臨床獣医師における就業環境等に関する調査結果

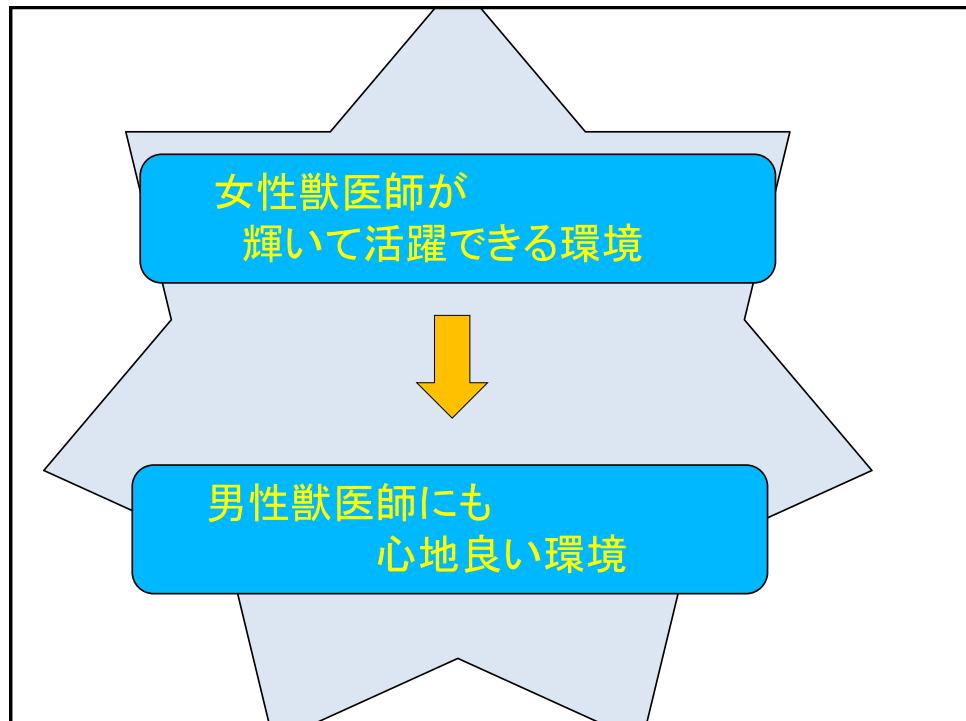
- ①労働時間が長い(男性67% 女性70%)
- ②休暇が取り難い(男性75% 女性74%)



小動物臨床獣医師は男女とも負担が大きい



**慣習に囚われず
職場環境を改善する努力が必要**



ウ 公務員女性獣医師の就業現場の現状と課題

茨城県県西家畜保健衛生所 防疫主査 前田育子

【はじめに】

平成 25 年 9 月、公益社団法人日本獣医師会は、女性獣医師の就業支援を行うために、女性獣医師支援特別委員会を設置した。委員会では、女性獣医師の就業支援を具体的かつ実効性のあるものとするため、「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を行い、勤務環境の現況の把握と就業推進対策、職場環境等の改善対策について検討してきた。

私は、茨城県職員として 27 年間家畜衛生行政に従事し、今回、公務員女性獣医師の立場で本委員会に参加している。本シンポジウムでは、現況調査の結果と自らの経験を踏まえ公務員女性獣医師の就業現場の現状と課題について報告する。

【公務員女性獣医師の現状】

公務員獣医師は、国家公務員、都道府県職員、市町村職員の獣医師のことであり、家畜衛生行政や公衆衛生行政に携わり、高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫、BSE をはじめとする家畜伝染病の予防・まん延防止、動物や人の健康保護、食肉の安全確保のための食肉検査、狂犬病等の予防、食品衛生監視・指導など幅広い分野で活躍し、その業務は急速に拡大、多様化するとともに社会的重要性が高まっている。

平成 24 年末の獣医師法第 22 条の届出によれば、獣医師免許保有者 38,293 人のうち約 24% の 9,309 人が公務員獣医師であり、さらに、その約 30% の 3,111 人が女性獣医師である。

また、現在、公務員獣医師の 20 代、30 代の若い世代では、女性獣医師が約半数を占め、獣医学の在学者の半数が女性であることからも公務員女性獣医師はさらに増えると考えられる。

【公務員女性獣医師の就業等に関する現況調査の結果】

本調査では、公務員女性獣医師の約 27% にあたる 846 名から回答があった（総回答数は 4,371）。そして、公務員女性獣医師が望む就業を継続しやすい環境、復職しやすい環境を明確にするために、公務員女性獣医師が抱えている不安と、現在、実感できている支援や制度、今後必要な支援や制度についてまとめた。

(1) 公務員女性獣医師が抱えている不安

公務員女性獣医師は、労働時間の長さや休暇の取りにくさ、仕事と育児の両立に不安を感じている割合は約 20% と低く、労働環境は配慮されている状況が明らかとなった。

しかし、知識や経験の不足からくる仕事への不安や給料が安いと感じて

いる割合は約50%と高かった。

(2) 公務員女性獣医師の就業支援の実態

公務員女性獣医師は、出産休暇、育児休暇、子育て支援の制度が十分整備されていると感じている割合は約80%と高かった。

しかし、肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備、出産休暇・育児休暇取得者の代替職員の確保、休業からスムースに復帰できるための研修等の充実、休業中も職場の動きや情報が得られるような仕組み、子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介については、約80%が不十分を感じていた。

【公務員女性獣医師の就業現場の課題】

公務員は、育児休暇等の制度が整っており、就業を継続しやすい環境にある。しかし、獣医師の場合、休暇中の代替職員の確保が難しく、他の職員の負担が増えることを申し訳なく感じ、制度を利用するに躊躇するケースもある。代替職員の確保対策（定年退職者の活用、獣医師バンク、公務員獣医師の募集年齢の撤廃、年度複数回の採用試験の実施、定員+ α の採用）は急務であり、対策が整備されてこそ生きた制度となる。

また、技術、知識、経験の遅れが生じることへの不安から制度を最大限（3歳まで育児休業取得可能）活用せず復帰時期を早めるケースもある。休業中のブランクを埋めることができる研修の実施や、情報の提供で不安無く職場復帰できるような支援が必要である。

【まとめ】

公務員女性獣医師が常に「自信と誇り」を持って継続して就業していくためには、段階的な支援を行う必要がある。

第一段階として、女子学生を対象にした公務員女性獣医師（子育て中の職員、管理職）による就職説明会の開催が必要と考える。また、5年前、インターンシップで女子学生を受け入れた際、公務員は、女性獣医師が長く働きやすい職場であることをじっくり話したことがあった。現在、その女子学生は、家畜保健衛生所で勤務し、昨年、結婚をしたところである。このように、大学での就職説明会やインターンシップ制度を活用し、公務員女性獣医師の生の声を学生に伝え、就業現場を理解したうえで就職を決める際の一つの選択肢としてももらえばと思う。

第二段階として、育児休暇等の制度を利用する公務員女性獣医師が、「やる気」を持って就業できるように、配属、仕事の配分、評価、昇進、研修の機会が平等に提供される環境作りが必要である。

そして、第三段階として、公務員獣医師が食の安全確保や、動物や人の健康保護等において重要な役割を果たし、高度な専門知識や技術の研鑽が必要な職業であることに対する国民の理解の醸成、社会的地位の向上と処

遇の改善のための対策が必要である。

先日、新聞に、「リケジョ」「ドボジョ」「けんせつ小町」など、これまで男性が中心的な役割を担ってきた分野に従事する女性を応援する動きが活発との記事があった。我々も、「獣医女（ジュウイジョ）」として社会へアピールして同様に応援してもらいたいものである。

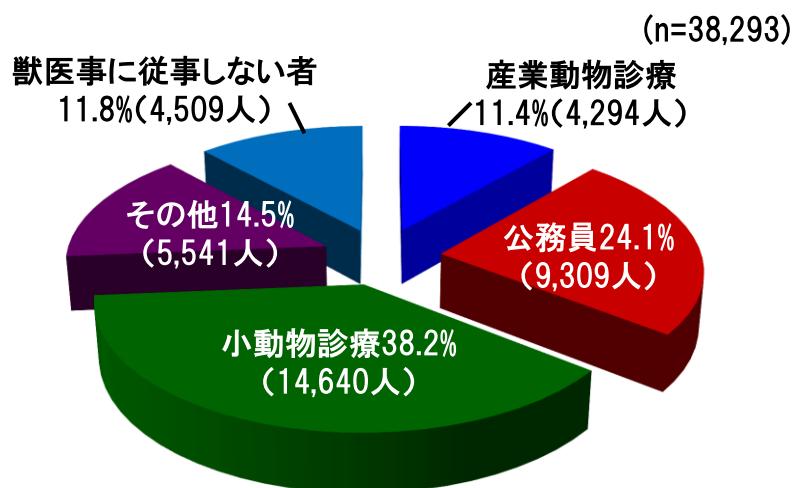
公務員女性獣医師の就業現場の現状と課題

茨城県県西家畜保健衛生所
前田 育子

公務員獣医師の主な仕事

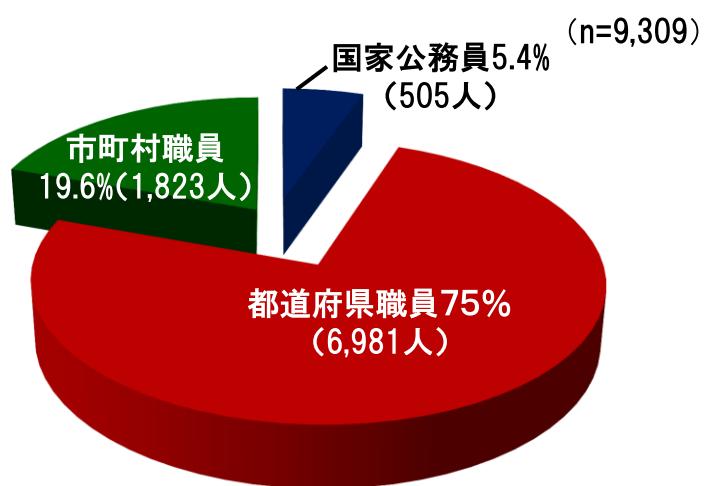
- 家畜伝染病の予防・まん延防止
- 人獣共通感染症対策
- 食肉の安全確保のための食肉検査
- 食品衛生監視・指導
- 狂犬病の予防
- 動物愛護管理や福祉の推進





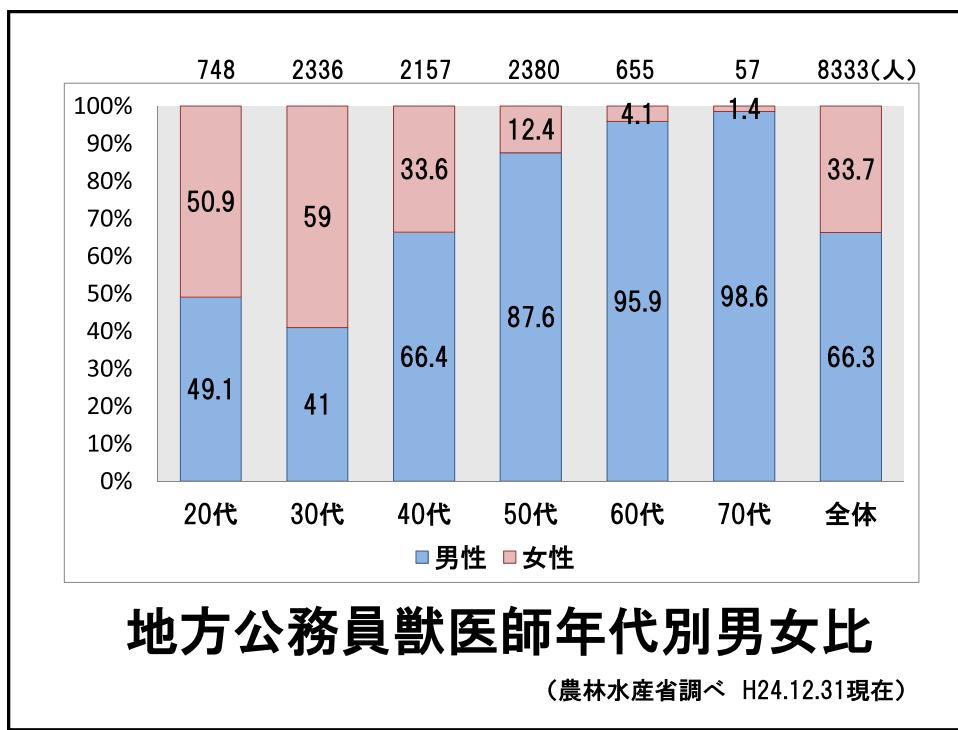
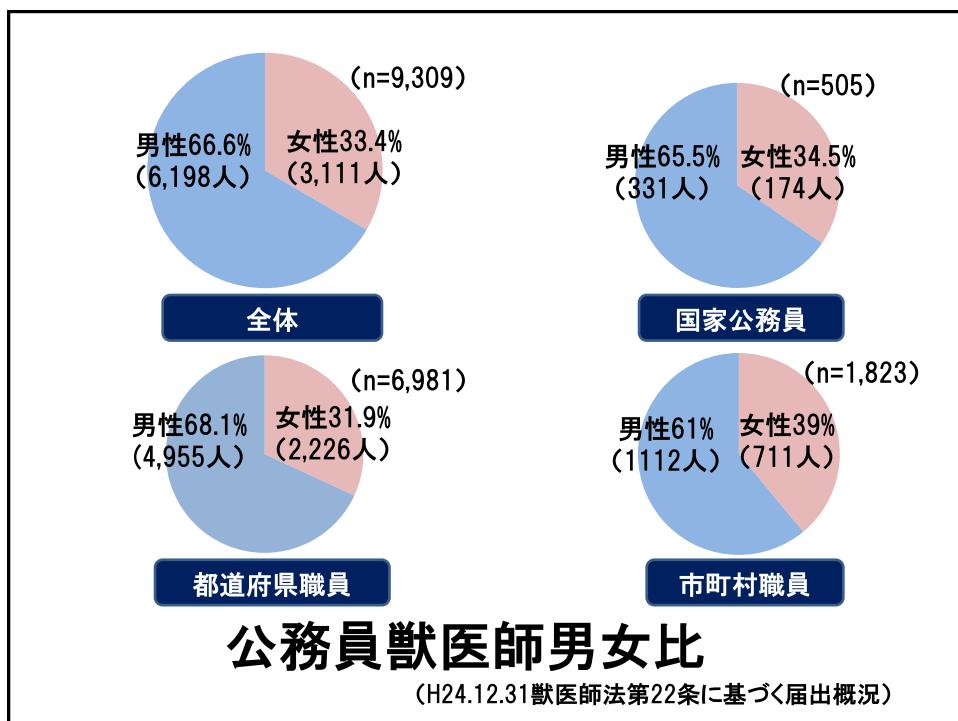
獣医師職域別構成比

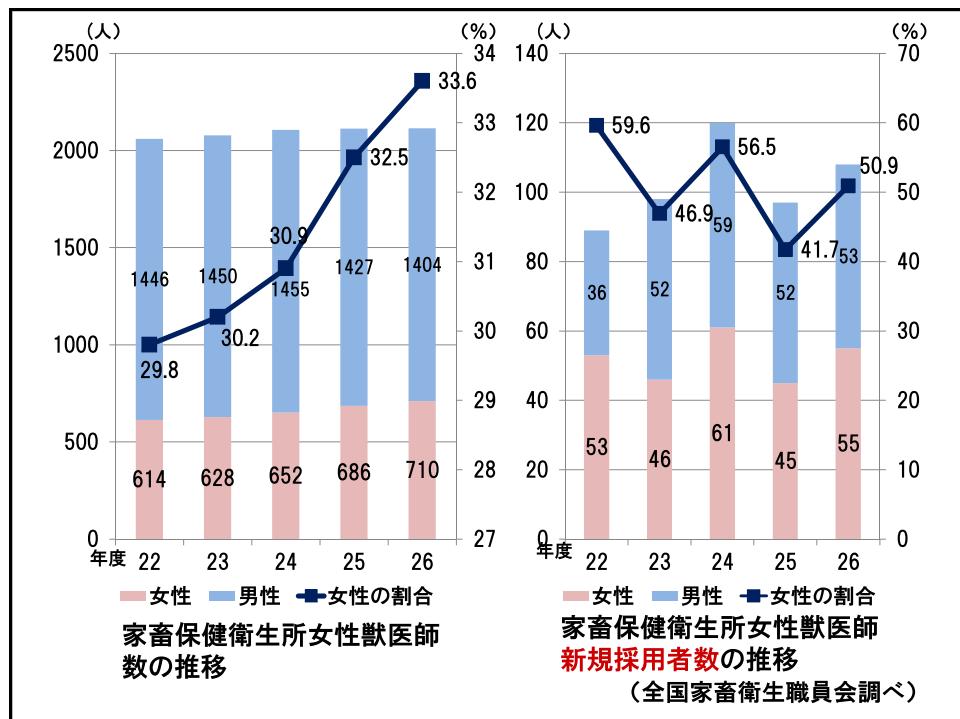
(H24.12.31獣医師法第22条に基づく届出概況)



公務員獣医師の内訳

(H24.12.31獣医師法第22条に基づく届出概況)





女性獣医師の就業等に関する現況調査

【調査目的】

女性獣医師の就業環境や必要とする就業支援の全国規模の実態調査を実施し、女性獣医師の抱える課題等の分析を行い、女性獣医師の支援を具体的かつ実効性のあるものとするための基礎資料を作成し、今後の女性獣医師就業支援対策等に反映させる。

【調査方法】

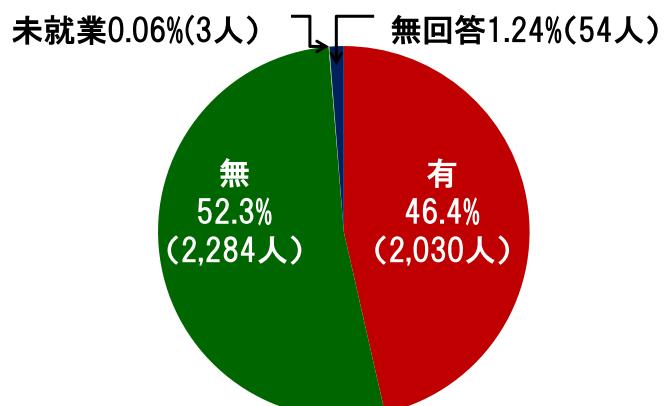
- (1)調査期間:平成26年1月17日～2月16日
- (2)調査方式:インターネットアンケート
- (3)調査対象:全国の調査に協力した獣医師

【回答者】

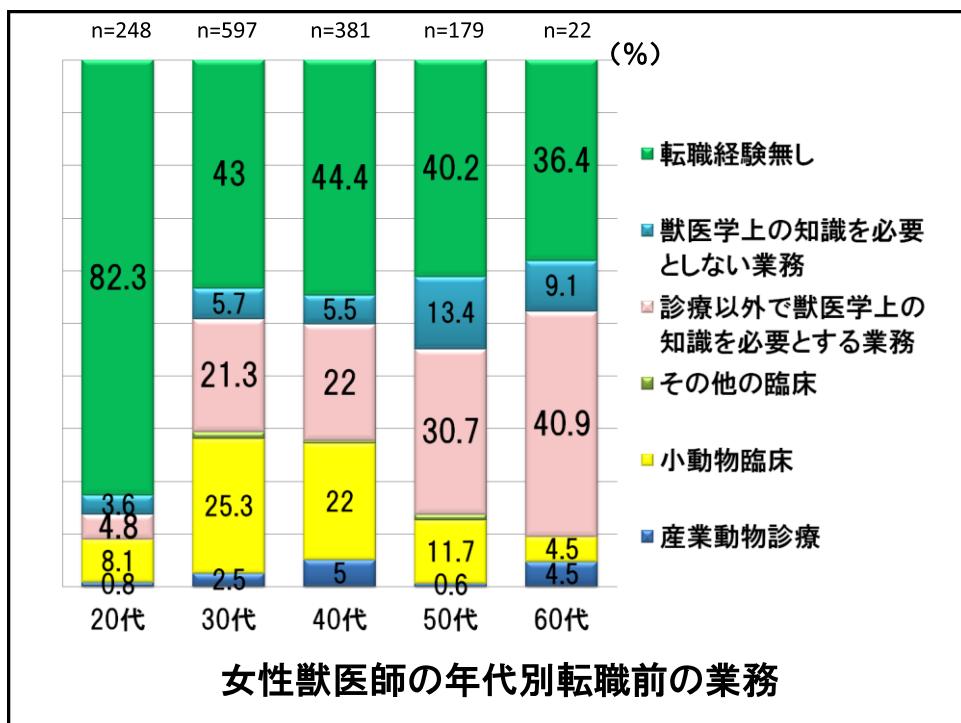
- (1)全回答者数:4,371名
 - 女性獣医師 1,429名(33%)
 - 男性獣医師 2,923名(67%)
 - 無回答19名
- (2)公務員女性獣医師の回答者数:846名※
※全公務員女性獣医師3,111人の27.2%

あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いた事が
ありますか？

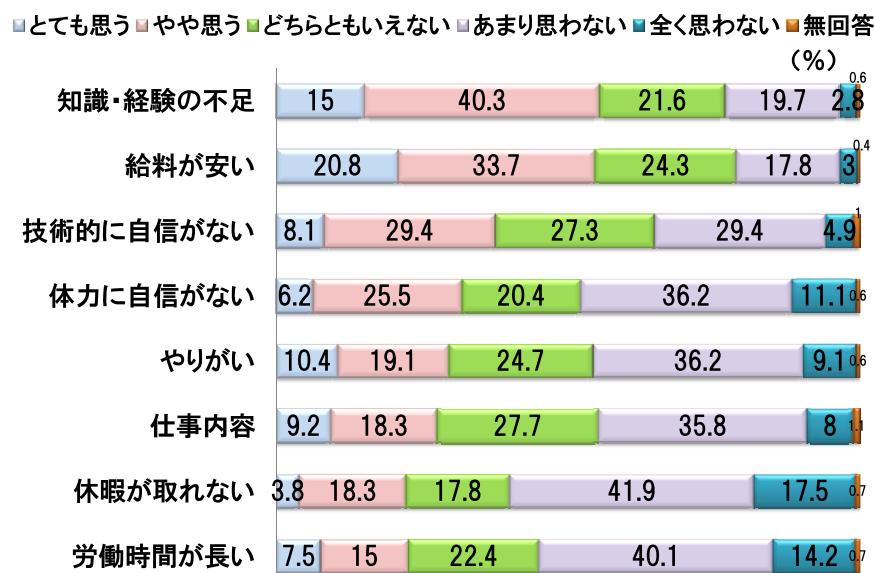
(n=4371)



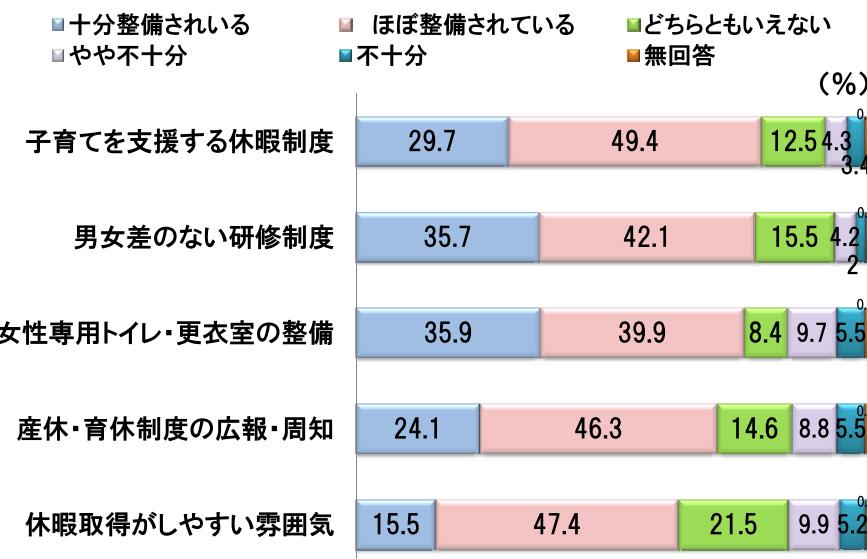
転職経験者の前勤務先			回答者全員の現勤務先		
転職前の勤務先	人数	%	現在の勤務先	人数	%
個人診療施設	590	29.1	個人診療施設	590	13.7
農業協同組合	50	2.5	農業協同組合	35	0.8
農業共済組合等	129	6.4	農業共済組合等	378	8.8
国	76	3.7	国	170	3.9
都道府県	518	25.5	都道府県	2003	46.4
市町村	114	5.6	市町村	352	8.2
民間企業	301	14.8	民間企業	400	9.3
その他	224	11	その他	390	9
無回答	28	1.4	無回答	1	0.02
計	2030	100	計	4319	100.12



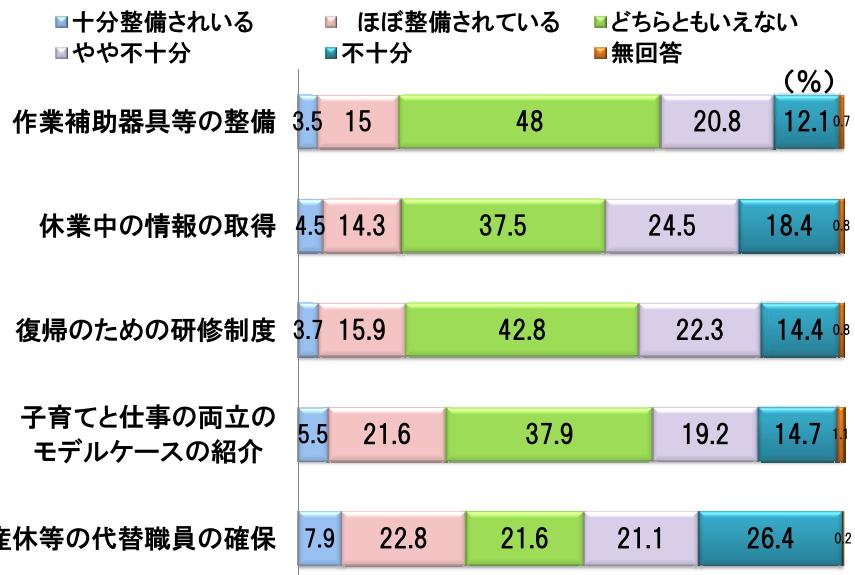
公務員女性獣医師が抱えている不安



公務員女性獣医師の就業支援の実感度



公務員女性獣医師の就業支援の実感度

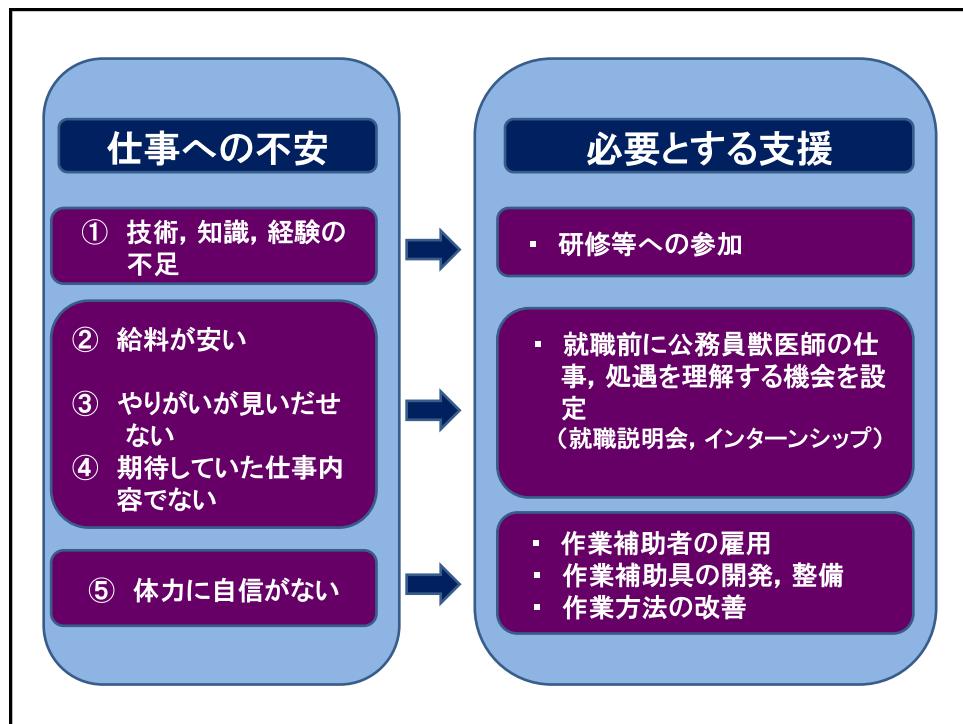


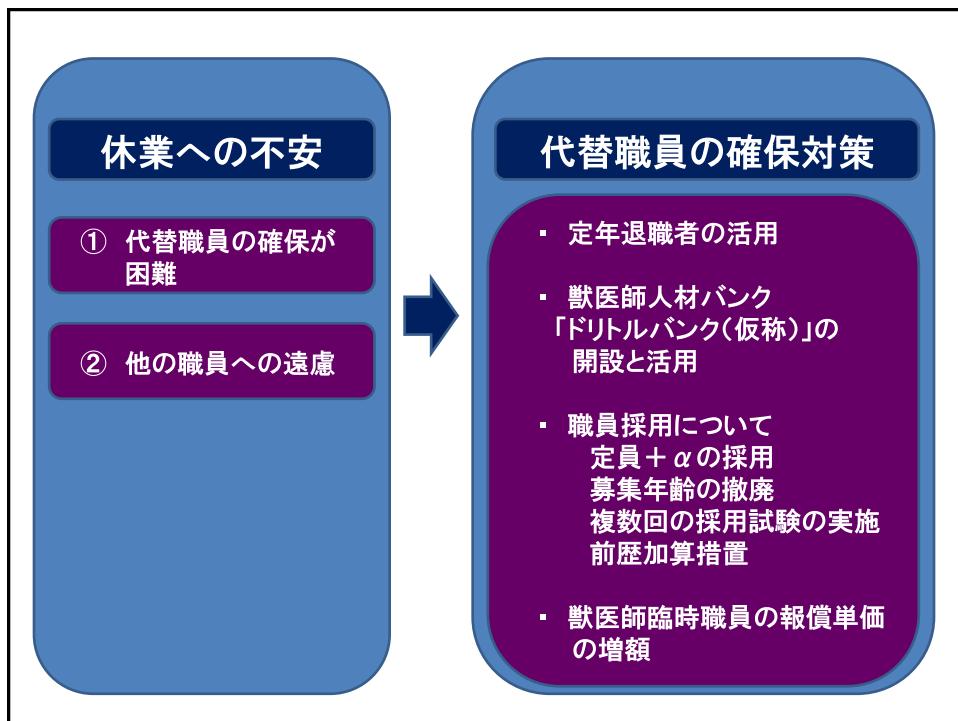
公務員女性獣医師の抱えている不安

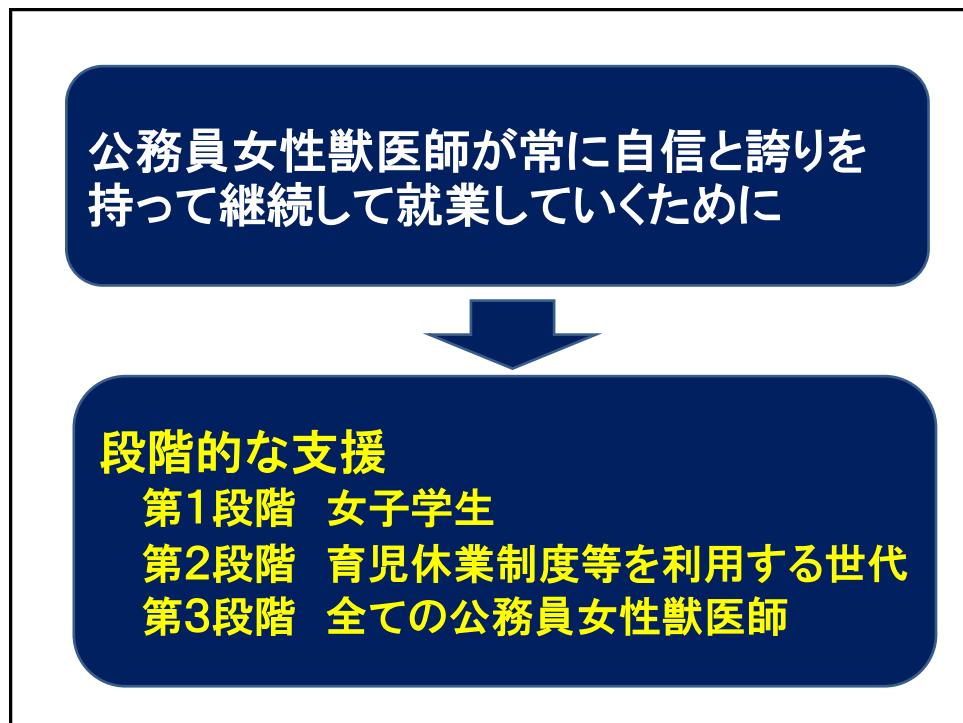
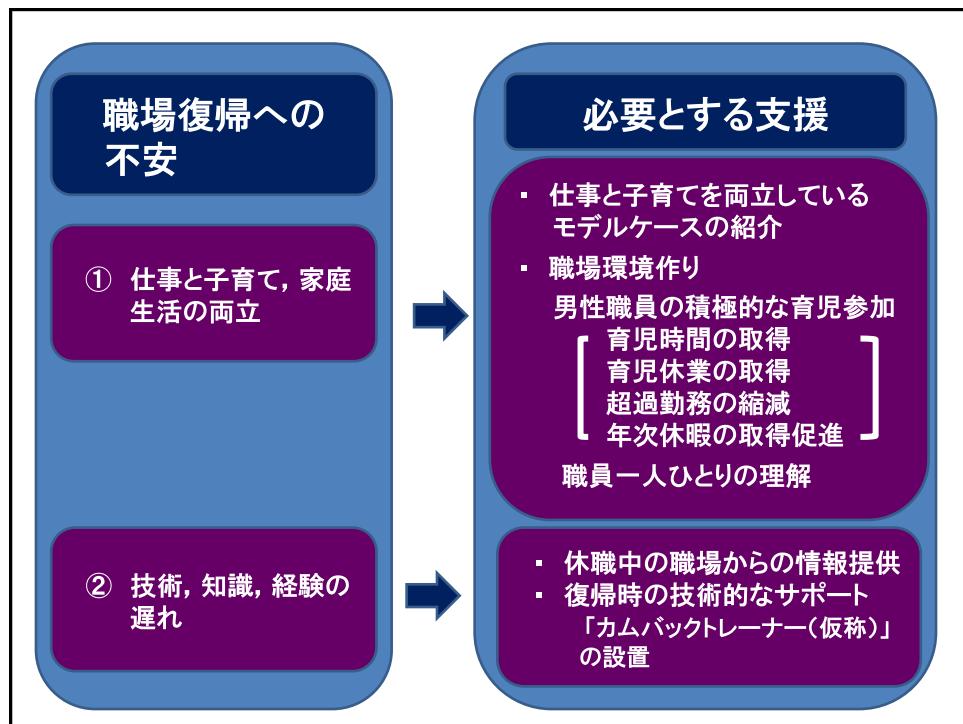
- 仕事への不安
- 休業への不安
- 職場復帰への不安



公務員女性獣医師が必要とする支援







第1段階：女子学生
公務員獣医師の仕事の理解と処遇情報の取得

【対応策】

- ① 公務員女性獣医師による女子学生のための就職説明会の開催
- ② インターンシップで公務員女性獣医師と女子学生の女子会の開催
- ③ 大学での獣医行政学の講義



- 公務員獣医師の仕事、就業現場の現状の理解を深めたうえでの進路の選択
- 公務員獣医師の仕事の重要性、やりがい、責任感を持ったうえでの進路選択により就業が継続

第2段階：育児休業制度等を利用する世代
やる気の持続と周囲（職場上司、同僚、家族）のサポート

【対応策】

- ① 配属、仕事の配分、評価、昇進、研修の機会の平等
- ② 押しつけでないサポート
始めから残業、出張を組まないのではなく、どうしても融通がつかない場合にサポートする職場の雰囲気作り



- 職場で必要とされている実感、社会との関わりを持っている実感で離職率は低下

**第3段階：全ての公務員女性獣医師
(そして、後に続く後輩女性獣医師のために)**

【対応策】

- ① 管理職の育成
- ② 国民の獣医師の仕事に対する理解の醸成
- ③ 獣医師の社会的地位の向上
- ④ 公務員獣医師の待遇の改善



- 公務員女性獣医師が常に自信と誇りを持って
継続就業

社会に対しての発信



3 主な意見交換

(1) 総合討論から参加の男性コメンテーターの意見

ア 新井英人（東京都動物愛護相談センター所長）

主に公衆衛生部門で約30年勤務してきた。私生活では、共働きの妻と、小学生、保育園児の子育て真っ最中であり、公私ともに大変だが充実している。

東京都では獣医師約200名のうち既に半分が女性であり、中間報告の記載よりも先行しており、東京都全職員の中でも、獣医師は一步早く女性が多い職場環境になっている。現在、女性職員のライフイベントに伴う休暇・休業に対しては、全体で200名の獣医師職員の配置工夫等で対応している。若手の女性職員の割合が高いことを勘案すると、これからは、今までの様な人員配置上の配慮だけでは、対応出来なくなる事が予想される。普段から余裕をもった人員確保は難しいため、他に女性が多い職場である、看護職、医療系技術職、福祉分野等での取り組みを参考に、何か次の手を考えねばならない。

今回の中間報告では、女性公務員獣医師の就業環境が整備されている事が再確認出来た。女性獣医師が公務員を選択してくれている理由であるとも考えられる。地方公務員の別の課題として、地域偏在も大きな課題である。中間報告の提言とおり、小動物臨床等、公務員以外の職域の環境整備が成されると想定すると、地方公務員の世界でも、他の職場に見劣りしない様な条件や環境整備も考える必要がある。

最近は、女性のライフイベントの問題以外にも、家族の介護や、或いはメンタルや体調を崩してしまう方もいるので、今後は、男女も職種も関係無く、全職員が働きやすい環境整備が重要になってくると思う。

イ 市川陽一朗（いちかわ動物病院院長）

千葉県で1次診療と紹介症例を受ける1.5次診療的な小動物病院を経営している。最近、小動物勤務獣医師を離職し、公務員への転職者が増加中との話は聞いてはいたが、本日の講演では、実際に数字で示され、大変な問題を抱えていると感じた。

本日は、本院勤務の女性獣医師・看護師が、結婚・出産後、結構、復職しているので紹介したい。

現在、獣医師14名、うち女性が6名、既婚者が4名。勤務形態としては、パートが3名、現在、産休中の者が1名。妊娠中の者が1名。妊娠を考えている者が1名。

動物看護師18名、うち17名が女性。産休の者が2名、パートが5名。パートの者は大体、結婚して子育てを行っている。

個人的見解では、雇用保険により産休時の給料が50%～60%以上支給されるシステム自体を知らない小動物開業経営者や、勤務獣医師が多いと思う。

本院での配慮事例としては、先ず勤務時間の配慮がある。希望すれば、午前に診療し、午後の手術後、帰宅する制度がある。手術が無ければ、獣医師も看護師も14時頃には帰宅可能である。手術があっても、16時前には上がれるので、子供の迎えも、家事も対応可能で、支障なく長期間勤務者が多い。

妊娠中の配慮としては、麻酔・レントゲン等の業務を避けている。動物看護師も妊娠中は出来るだけ負担が少ない受付業務等を中心に行っている。

また、急な欠員補充は非常に困難のため、普段からある程度、余裕をもった人員体制にしている。

こうした工夫は、どれも経営面とは相反するが、その他の部分の経営努力を従業員と一緒にを行う事で、何とか継続している。

一番大事なこととして、従業員と日頃から会話をして、各々の人生計画、結婚や妊娠等の計画、配偶者の仕事の計画等を、普段からコミュニケーションを取っている。これを男性経営者が聞くのは、中々難しいので、本院では、妻が行っているが、女性上司に相談をし、ある面では、女性従業員の間で共有している部分もある。

今後、小動物開業獣医師を取り巻く経済情勢が厳しくなる傾向があるが、今日伺った大きな問題点を認識し、獣医師会としても検討してゆきたい。

ウ　酒井淳一（山形県農業共済組合連合会参事）

若い頃は臨床現場にいたが、現在は保険業務全体を統括する立場にいる。本日の話を聞くと、女性にとっては相当ハードな仕事であり、やらざるを得ない状況にあると感じた。

山形県農業共済組合連合会の状況は、55～56名の獣医師が診療所を担当し、うち女性獣医師は11名であり、約20%、全国平均と比べて少し多い。本会での2000年以降の採用者は27名いるが、そのうちの11名だと、女性獣医師は約40%となり、今後間違いなく半数に近づいていくと思う。

本会の獣医師数は、必要獣医師数に対して、約1割多めに採用し、その中で、妊娠・介護・その他様々な職員の人生の出来事に対応している。実際に、病休1名、病気・体調不良等で現場に出られない者が2名、妊娠で現場に出られない者が2名存在し、目論見とおり、1割増しの人員体制で成り立っている。

来年度3名の獣医師が退職予定のため、採用試験を行ったが、今までの様な1回の採用試験では、充足できず、今回は3回行い、漸く3名を確保した。就業環境整備の方針があったとしても、獣医師数を満たすのは難しい問題が背景にあるのだと思う。特に他地域でも難しいとの話があったが、そのとおりだと思う。

妊娠・育児休暇について、本会では、産後1年間の育児休暇は、必ず

取得する様に奨励している。

また、妊娠判断時から、損耗関係の業務に変更し、直接、牛から蹴られたり、角で突かれる等の危険を回避しつつ、獣医師の仕事を一定程度まで行う様な業務へ異動している。

予算が無いため、嘱託獣医師を依頼するのは困難との話があったが、最終的にはそこに帰結する場合も多い。家畜共済制度の中で、家畜診療所の独立採算制を考慮すると、経営者側の苦悩も十分理解する。獣医師、若しくは家畜診療所、家畜共済制度の中だけでは、解決できない問題なのではないか。本問題を国レベルで対応していただき、少しづつでも、この環境を社会全体で改善できる方向に持って行ければ良い。

(2) 総合討論では、主に以下の意見があった。

●産休・育休等で休むと、同僚等周囲の人に負担がかかり、休むことが負担に思う。人員確保の方法として、OBの活用、臨時職員募集で可能なのか？OBに依頼して実際に来てくれるか？

●我が職場では、現在、対策は取られておらず、全て周囲の獣医師の負担になっている。長期療養者や怪我人等が重なると、診療件数も増え、本当に大変な状況になる。少人数でも減らせない業務もあり、頑張ってこなしてしまうが、これではいけない。代替職員をOBに依頼すれば、対応者は存在する筈だが、経営本部からは、予算が無いとの理由で採用して貰えなかった。若手が産業動物診療に就職して来ない状況の中、折角僻地に就業してきた若手が離職しない様に、雇用者は就業環境を改善すべきである。

●無職女性の獣医師、医師、歯科医師の割合について触れられていたが、男性獣医師については、就業する場所が少ない、雇用先が無いと言えるのか？

●実際、男性獣医師に雇用先が無いのか直接尋ねておらず、詳細は不明だが、公務員、小動物、他の研究分野等を見ても、就業先が無いという状況では無いと思う。他に何か事情があるのではないか。

また、無職女性の医師、歯科医師と、獣医師の割合の違いについては、獣医師の場合、診療、公務員、研究分野等と進む職域が結構幅広いが、医師の場合は、殆ど9割以上が診療に進む。働き方が、獣医師の診療と違い、診療形態が様々な分野に分かれている特徴もあると思う。今後調べて解決策に繋げていきたい。

●無職の医師や歯科医師と、獣医師の割合の違いについては、先述のとおり、業務内容の違いが1つあると思う。医師の場合、ほぼ100%近くが診療

に携わっており、病院、或いは自宅等で診療に従事している。

その他に、医師会、歯科医師会では担当常務理事が各々存在し、組織的対応を図っている。そして支援センターが既に存在し、色々な情報を持ち、対応に当たっている。

日本獣医師会は、日本医師会と学術協定を締結しているので、医師会から学び、獣医師が十分活躍できる環境を整備する必要がある。

●県内の広範囲の診療を担当しており、往診後、事務所に戻るのが18時位、それ以降カルテや事務処理で、いつも21時、22時位迄仕事をしている。カルテや事務処理にかかる時間短縮に何か良い方法がないか？

●我が職場では、現在全て電子カルテになっており、診療現場から事務所に帰つてからパソコンで入力している。多少は作業効率が良くなつたとは思う。しかし、子育て中は、本当に時間が足りない。今は、子育ても一段落して、農家の方に向かう時の気持ちにも余裕が出来た。子育て中の獣医師の中には、終業時間になれば帰宅し、夜、家事を済ませた後、夜中に再度出勤して残務処理をする者も存在する。定時の時間内で終わる業務量ではない。綱渡りの様な生活だが、公私共に頑張っている者も沢山いる。事務処理等の時間短縮方法に、妙案はないが、診療件数にもよるので、大変な時期の人には、診療件数を少なめにする配慮はしている。

●最近、携帯型のタブレットの端末もあるので、音声認識を使うシステムが今後開発されれば、往診車での移動時間中に、事務処理が早く済むのではないか。今後に期待したい。

●我が診療所では、子育て中の獣医師は、事前に決めた時間内で働いている。仕事を継続出来る者と途中で辞める者の間で、仕事に対する考え方の違いがあるのではないか。学生実習も頻繁に引き受けており、私個人の感じ方もしそれないが、男性に比べて女性の方が、夢見がちな人が多いと思う。学生に対して現場を見せたり、教える事が、非常に重要だと思うが、産業動物、小動物、公務員それぞれ、学生に接した時の感じをお聞きしたい。

●公務員で、毎年大学で就職説明会を行っているが、数年前ある大学では、自分達は仕事もそれなりにしたいし、人生も楽しみたいから、公務員も1つの選択肢としていると言う学生が何人もいた。今の学生は、夢見がちの方もいるかもしれないが、結構、現実を把握して進路選択をしていると感じた。

●小動物臨床領域だが、女性だからとか、学生だから夢見がちとは感じないが、センスの有無は感じる。おそらく小動物臨床領域は、どういうものか比較的よく見えている職種であるので、学生も承知の上で来院しており、男女

による違いは感じない。就業環境が厳しい病院も多く、体力的についていかない面が女性にはあるのかもしれない。

●産業動物分野だが、この分野に来てくれる学生であれば、夢見がちでも何でも歓迎する。もし就職したら、その夢見がちを叶えてあげる自信はある。

●公務員だが、調査でも、期待していた仕事の内容では無いという回答が、男性より女性の方が若干多かった。離職理由について、男性の場合、業務内容に収入が見合わない、というクールな面があるが、女性の場合、獣医師という技術職として一生懸命資格を取ったのに、公務員の仕事は、いわゆる獣医師的なものではなく、苦情処理、補助金申請等、非常に事務的なものが多く、それは獣医師としての仕事ではない、と言って離職する方もいる。家庭と仕事を秤にかけざるを得ない場合に、それだけの誇りを持てない仕事内容だと、辞めてしまうというケースも若干ある。

●夢見がちという表現が、非常に失礼な表現だったかもしれない。ただ、その様に見える学生及び就職後の離職者と、長期勤務継続者との差が明らかにあると思う。その辺りをうまく学生の頃から、特に産業動物診療は小動物診療の現場と比べて、学生には距離があるので、もう少し現状を知る場が必要ではないか。私も父親として、子育てをして、お迎えも行き、洗濯もするが、女性だからというのではなく、全体として仕事の分担を考える必要があると思う。その辺りが、もしかしたら医師との差かもしれない。

●家畜保健衛生所（家保）でも女性獣医師が増えており、押し付けでないサポートや、やる気を持って仕事に取り組める様にという事で、キャリア形成も重要だと感じている。普段の男性職員とのコミュニケーションでの工夫点や、こうあって欲しい点があれば教えていただきたい。

●職場の雰囲気作りは大事だ。昔と異なり、今の若い職員は共働きが多いので、子育て中や産休中の職員に対してとても理解がある。例えば、保育園からの電話による呼び出しもよくあるが、早く帰った方が良いよ、という声掛けや、上司も大変気を使った言動をしている。

一方、それが押し付けであってはいけない。例えば、3人子供を産み、10年ぶりに泊りがけの出張に行ったが、とても有意義でリフレッシュ出来た、また明日から頑張れるという者もいる。職場でサポートするのは良いが、押し付けではない、心からのサポートをしてあげると良い。

●昔、女性獣医師が職場に2～3%しかいなかった時代から、今は2～4割と増加している中で、これまで周囲の方々の配慮等で対応可能だった事が、今後それでは対応出来なくなりつつある旨を、中間報告では、職場に

よっては顕在化し始めていると指摘したが、既にもっと深刻な状況になっている面があるのだと思う。

国レベルでの対応をという意見がある一方、身の回りで、まだ慣習に捕らわれているという話もあった。やはり我々も身の回りから少しずつ変えてゆき、理解醸成を進めてゆかねばならないと思う。

●10年以上前に、県獣医師会に女性獣医師部会を設立した当時は、男性獣医師から羨ましがられ、逆差別だと攻撃を受けたが、現在は、家保の所長になる女性獣医師も現れ、女性にとって良い時代になった。そこで、先輩達からは、もう女性獣医師部会の役割は終わり、解散しても良いのではないかとの意見があったが、私は、今の若い人達には、若い人達なりの問題があるから、何とか検討し続けたいと反論したものの、状況は厳しく、今年で解散かと思っていたところだった。しかし、本日のシンポジウムに参加して、とても勉強になったし、今後の活動に意欲を持って取り組む事ができると思った。感謝している。

●本日は、様々な事例や取り組みを紹介した。今後、本日の議論や追加分析等を踏まえ、最終報告を取りまとめたい。様々な場面で、取り組みをもっと見える様にして、取り組みを加速し、輪を拡げてゆく事が必要だが、その際、報告書も活用いただければ幸いである。

●欠員補充・代替勤務については、確かに経営面の問題もあるが、組織的、或いは制度の改革にも踏み込まねばならないのではないか。

●女性の問題は男性の問題でもある。調査中、6割の男性獣医師からの回答は、関心の現れではないか。育休・産休の他に、今後、男女を問わず介護への対応は、非常に大きな問題である。我々獣医師が、男女を問わず、誇り・自信を持って、社会に貢献し、活躍できる環境にしてゆきたい。

参考資料2 獣医師の就業環境等に関する現況調査の概要

現在、獣医系大学においては入学者の約半数は女性が占めているが、女性獣医師には、出産や育児が継続的な就業の障害となり、やむを得ず離職するケースがあることが関係者から指摘されている。

女性獣医師の継続的な就業の確保や離職後の再就業率の向上は、現在、問題となっている獣医師の職域・地域偏在を解消し、獣医療提供体制整備の一助になり得ると判断される。しかし、継続的な就業や就業率向上を確保するためには、①出産・育児期間後の継続的な就業を可能とする職場環境の整備、②復職のための就職情報の提供、及び③休職期間中の獣医学的知識・技術の進歩をキャッチアップするための研修機会の提供等、ライフステージに応じた女性獣医師就労支援の取り組みが課題となっている。

しかしながら、今まで女性獣医師の就業環境、就業支援のために必要な措置等の現況についての全国調査は行われていない。このため、勤務環境の現況等を把握するためのアンケート調査を実施し、結果を分析して女性獣医師の就業支援を具体的かつ実効性のあるものとするための基礎資料を作成し、今後の女性獣医師就業支援対策等へ反映させることを目的とした。

調査は女性獣医師だけを対象とするのではなく、男性獣医師も含めた獣医師全体の実態を把握した上で、女性獣医師の抱える課題等を分析できるようにしたいと考えた。調査のためのワーキンググループとして「獣医師の就業環境等に関する現況調査検討委員会」を設置し、農林水産省の補助事業として平成26年1月17日から2月16日までの期間に、専用WEBサイトを用いたインターネットアンケート方式による調査を実施した。

調査では、全国4,371名の獣医師から回答があった。その内訳は男性が67%、女性が33%、また、診療業務に従事している獣医師が28%、診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務に従事している獣医師が66%、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している獣医師が5.6%、無職の獣医師が1.1%であった。

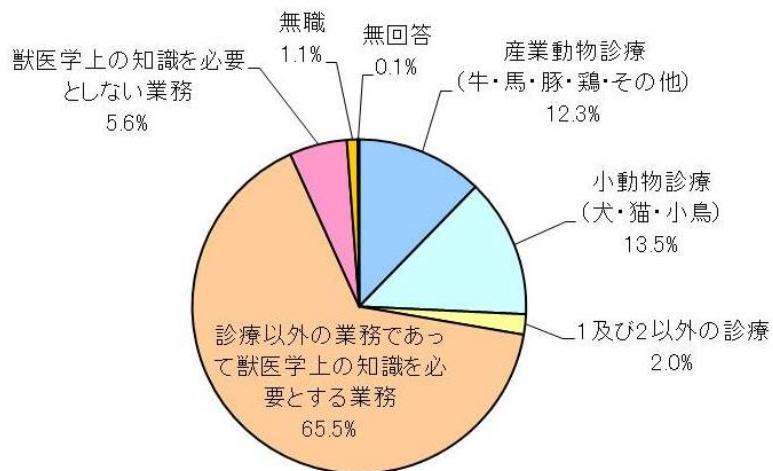
なお、質問票は資料1、全体集計結果一覧は資料2に示した。



〈回答者の地域構成比〉



〈回答者の男女比〉



〈回答者の職域構成比〉

<プログラム>
すべて『任意回答』で作成

SA : 単一回答
 MA : 複数回答
 FA : 自由回答

<調査の趣旨とご協力のお願い>

近年、新規獣医師の約半数を女性が占め、各分野での役割が期待されています。それぞれの職場では、女性獣医師がより活躍できるように働きやすい就業環境を確保することが一層大切になっています。現在、日本獣医師会では、女性獣医師の就業支援とキャリアアップの推進システムの構築を図るために専門委員会を設置し、検討を進めています。

一方、検討を進めるには、男女を問わず、獣医師免許をお持ちの方々の状況を把握することが必要です。そこでこのたび、農林水産省の補助を受け、アンケート「獣医師の就業環境等に関する現況調査」を行うことといたしました。

この調査では、実態をより正確に把握するため、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方や無職の方を含む、全ての獣医師の方を対象としております。よろしくご協力をお願いいたします。お近くの方やお知り合いの方にもアンケートへの回答を呼びかけていただければ幸いです。

それでは、以下のアンケートへのご回答をよろしくお願ひいたします。

全員に表示**現在の職業(業務の種類)****SA**

Q1 あなたの現在の業務の種類としてあてはまるものをお選びください。

- 1. 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)
- 2. 小動物診療(犬・猫・小鳥)
- 3. 1及び2以外の診療
- 4. 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務
- 5. 獣医学上の知識を必要としない業務
- 6. 無職

Q1で6以外**現在の職業(業務の内容)****SA**

Q2 あなたの現在の業務の内容としてあてはまるものをお選びください。

- 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)
- 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事
- 7. 環境関係の行政事務に従事
- 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- 13. 製薬関係に従事
- 14. 飼料関係に従事
- 15. その他(具体的に記入:)

Q3 あなたの現在の勤務先としてあてはまるものをお選びください。

- 1. 個人診療施設
- 2. 農業協同組合
- 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- 4. 国(本庁等)
- 5. 国(検査指導機関)
- 6. 国(その他・具体的に記入:)
- 7. 都道府県(本庁等)
- 8. 都道府県(検査指導機関)
- 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- 10. 都道府県(保健所等)
- 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- 13. 市町村(本庁等)
- 14. 市町村(検査指導機関)
- 15. 市町村(家畜保健衛生所等)
- 16. 市町村(保健所等)
- 17. 市町村(食肉衛生検査所等)
- 18. 市町村(その他・具体的に記入:)
- 19. 独立行政法人
- 20. 国立大学法人
- 21. 私立学校
- 22. 競馬関係団体
- 23. 民間企業
- 24. 公益法人、一般社団・財団法人等
- 25. その他(具体的に記入:)

全員に表示

Q4 あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いたことがありますか。就業していたことがある業務の種類として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。

- 1. 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)
- 2. 小動物診療(犬・猫・小鳥)
- 3. 1及び2以外の診療
- 4. 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務
- 5. 獣医学上の知識を必要としない業務
- 6. 現在の仕事以前に他の仕事をしたことはない
- 7. 獣医師免許取得後、一度も仕事をしたことがない

セレクト: Q4で1~5(現職以外経験あり)

Q5 以前に就業していたことがある業務の内容として、あてはまるものをお選びください。
※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。

- 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)
- 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事
- 7. 環境関係の行政事務に従事
- 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- 13. 製薬関係に従事
- 14. 飼料関係に従事
- 15. その他(具体的に記入:)

セレクト:Q4で1~5(現職以外経験あり)

過去の職業(勤務先)

SA

Q6 以前に就業していたことがある勤務先について、あてはまるものをお選びください。

*複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。

- 1. 個人診療施設
- 2. 農業協同組合
- 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- 4. 国(本庁等)
- 5. 国(検査指導機関)
- 6. 国(その他・具体的に記入:)
- 7. 都道府県(本庁等)
- 8. 都道府県(検査指導機関)
- 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- 10. 都道府県(保健所等)
- 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- 13. 市町村(本庁等)
- 14. 市町村(検査指導機関)
- 15. 市町村(家畜保健衛生所等)
- 16. 市町村(保健所等)
- 17. 市町村(食肉衛生検査所等)
- 18. 市町村(その他・具体的に記入:)
- 19. 独立行政法人
- 20. 国立大学法人
- 21. 私立学校
- 22. 競馬関係団体
- 23. 民間企業
- 24. 公益法人、一般社団・財団法人等
- 25. その他(具体的に記入:)

セレクト:Q1=5~6

獣医学上の知識を必要とする業務を離れてからの期間

SA

◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きします。

Q7 獣医学上の知識を必要とする業務から離れて、どのくらいの期間が経っていますか。最も近いものをお答えください。

- 1. 離れてから6ヶ月(半年)未満
- 2. ~1年未満
- 3. ~2年未満
- 4. ~3年未満
- 5. ~4年未満
- 6. ~5年未満
- 7. 5年以上
- 8. 獣医師免許取得以降、一度も獣医学上の知識を必要とする業務に従事したことはない

セレクト:Q1=5~6

獣医学上の知識を必要とする業務への復帰意向

SA

◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きします。

Q8 あなたは、今後、獣医師としての資格を生かし、獣医学上の知識を必要とする業務に就きたいとお考えですか。

- 1. すぐにでも就きたい
- 2. いずれ就きたい
- 3. 短時間勤務など、条件が合えば就きたい
- 4. 就くつもりはない

◆現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している方と無職の方にお聞きします。

Q9 あなたが現在、獣医学上の知識を必要とする業務に就いていない理由として、あてはまるものを全てお選びください。

- 1. 精神的に疲れる仕事だから
- 2. 体力的に自信がないから
- 3. 技術的に自信がないから
- 4. 業務内容に収入が見合っていないから
- 5. 自分には向いていない仕事だから
- 6. 短時間勤務なら可能だが、適当な職場がみつからないから
- 7. 時間の融通がきかない、休みが取れないから
- 8. 家の近くに適当な職場がないから
- 9. 現在の仕事を続けたいから(仕事の内容を具体的にお書きください:)
- 10. 他にやりたいこと(趣味や勉強など)があるから
- 11. 就職活動をしたいが、どうしたらよいかわからないから
- 12. 就職活動中だが、うまくいっていないから
- 13. 家事
- 14. 結婚
- 15. 妊娠・出産
- 16. 育児
- 17. 介護
- 18. 人事異動
- 19. その他の事情(夫の転勤、家族に反対されている、など)(具体的にお書きください:)

Q10 現在、あなたが仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うことはありますか。それぞれの項目について5段階でお答えください。

※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。

プログラム:表側ランダム表示

	1 とても 思う	2 や や 思 う	3 ど ち ら と も い え な い	4 あ ま り 思 わ な い	5 ま つ た く 思 わ な い
1. 労働時間が長い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 休暇がとれない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 転勤が多い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 期待していた仕事の内容ではない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 技術的に自信がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 体力に自信がない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 家族の理解が得られない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 知識や経験が不足している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 給料が安い(収入が少ない)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. やりがいを見つけられない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 仕事上の人間関係がうまくいかない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 仕事と育児との両立がうまくいかない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 仕事と介護の両立がうまくいかない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 妊娠中に仕事ができるか心配	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. 仕事と家事の両立がうまくいかない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. 必要なときに短時間の勤務ができない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q11 職場での**女性の就業支援**はどの程度整備されていると思われますか。以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。
※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。

プログラム:表側/ランダム表示

	1 思 う 十 分 整 備 さ れ て い る と	2 思 う ほ ぼ 整 備 さ れ て い る と	3 ど ち ら と も い え な い	4 や や 不 十 分 だ と 思 う	5 不 十 分 だ と 思 う
1. 子育てを支援するための休暇制度(育児休業・看護休暇等)の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 男女差のない研修制度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 男女差のない昇級・昇格の仕組み	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 女性用の仕事用衣服の支給	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 女性専用のトイレや更衣室の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9. 有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10. 必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11. 上司・同僚からの理解を得るための機会	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12. 産休や育休に関する制度(申請や給与、復職後の見通し等)に関する職場での広報・周知	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13. 産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14. 休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15. 休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16. 残業・時間外労働の負荷軽減	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17. 出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18. 子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q12 これまで獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことはありますか。その理由は何ですか。あてはまるものを全てお選び下さい。

- 1. 精神的に疲れる仕事だったから
- 2. 体力的に自信がなかったから
- 3. 技術的に自信がなかったから
- 4. 業務内容に収入が見合っていないから
- 5. 自分には向いていない仕事だったから
- 6. スキルアップやキャリアアップが望めなかつたから
- 7. 短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかつたから
- 8. 時間の融通がきかなかつた、休みが取れなかつたから
- 9. 家の近くに適当な職場がなかつたから
- 10. 他にやりたい仕事があつたから(仕事の内容を具体的にお書きください:)
- 11. 他にやりたいこと(趣味や勉強など)があつたから
- 12. 家事
- 13. 結婚
- 14. 妊娠・出産
- 15. 育児
- 16. 介護
- 17. 人事異動
- 18. その他の事情(夫の転勤、家族の反対、など) (具体的にお書きください:)
- 19. これまで、獣医学上の知識を必要とする仕事を離れたことはない

全員に表示

Q13 今後、もしも転職や再就職をするとしたら、転職先や再就職先の情報はどのように集めますか。あてはまるものを全てお選びください。
また、その中から、『最も役立つ情報が得られると思うもの』をひとつお選びください。

1 情報 收 集 元 (全 て)	2 と最 も思 う役 も立 のつ (-情 報と が得 られ る)
1. 獣医療関係のホームページ	<input type="checkbox"/>
2. 民間の転職・求人サイト	<input type="checkbox"/>
3. 大学の就職課やゼミの先生・先輩など	<input type="checkbox"/>
4. ハローワーク	<input type="checkbox"/>
5. 就職情報誌や専門雑誌など	<input type="checkbox"/>
6. 求人側のホームページやチラシ	<input type="checkbox"/>
7. 知人や友人の紹介・口コミ	<input type="checkbox"/>
8. その他 (具体的にお書きください:)	<input type="checkbox"/>
9. 特に自分から情報は集めない	<input type="checkbox"/>

◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きします。

Q14 あなたが就職を希望する業務の種類としてあてはまるものをすべてお選びください。

- 1. 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)
- 2. 小動物診療(犬・猫・小鳥)
- 3. 1及び2以外の診療
- 4. 診療以外の業務であつて獣医学上の知識を必要とする業務

◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きします。

Q15 あなたが就職を希望する業務の内容としてあてはまるものをすべてお選びください。

- 1. 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)
- 2. 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事
- 3. 自ら往診のみによって診療の業務に従事
- 4. 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事
- 5. 農林畜産関係の行政事務に従事
- 6. 公衆衛生関係の行政事務に従事
- 7. 環境関係の行政事務に従事
- 8. その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:)
- 9. 試験研究に従事(大学勤務を除く。)
- 10. 獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)
- 11. 獣医系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事
- 12. 獣医系大学以外で教育に従事(教官又は教員)
- 13. 製薬関係に従事
- 14. 飼料関係に従事
- 15. その他(具体的に記入:)

◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きします。

Q16 あなたが就業を希望する勤務先としてあてはまるものをすべてお選びください。

- 1. 個人診療施設
- 2. 農業協同組合
- 3. 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合
- 4. 国(本庁等)
- 5. 国(検査指導機関)
- 6. 国(その他・具体的に記入:)
- 7. 都道府県(本庁等)
- 8. 都道府県(検査指導機関)
- 9. 都道府県(家畜保健衛生所等)
- 10. 都道府県(保健所等)
- 11. 都道府県(食肉衛生検査所等)
- 12. 都道府県(その他・具体的に記入:)
- 13. 市町村(本庁等)
- 14. 市町村(検査指導機関)
- 15. 市町村(家畜保健衛生所等)
- 16. 市町村(保健所等)
- 17. 市町村(食肉衛生検査所等)
- 18. 市町村(その他・具体的に記入:)
- 19. 独立行政法人
- 20. 国立大学法人
- 21. 私立学校
- 22. 競馬関係団体
- 23. 民間企業
- 24. 公益法人、一般社団・財団法人等
- 25. その他(具体的に記入:)

◆獣医学上の知識を必要とする業務への就業をお考えの方にお聞きします。

Q17 あなたが就業を希望する勤務形態はどれですか。

- 1. フルタイム
- 2. パートタイム
- 3. アルバイトを含む短時間勤務
- 4. その他(具体的にお書きください:)

全員に表示

本テーマへのご意見(自由回答)

FA

◆将来に向けて、女性獣医師の就業環境を考える際の参考にお聞きします。

Q18 女性獣医師の就業環境について、現在の職場の問題点や、制度的な改善が必要な部分など、どのような事でも構いませんので、ご自由にお書きください。転職や離職経験のある方は、そのときの状況やほしかった支援策などをお聞かせください。

1.

全員に表示

性別

SA

◆最後に、あなたご自身のことについて、差し支えのない範囲でお知らせください。

Q19 ご自身の性別をお知らせください。

1. 男性
 2. 女性

全員に表示

獣医師になった理由

MA

Q20 あなたが獣医師になった理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。

プログラム：ランダム表示、「その他」は常に最下段。

1. 収入を得られるから
 2. 知識や技能を生かせるから
 3. 社会に役立つ仕事だから
 4. 動物が好きだから
 5. 命を大切にする仕事だから
 6. 家族や知人にすすめられたから
 7. 家業を継ぐため
 8. その他（具体的にお書きください：）

全員に表示

年代

SA

Q21 ご自身の年代をお知らせください。

1. 20代
 2. 30代
 3. 40代
 4. 50代
 5. 60代
 6. 70代以上

全員に表示

居住地

SA

Q22 ご自身の居住地をお知らせください。

1. ▼ブルダウン(47都道府県)

全員に表示

家族

SA

Q23 あなたは、現在、ご家族と同居されていますか。

- 1. 結婚していて、家族と同居している
- 2. 結婚しておらず、家族と同居している
- 3. 結婚していて、独り暮らしである
- 4. 結婚しておらず、独り暮らしである

全員に表示

子の有無

SA

Q24 お子さまはいらっしゃいますか。

- 1. いる
- 2. いない

セレクト: Q24=1(子あり)

子の年齢

FA

Q25 お子さまの年齢をお知らせください。

*5人以上のお子さまがいらっしゃる場合は、年長者から順に5名分をお知らせください。

- 1. 1人目 ()歳
- 2. 2人目 ()歳
- 3. 3人目 ()歳
- 4. 4人目 ()歳
- 5. 5人目 ()歳

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

アンケート終了

獣医師の就業環境等に関する現況調査 全体集計結果一覧

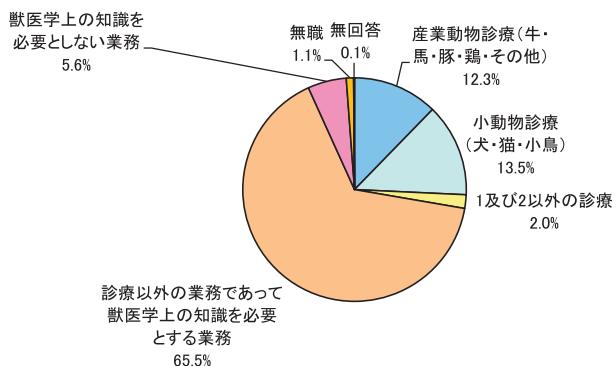
調査期間:平成26年1月17日～平成26年2月16日、WEB調査方式

[全員回答]

Q1	あなたの現在の業務の種類として最もあてはまるものをお選びください。 単一回答	N	%
1	産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)	537	12.3
2	小動物診療(犬・猫・小鳥)	588	13.5
3	1及び2以外の診療	86	2.0
4	診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務	2864	65.5
5	獣医学上の知識を必要としない業務	244	5.6
6	無職	46	1.1
	無回答	6	0.1
	全体	4371	100.0

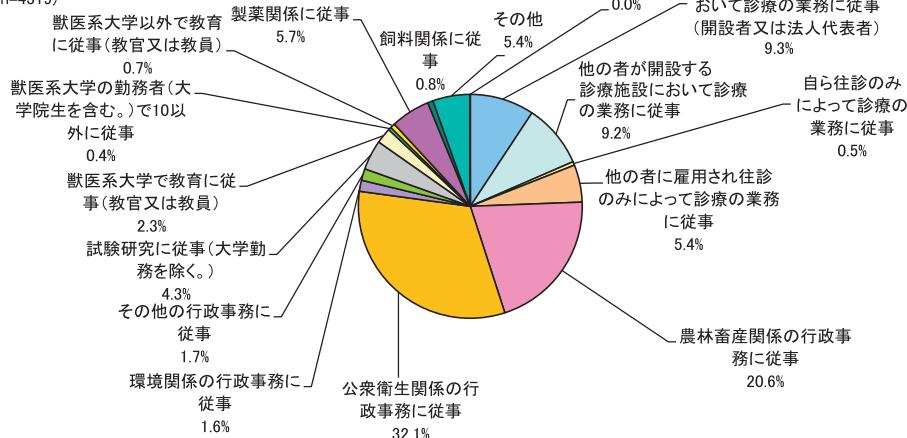
[Q1]あなたの現在の業務の種類として最もあてはまるものをお選びください。

(n=4371)



[現在何らかの仕事をしている人が回答]

Q2	あなたの現在の業務の内容として最もあてはまるものをお選びください。 単一回答	N	%
1	自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)	401	9.3
2	他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	397	9.2
3	自ら往診のみによって診療の業務に従事	23	0.5
4	他の者に雇用され往診のみによって診療の業務	233	5.4
5	農林畜産関係の行政事務に従事	890	20.6
6	公衆衛生関係の行政事務に従事	1388	32.1
7	環境関係の行政事務に従事	69	1.6
8	その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:【 】)	73	1.7
9	試験研究に従事(大学勤務を除く。)	186	4.3
10	獣医学大学で教育に従事(教官又は教員)	98	2.3
11	獣医学大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事	18	0.4
12	獣医学大学以外で教育に従事(教官又は教員)	30	0.7
13	製薬関係に従事	245	5.7
14	飼料関係に従事	34	0.8
15	その他(具体的に記入:【 】)	232	5.4
	無回答	2	0.0
	全体	4319	100.0

[Q2]あなたの現在の業務の内容として最もあてはまるものをお選びください。
(n=4319)

[現在何らかの仕事をしている人が回答]

Q3	あなたの現在の勤務先として最もあてはまるものをお選びください。		
		N	%
1 個人診療施設	590	13.7	
2 農業協同組合	35	0.8	
3 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	378	8.8	
4 国(本庁等)	81	1.9	
5 国(検査指導機関)	66	1.5	
6 国(その他・具体的に記入:【 】)	23	0.5	
7 都道府県(本庁等)	278	6.4	
8 都道府県(検査指導機関)	74	1.7	
9 都道府県(家畜保健衛生所等)	551	12.8	
10 都道府県(保健所等)	549	12.7	
11 都道府県(食肉衛生検査所等)	366	8.5	
12 都道府県(その他・具体的に記入:【 】)	185	4.3	
13 市町村(本庁等)	22	0.5	
14 市町村(検査指導機関)	15	0.3	
15 市町村(家畜保健衛生所等)	3	0.1	
16 市町村(保健所等)	154	3.6	
17 市町村(食肉衛生検査所等)	98	2.3	
18 市町村(その他・具体的に記入:【 】)	60	1.4	
19 独立行政法人	73	1.7	
20 国立大学法人	71	1.6	
21 私立学校	65	1.5	
22 騒馬関係団体	46	1.1	
23 民間企業	400	9.3	
24 公益法人、一般社団・財団法人等	96	2.2	
25 その他(具体的に記入:【 】)	39	0.9	
無回答	1	0.0	
全体	4319	100.0	

[全員回答]

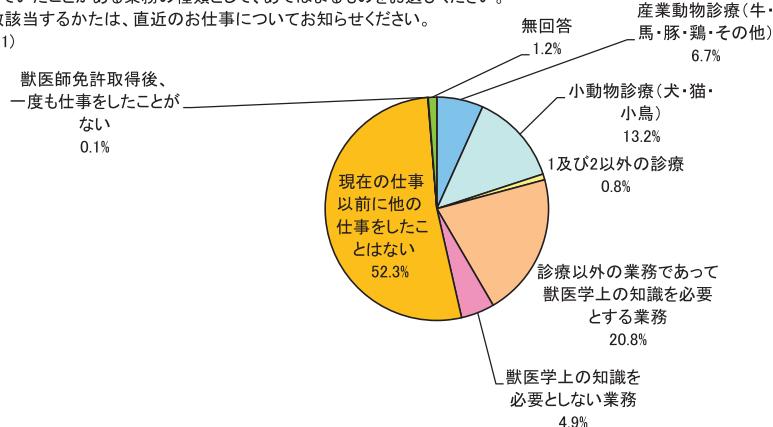
Q4	あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いたことがありますか。 就業していたことがある業務の種類として、あてはまるものをお選びください。 ※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。 (n=4371)		
		N	%
1 産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)	294	6.7	
2 小動物診療(犬・猫・小鳥)	579	13.2	
3 1及び2以外の診療	37	0.8	
4 診療以外の業務であって獣医学上の知識を必要とする業務	908	20.8	
5 獣医学上の知識を必要としない業務	212	4.9	
6 現在の仕事以前に他の仕事をしたことではない	2284	52.3	
7 獣医師免許取得後、一度も仕事をしたことがない	3	0.1	
無回答	54	1.2	
全体	4371	100.0	

[Q4]あなたは、現在の仕事以前に、他の仕事に就いたことがありますか。

就業していたことがある業務の種類として、あてはまるものをお選びください。

※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。

(n=4371)



[現在の仕事以外の職を経験したことがある人が回答]

Q5	以前に就業していたことがある業務の内容として、あてはまるものをお選びください。 ※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。		
		N	%
1 自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)	30	1.5	
2 他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	690	34.0	
3 自ら往診のみによって診療の業務に従事	8	0.4	
4 他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	86	4.2	
5 農林畜産関係の行政事務に従事	271	13.3	
6 公衆衛生関係の行政事務に従事	307	15.1	
7 環境関係の行政事務に従事	34	1.7	
8 その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:【 】)	24	1.2	
9 試験研究に従事(大学勤務を除く。)	113	5.6	
10 獣医学系大学で教育に従事(教官又は教員)	27	1.3	
11 獣医学系大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事	30	1.5	
12 獣医学系大学以外で教育に従事(教官又は教員)	41	2.0	
13 製薬関係に従事	126	6.2	
14 飼料関係に従事	19	0.9	
15 その他(具体的に記入:【 】)	203	10.0	
無回答	21	1.0	
全体	2030	100.0	

[現在の仕事以外の職を経験したことがある人が回答]

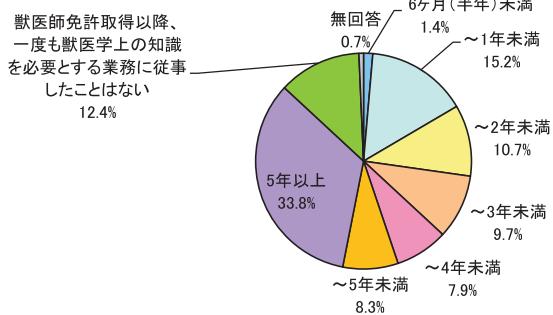
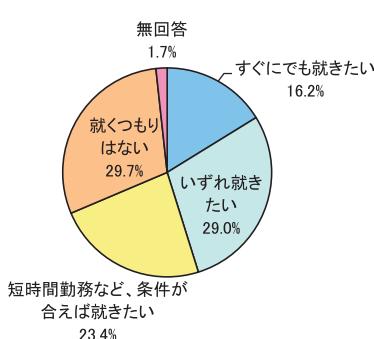
Q6	以前に就業していたことがある勤務先について、あてはまるものをお選びください。 ※複数該当するかたは、直近のお仕事についてお知らせください。		
		N	%
1 個人診療施設	590	29.1	
2 農業協同組合	50	2.5	
3 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	129	6.4	
4 国(本庁等)	38	1.9	
5 国(検査指導機関)	22	1.1	
6 国(その他・具体的に記入:【 】)	16	0.8	
7 都道府県(本庁等)	56	2.8	
8 都道府県(検査指導機関)	15	0.7	
9 都道府県(家畜保健衛生所等)	169	8.3	
10 都道府県(保健所等)	120	5.9	
11 都道府県(食肉衛生検査所等)	103	5.1	
12 都道府県(その他・具体的に記入:【 】)	55	2.7	
13 市町村(本庁等)	12	0.6	
14 市町村(検査指導機関)	6	0.3	
15 市町村(家畜保健衛生所等)	4	0.2	
16 市町村(保健所等)	32	1.6	
17 市町村(食肉衛生検査所等)	26	1.3	
18 市町村(その他・具体的に記入:【 】)	34	1.7	
19 独立行政法人	24	1.2	
20 国立大学法人	55	2.7	
21 私立学校	37	1.8	
22 騒馬関係団体	16	0.8	
23 民間企業	301	14.8	
24 公益法人、一般社団・財団法人等	44	2.2	
25 その他(具体的に記入:【 】)	48	2.4	
無回答	28	1.4	
全体	2030	100.0	

[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人が回答]

Q7	獣医学上の知識を必要とする業務から離れて、どのくらいの期間が経っていますか。最も近いものをお答えください。		
		N	%
1	離れてから6ヶ月(半年)未満	4	1.4
2	~1年未満	44	15.2
3	~2年未満	31	10.7
4	~3年未満	28	9.7
5	~4年未満	23	7.9
6	~5年未満	24	8.3
7	5年以上	98	33.8
8	獣医師免許取得以降、一度も獣医学上の知識を必要とする業務に従事したことはない	36	12.4
	無回答	2	0.7
	全体	290	100.0

[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人が回答]

Q8	あなたは、今後、獣医師としての資格をいかし、獣医学上の知識を必要とする業務に就きたいとお考えですか。		
		N	%
1	すぐにでも就きたい	47	16.2
2	いずれ就きたい	84	29.0
3	短時間勤務など、条件が合えば就きたい	68	23.4
4	就くつもりはない	86	29.7
	無回答	5	1.7
	全体	290	100.0

[Q7]獣医学上の知識を必要とする業務から離れて、どのくらいの期間が経っていますか。最も近いものをお答えください。
(n=290)[Q8]あなたは、今後、獣医師としての資格をいかし、獣医学上の知識を必要とする業務に就きたいとお考えですか。
(n=290)

[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人が回答]

Q9	あなたが現在、獣医学上の知識を必要とする業務に就いていない理由として、あてはまるものを全てお選びください。(いくつでも)		
		N	%
複数回答			
1	精神的に疲れる仕事だから	23	7.9
2	体力的に自信がないから	41	14.1
3	技術的に自信がないから	48	16.6
4	業務内容に収入が見合っていないから	35	12.1
5	自分には向いていない仕事だから	18	6.2
6	短時間勤務なら可能だが、適当な職場がみつからないから	27	9.3
7	時間の融通がきかない、休みが取れないから	28	9.7
8	家の近くに適当な職場がないから	34	11.7
9	現在の仕事を続けたいから(仕事の内容を具体的にお書きください:【 】)	42	14.5
10	他にやりたいこと(趣味や勉強など)があるから	24	8.3
11	就職活動をしたいが、どうしたらよいかわからないうから	8	2.8
12	就職活動中だが、うまくいっていないから	3	1.0
13	家事	15	5.2
14	結婚	5	1.7
15	妊娠・出産	4	1.4
16	育児	16	5.5
17	介護	5	1.7
18	人事異動	113	39.0
19	その他の事情(夫の転勤、家族に反対されているなど)(具体的にお書きください:【 】)	22	7.6
	無回答	7	2.4
	全体	290	100.0

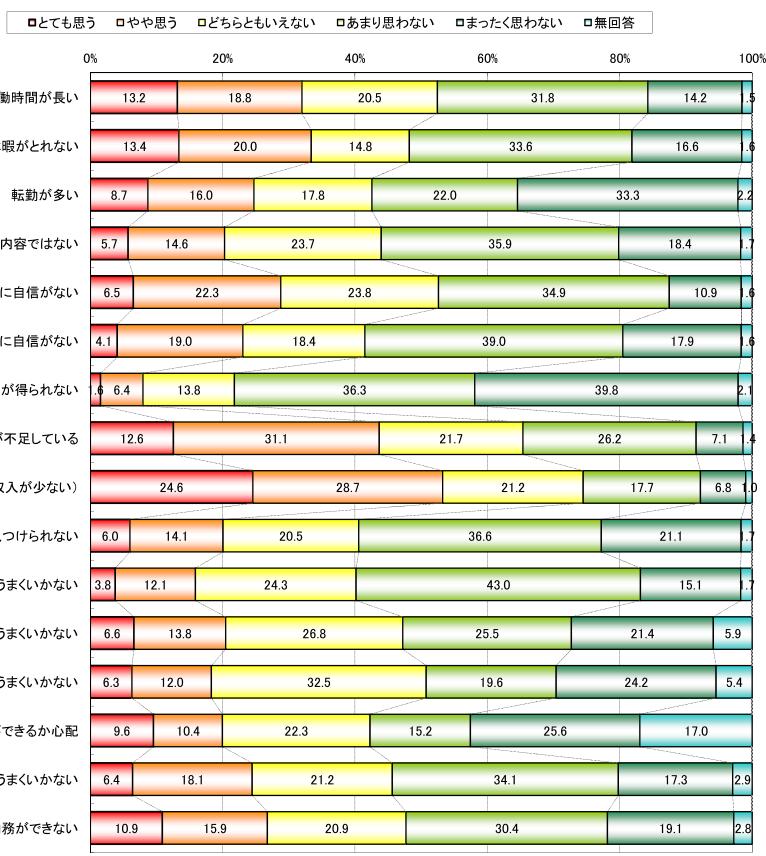
[現在無職の人を含め、これまでに何らかの仕事をしたことがある人が回答]

Q10	現在、あなたが仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うことはありますか。 それぞれの項目について5段階でお答えください。 ※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。 单一回答	全体	1	2	3	4	無回答
			とても思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思わない	
1	労働時間が長い	4314 100.0	569 13.2	811 18.8	883 20.5	1371 31.8	66 1.5
2	休暇がとれない	4314 100.0	578 13.4	863 20.0	639 14.8	1451 33.6	68 1.6
3	転勤が多い	4314 100.0	376 8.7	691 16.0	769 17.8	949 22.0	93 2.2
4	期待していた仕事の内容ではない	4314 100.0	248 5.7	628 14.6	1021 23.7	1547 35.9	75 1.7
5	技術的に自信がない	4314 100.0	282 6.5	960 22.3	1028 23.8	1504 34.9	71 1.6
6	体力に自信がない	4314 100.0	177 4.1	818 19.0	795 18.4	1681 39.0	71 1.6
7	家族の理解が得られない	4314 100.0	68 1.6	276 6.4	596 13.8	1566 36.3	91 2.1
8	知識や経験が不足している	4314 100.0	543 12.6	1341 31.1	936 21.7	1129 26.2	60 1.4
9	給料が安い(収入が少ない)	4314 100.0	1060 24.6	1237 28.7	916 21.2	764 17.7	42 1.0
10	やりがいを見つけられない	4314 100.0	259 6.0	607 14.1	884 20.5	1581 36.6	72 1.7
11	仕事上の人間関係がうまくいかない	4314 100.0	164 3.8	522 12.1	1047 24.3	1853 43.0	75 1.7
12	仕事と育児との両立がうまくいかない	4314 100.0	286 6.6	597 13.8	1154 26.8	1099 25.5	253 5.9
13	仕事と介護の両立がうまくいかない	4314 100.0	272 6.3	518 12.0	1400 32.5	847 19.6	235 5.4
14	妊娠中に仕事ができるか心配	4314 100.0	413 9.6	449 10.4	962 22.3	654 15.2	732 17.0
15	仕事と家事の両立がうまくいかない	4314 100.0	277 6.4	779 18.1	913 21.2	1473 34.1	127 2.9
16	必要なときに短時間の勤務ができない	4314 100.0	471 10.9	684 15.9	903 20.9	1313 30.4	120 2.8

[Q10]現在、あなたが仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うことはありますか。

それぞれの項目について5段階でお答えください。

※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。



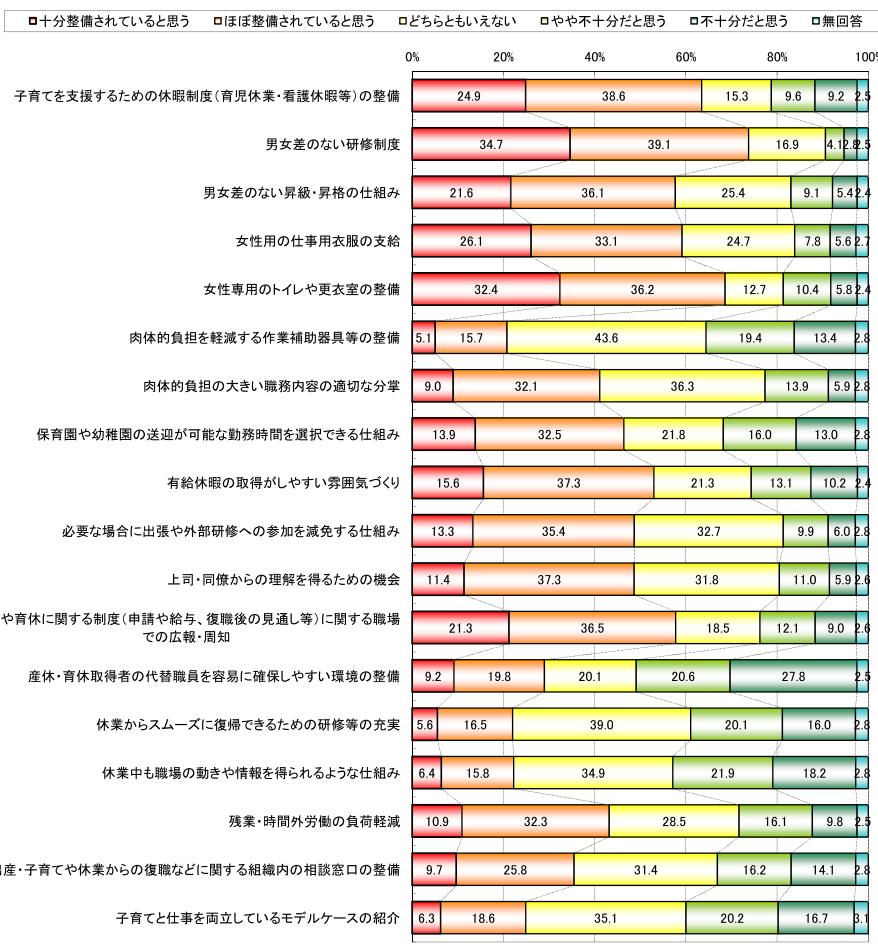
[現在無職の人を含め、これまでに何らかの仕事をしたことがある人が回答]

Q11	職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。 以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。 ※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。 单一回答	全体	1 十分整備され ていると思 う	2 ほぼ整備さ れていると思 う	3 どちらともい えない	4 やや不十分 だと思う	無回答
1	子育てを支援するための休暇制度(育児休業・看護休暇等)の整備	4314 100.0	1074 24.9	1664 38.6	659 15.3	413 9.6	107 9.2
2	男女差のない研修制度	4314 100.0	1495 34.7	1687 39.1	727 16.9	177 4.1	108 2.5
3	男女差のない昇級・昇格の仕組み	4314 100.0	933 21.6	1556 36.1	1094 25.4	393 9.1	105 2.4
4	女性用の仕事用衣服の支給	4314 100.0	1126 26.1	1427 33.1	1065 24.7	336 7.8	117 2.7
5	女性専用のトイレや更衣室の整備	4314 100.0	1397 32.4	1563 36.2	550 12.7	449 10.4	105 2.4
6	肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	4314 100.0	219 5.1	678 15.7	1882 43.6	835 19.4	121 2.8
7	肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	4314 100.0	389 9.0	1385 32.1	1564 36.3	599 13.9	122 2.8
8	保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	4314 100.0	598 13.9	1404 32.5	941 21.8	689 16.0	121 2.8
9	有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	4314 100.0	675 15.6	1611 37.3	921 21.3	564 13.1	102 2.4
10	必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	4314 100.0	574 13.3	1527 35.4	1409 32.7	425 9.9	122 2.8
11	上司・同僚からの理解を得るための機会	4314 100.0	492 11.4	1608 37.3	1373 31.8	474 11.0	113 2.6
12	産休や育休に関する制度(申請や給与、復職後の見通し等)に関する職場での広報・周知	4314 100.0	917 21.3	1575 36.5	797 18.5	523 12.1	114 2.6
13	産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	4314 100.0	395 9.2	856 19.8	868 20.1	888 20.6	108 2.5
14	休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	4314 100.0	240 5.6	710 16.5	1684 39.0	868 20.1	121 2.8
15	休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	4314 100.0	277 6.4	683 15.8	1505 34.9	946 21.9	119 2.8
16	残業・時間外労働の負荷軽減	4314 100.0	471 10.9	1393 32.3	1228 28.5	693 16.1	106 2.5
17	出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	4314 100.0	418 9.7	1114 25.8	1355 31.4	698 16.2	119 2.8
18	子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	4314 100.0	270 6.3	804 18.6	1516 35.1	872 20.2	133 3.1

[Q11]職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。

以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。

※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。



[現在無職の人を含め、これまでに何らかの仕事をしたことがある人が回答]

Q12	これまで獣医学上の知識を必要とする業務から離れたことはありますか。その理由は何ですか。 あてはまるものを全てお選び下さい。(いくつでも) 複数回答	N	%
1	精神的に疲れる仕事だったから	186	4.3
2	体力的に自信がなかったから	96	2.2
3	技術的に自信がなかったから	92	2.1
4	業務内容に収入が見合っていなかったから	108	2.5
5	自分には向いていない仕事だったから	67	1.6
6	スキルアップやキャリアアップが望めなかつたから	61	1.4
7	短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかったから	41	1.0
8	時間の融通がきかなかつた、休みが取れなかつたから	106	2.5
9	家の近くに適当な職場がなかつたから	66	1.5
10	他にやりたい仕事があったから(仕事の内容を具体的にお書きください:【 】)	70	1.6
11	他にやりたいこと(趣味や勉強など)があつたから	52	1.2
12	家事	32	0.7
13	結婚	68	1.6
14	妊娠・出産	193	4.5
15	育児	145	3.4
16	介護	19	0.4
17	人事異動	406	9.4
18	その他の事情(夫の転勤、家族の反対、など)(具体的にお書きください:【 】)	92	2.1
19	これまで、獣医学上の知識を必要とする仕事を離れたことはない	3151	73.0
	無回答	105	2.4
	全体	4314	100.0

[全員回答]

Q13	今後、もしも転職や再就職をするとしたら、転職先や再就職先の情報はどうようと集めますか。 あてはまるものを全てお選びください。 また、その中から、『最も役立つ情報が得られると思うもの』をひとつお選びください。 ※この質問は縦方向にお答えください。	全体	1 獣医療関係のホームページ	2 民間の転職・求人サイト	3 大学の就職課やゼミの先生・先輩など	4 ハローワーク	6 求人側のホームページやチラシ	7 知人や友人の紹介・口コミ	8 その他(具体的にお書きください:)	9 特に自分から情報は集めない
1	情報収集元(全て)	4371 100.0	3052 69.8	2315 53.0	1760 40.3	1465 33.5	1926 44.1	2931 67.1	130 3.0	209 4.8
2	最も役立つ情報が得られると思うもの(ひとつ)	4371 100.0	943 21.6	466 10.7	461 10.5	245 5.6	410 9.4	1317 30.1	89 2.0	209 4.8

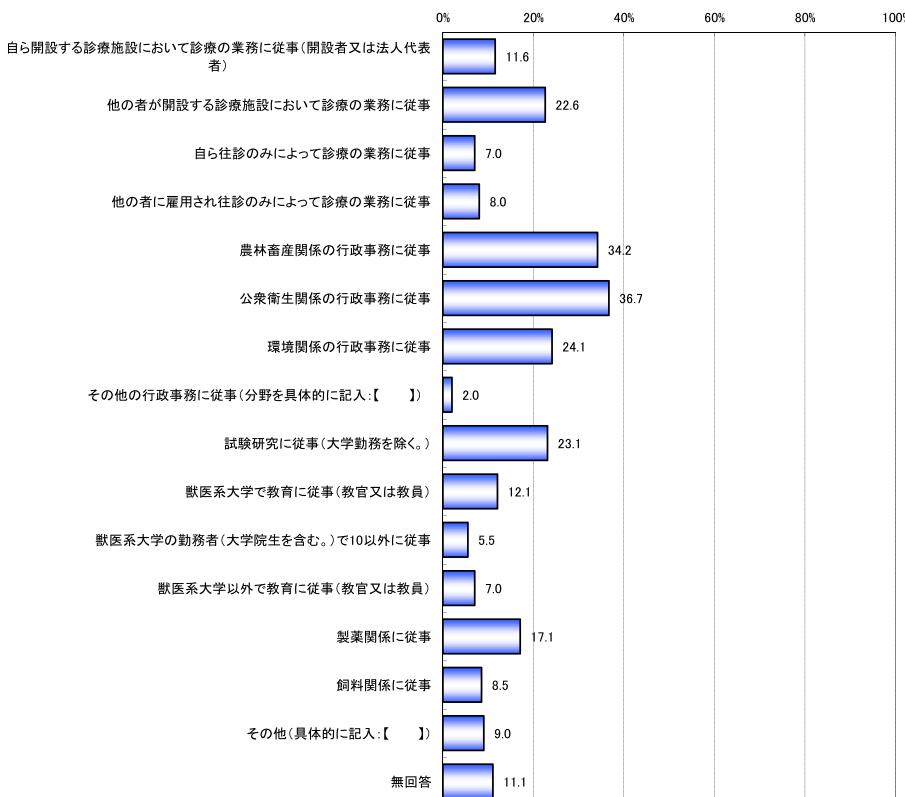
[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人たち、獣医学上の知識を必要とする業務への再就業意向のある人が回答]

Q14	あなたが就職を希望する業務の種類としてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも) 複数回答	N	%
1	産業動物診療(牛・馬・豚・鶏・その他)	28	14.1
2	小動物診療(犬・猫・小鳥)	42	21.1
3	1及び2以外の診療	15	7.5
4	診療以外の業務であつて獣医学上の知識を必要とする業務	145	72.9
	無回答	22	11.1
	全体	199	100.0

[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人のうち、獣医学上の知識を必要とする業務への再就業意向のある人が回答]

Q15	あなたが就職を希望する業務の内容としてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)		
		N	%
複数回答			
1	自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)	23	11.6
2	他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	45	22.6
3	自ら往診のみによって診療の業務に従事	14	7.0
4	他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	16	8.0
5	農林畜産関係の行政事務に従事	68	34.2
6	公衆衛生関係の行政事務に従事	73	36.7
7	環境関係の行政事務に従事	48	24.1
8	その他の行政事務に従事(分野を具体的に記入:【 】)	4	2.0
9	試験研究に従事(大学勤務を除く。)	46	23.1
10	獣医学大学で教育に従事(教官又は教員)	24	12.1
11	獣医学大学の勤務者(大学院生を含む。)で10以外に従事	11	5.5
12	獣医学大学以外で教育に従事(教官又は教員)	14	7.0
13	製薬関係に従事	34	17.1
14	飼料関係に従事	17	8.5
15	その他(具体的に記入:【 】)	18	9.0
	無回答	22	11.1
	全体会員	199	100.0

[Q15]あなたが就職を希望する業務の内容としてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)
(n=199)



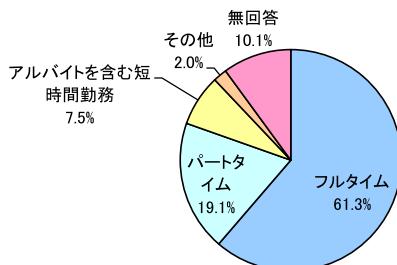
[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人のうち、獣医学上の知識を必要とする業務への再就業意向のある人が回答]

Q16	あなたが就業を希望する勤務先としてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	N	%
複数回答			
1 個人診療施設	46	23.1	
2 農業協同組合	15	7.5	
3 農業共済組合、農業共済組合連合会又は特定組合	21	10.6	
4 国(本庁等)	21	10.6	
5 国(検査指導機関)	29	14.6	
6 国(その他・具体的に記入:【 】)	2	1.0	
7 都道府県(本庁等)	25	12.6	
8 都道府県(検査指導機関)	43	21.6	
9 都道府県(家畜保健衛生所等)	53	26.6	
10 都道府県(保健所等)	40	20.1	
11 都道府県(食肉衛生検査所等)	38	19.1	
12 都道府県(その他・具体的に記入:【 】)	8	4.0	
13 市町村(本庁等)	19	9.5	
14 市町村(検査指導機関)	27	13.6	
15 市町村(家畜保健衛生所等)	27	13.6	
16 市町村(保健所等)	23	11.6	
17 市町村(食肉衛生検査所等)	25	12.6	
18 市町村(その他・具体的に記入:【 】)	4	2.0	
19 獨立行政法人	39	19.6	
20 国立大学法人	31	15.6	
21 私立学校	24	12.1	
22 競馬関係団体	9	4.5	
23 民間企業	61	30.7	
24 公益法人、一般社団・財団法人等	42	21.1	
25 その他(具体的に記入:【 】)	6	3.0	
無回答	23	11.6	
全体会	199	100.0	

[現在、獣医学上の知識を必要としない業務に従事している人及び無職の人のうち、獣医学上の知識を必要とする業務への再就業意向のある人が回答]

Q17	あなたが就業を希望する勤務形態はどれですか。 【 】	N	%
単一回答			
1 フルタイム	122	61.3	
2 パートタイム	38	19.1	
3 アルバイトを含む短時間勤務	15	7.5	
4 その他(具体的にお書きください:【 】)	4	2.0	
無回答	20	10.1	
全体会	199	100.0	

[Q17]あなたが就業を希望する勤務形態はどれですか。
(n=199)



[全員回答]

Q19	女性獣医師の就業環境について、現在の職場の問題点や、制度的な改善が必要な部分など、どのような事でも構いませんので、ご自由にお書きください。	N	%
自由回答			
別途記載			

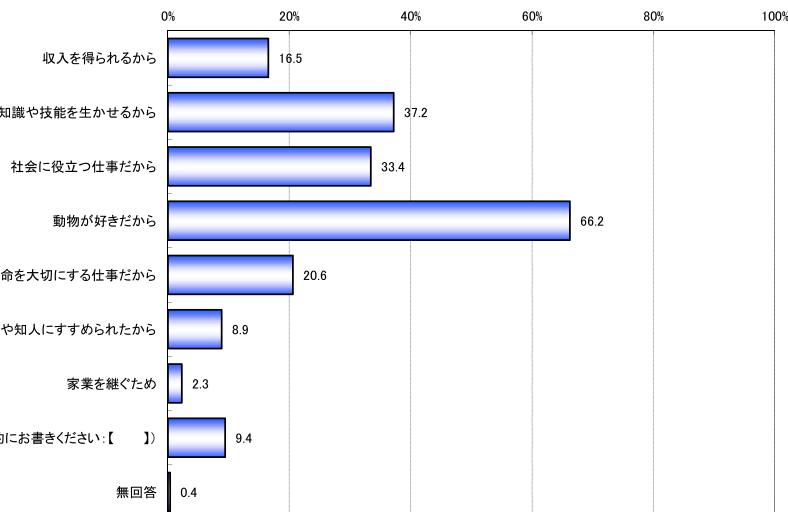
[全員回答]

Q19	ご自身の性別をお知らせください。	N	%
単一回答			
1 男性	2923	66.9	
2 女性	1429	32.7	
無回答	19	0.4	
全体会	4371	100.0	

[全員回答]

Q20	あなたが獣医師になった理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。(いくつでも) 複数回答	N	%
1 収入を得られるから	723	16.5	
2 知識や技能を生かせるから	1626	37.2	
3 社会に役立つ仕事だから	1461	33.4	
4 動物が好きだから	2895	66.2	
5 命を大切にする仕事だから	900	20.6	
6 家族や知人にすすめられたから	387	8.9	
7 家業を継ぐため	100	2.3	
8 その他 (具体的にお書きください:【 】)	412	9.4	
無回答	16	0.4	
全体	4371	100.0	

[Q20]あなたが獣医師になった理由は何ですか。あてはまるものを全てお選びください。(いくつでも)
(n=4371)



[全員回答]

Q21	ご自身の年代をお知らせください。 単一回答	N	%
1 20代	484	11.1	
2 30代	1225	28.0	
3 40代	1060	24.3	
4 50代	1204	27.5	
5 60代	341	7.8	
6 70代以上	36	0.8	
無回答	21	0.5	
全体	4371	100.0	

[全員回答]

Q22 ご自身の居住地をお知らせください。 単一回答		N	%
1 北海道		482	11.0
2 青森県		36	0.8
3 岩手県		89	2.0
4 宮城県		40	0.9
5 秋田県		27	0.6
6 山形県		52	1.2
7 福島県		69	1.6
8 茨城県		134	3.1
9 栃木県		148	3.4
10 群馬県		79	1.8
11 埼玉県		153	3.5
12 千葉県		231	5.3
13 東京都		320	7.3
14 神奈川県		225	5.1
15 新潟県		33	0.8
16 富山県		60	1.4
17 石川県		34	0.8
18 福井県		33	0.8
19 山梨県		13	0.3
20 長野県		114	2.6
21 岐阜県		83	1.9
22 静岡県		67	1.5
23 愛知県		80	1.8
24 三重県		22	0.5
25 滋賀県		42	1.0
26 京都府		53	1.2
27 大阪府		120	2.7
28 兵庫県		145	3.3
29 奈良県		64	1.5
30 和歌山県		55	1.3
31 鳥取県		53	1.2
32 島根県		100	2.3
33 岡山県		63	1.4
34 広島県		66	1.5
35 山口県		77	1.8
36 徳島県		99	2.3
37 香川県		53	1.2
38 愛媛県		48	1.1
39 高知県		27	0.6
40 福岡県		200	4.6
41 佐賀県		41	0.9
42 長崎県		84	1.9
43 熊本県		62	1.4
44 大分県		24	0.5
45 宮崎県		87	2.0
46 鹿児島県		77	1.8
47 沖縄県		32	0.7
無回答		75	1.7
全体		4371	100.0

[全員回答]

Q23 あなたは、現在、ご家族と同居されていますか。 単一回答		N	%
1 結婚していて、家族と同居している		3017	69.0
2 結婚しておらず、家族と同居している		281	6.4
3 結婚していて、独り暮らしである		207	4.7
4 結婚しておらず、独り暮らしである		841	19.2
無回答		25	0.6
全体		4371	100.0

[全員回答]

Q24 お子さまはいらっしゃいますか。 単一回答		N	%
1 いる		2736	62.6
2 いない		1607	36.8
無回答		28	0.6
全体		4371	100.0

子供がいる人が回答]

Q25	お子さまの年齢をお知らせください。 ※5人以上のお子さまがいらっしゃる場合は、年長者から順に5名分をお知らせください。 自由記述		
	自由記載のため全体集計は行っていない		

参考資料3 中間報告における調査結果の分析

1 仕事への不安と就業支援の実態

20代から60代の就労世代獣医師の男女別の集計結果、現在は無職である女性獣医師の回答からは、女性獣医師が抱えている課題に加え、男性獣医師も含めた獣医師全体で取り組むべき課題も明らかになった。

(1) 獣医師が抱えている不安

「現在あなたが仕事をしていて不安に感じたり、負担に思うことはありますか。」の設問への回答は以下のとおりであった。

ア 診療獣医師

図1-1に産業動物診療に従事する男性獣医師、図1-2にその女性獣医師、図2-1に小動物診療に従事する男性獣医師、図2-2にその女性獣医師の回答割合をグラフに示した。

(ア) 労働条件

労働時間、休暇、給与等について、小動物診療獣医師で不安や負担を感じている割合が高く、特に「労働時間の長さ」や「休暇の取りにくさ」については、男性獣医師、女性獣医師ともに約7割が不安や負担を感じていた。

こうした勤務環境の厳しさは、団体や企業に勤務していることが多い産業動物診療獣医師に対し、開業獣医師又は勤務獣医師として小規模施設に従事していることが多い小動物診療獣医師の男女共通の課題であることが伺えた。

(イ) 技術や知識経験

「技術的に自信がない」、「知識や経験が不足している」と感じている割合は産業動物診療獣医師、小動物診療獣医師とともに男性獣医師に比べて女性獣医師が高かった。

(ウ) 体力・仕事や育児等との両立

「体力に自信がない」、「妊娠中の仕事の継続」、「仕事と育児や家事との両立」への不安は、産業動物診療獣医師、小動物診療獣医師とともに、女性獣医師は高い割合で感じていた。特に、「妊娠中の仕事の継続」、「仕事と育児や家事との両立」に関連して、「就業時間の変更」、「パートタイム勤務等の短時間勤務」への要望も高く、「必要なときに短時間の勤務ができない」と感じている女性獣医師は、産業動物診療獣医師で46%、小動物診療獣医師で56%であった。

女性獣医師にはライフステージに応じたきめ細かいサポートが必要であることが伺えた。

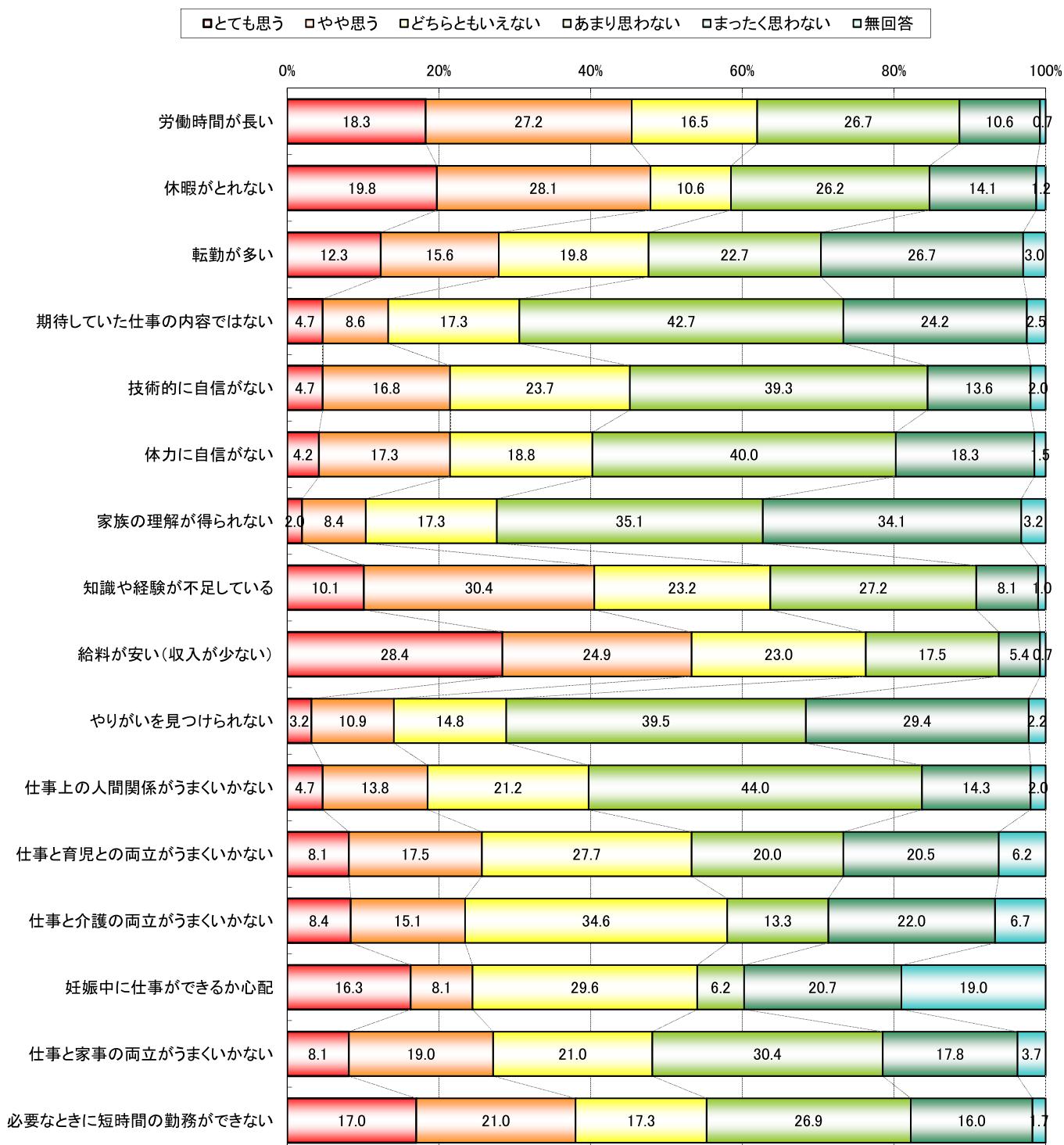
イ 公務員獣医師

図3-1に男性獣医師、図3-2に女性獣医師の回答割合を示した。

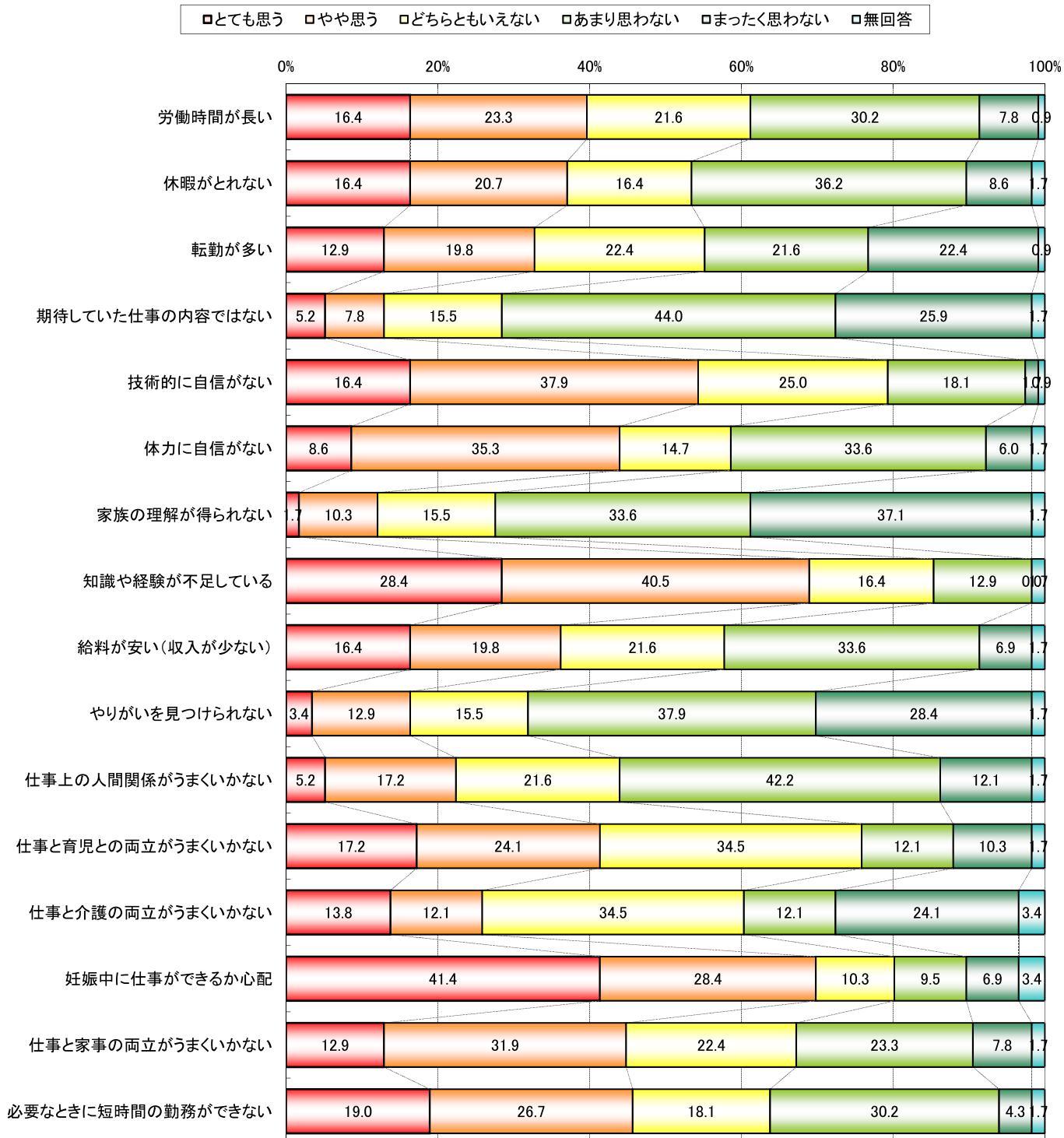
小動物診療獣医師に顕著であった「労働時間の長さ」や「休暇の取りにくさ」への不安を感じている割合は低く、労働環境に配慮されている状況が伺えた。

一方で、「知識や経験の不足」、「給料が安い」と感じている割合は、男性獣医師、女性獣医師とともに高く、公務員獣医師においても処遇改善やスキルアップの仕組みについては男女共通の課題であることが伺えた。

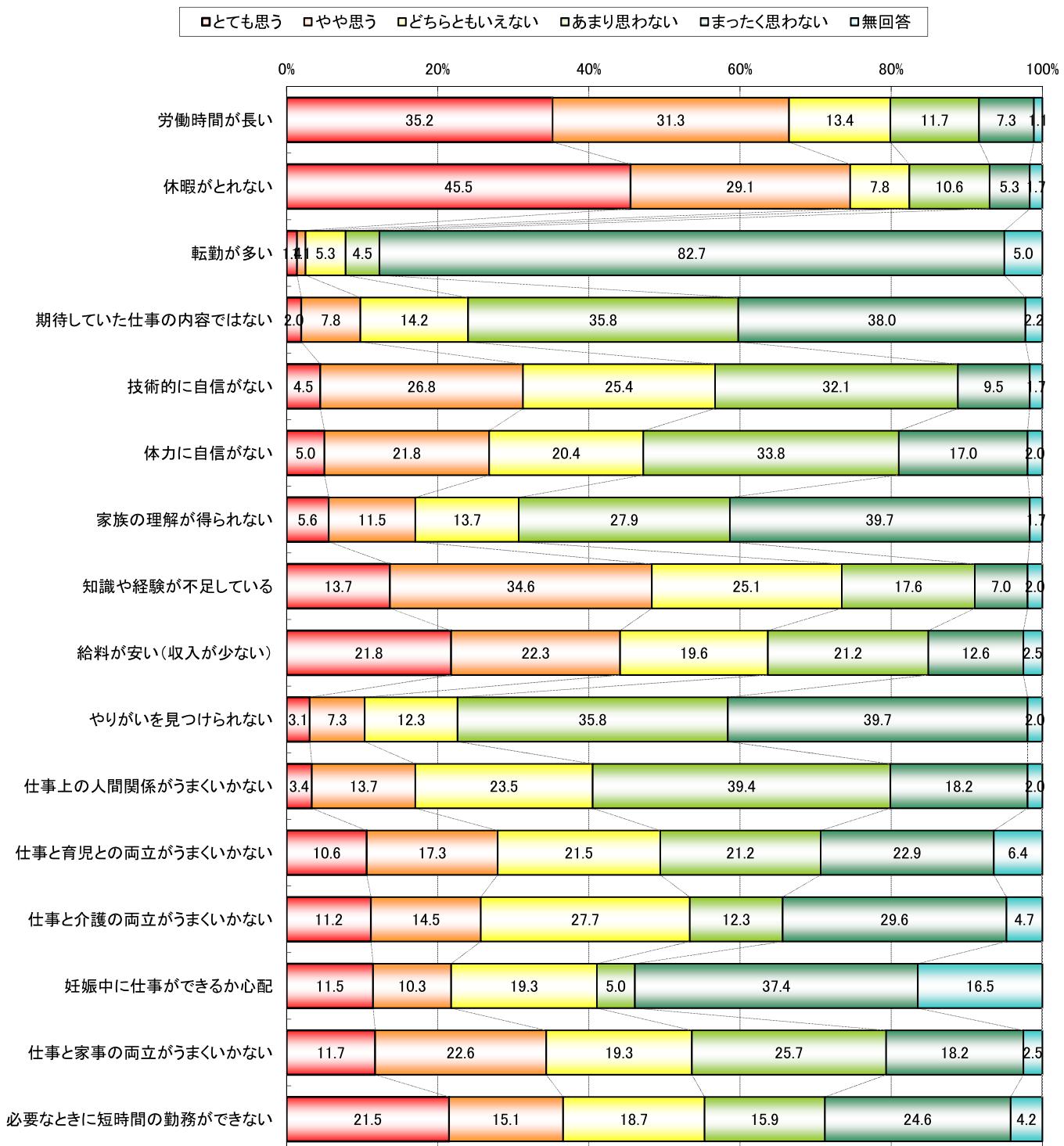
[図1-1] 産業動物診療分野に従事する男性獣医師の仕事への不安



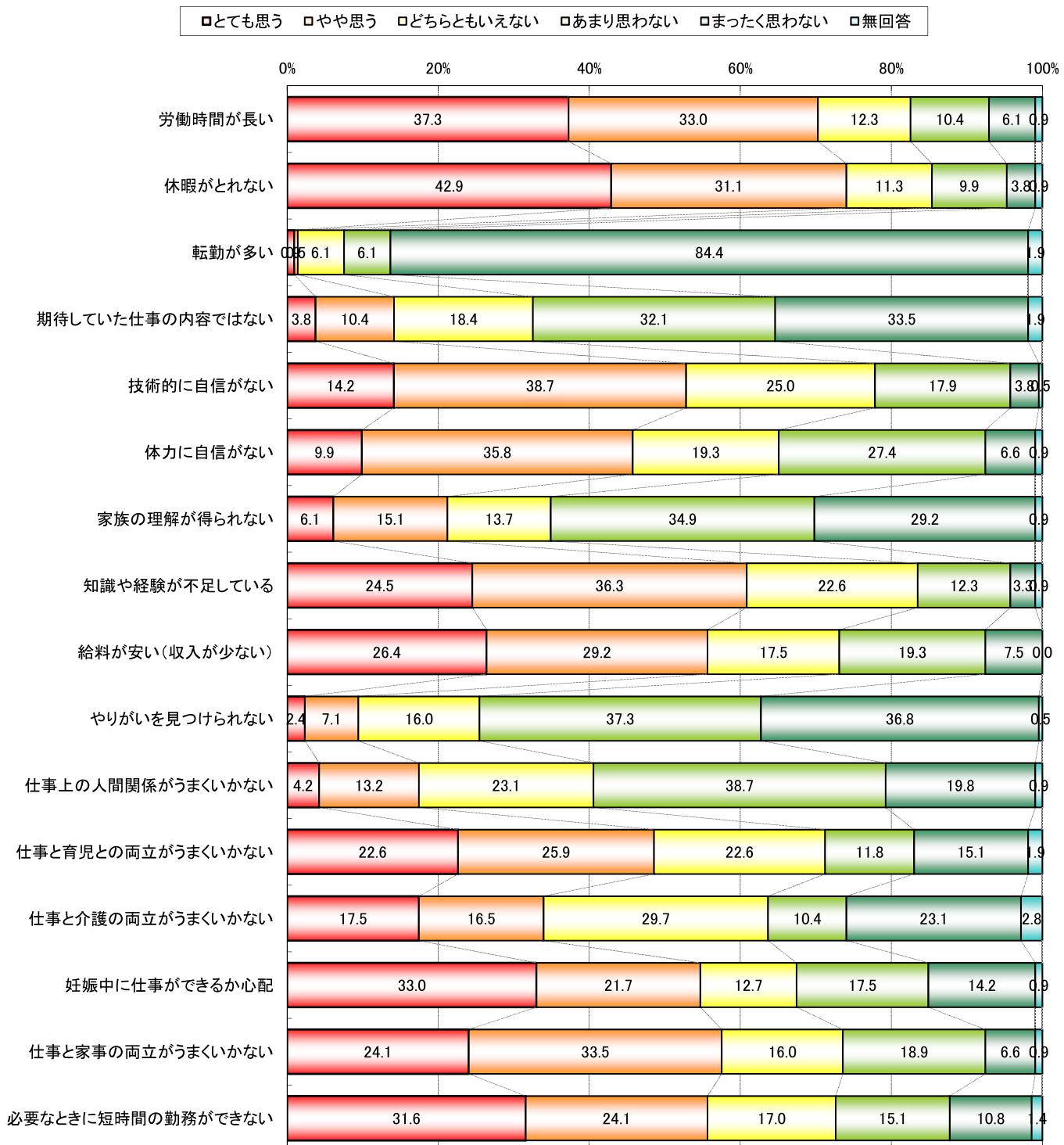
[図1-2] 産業動物診療分野に従事する女性獣医師の仕事への不安



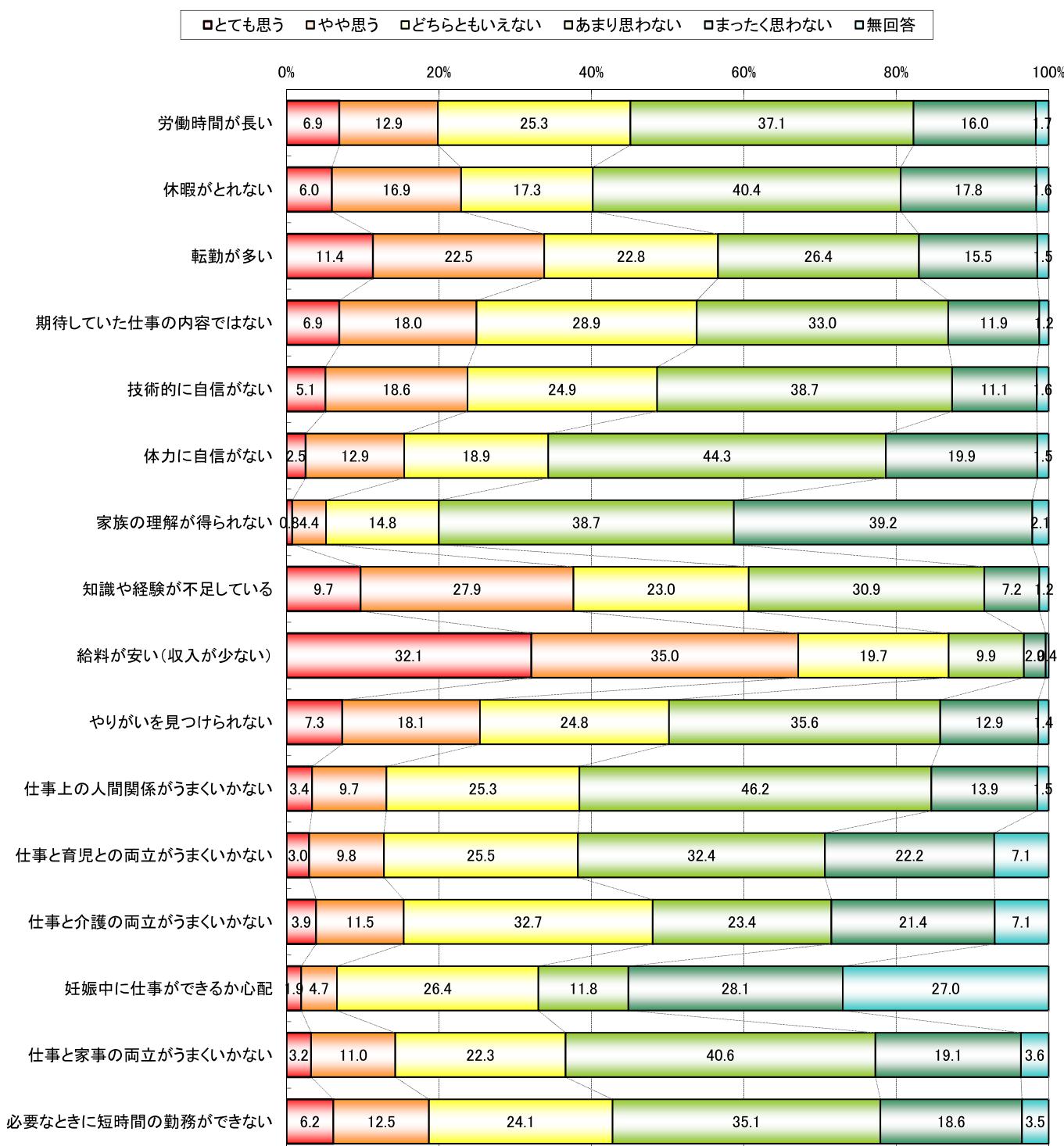
[図2-1] 小動物診療分野に従事する男性獣医師の仕事への不安



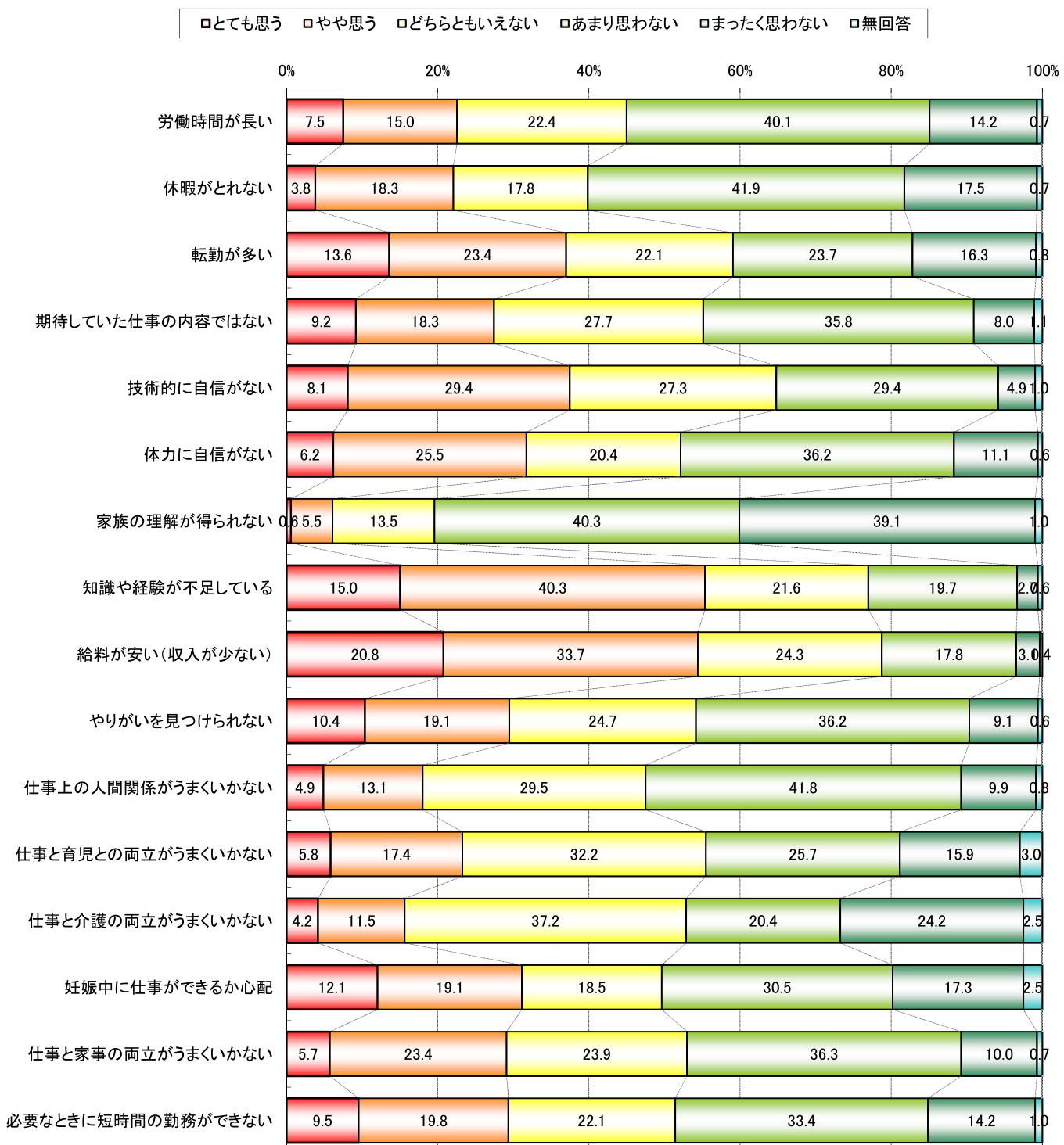
[図2-2] 小動物診療分野に従事する女性獣医師の仕事への不安



[図3-1] 公務員男性獣医師の仕事への不安



[図3-2] 公務員女性獣医師の仕事への不安



(2) 女性獣医師への就業支援の実態

「職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。」の設問への回答は以下のとおりであった。

ア 診療獣医師

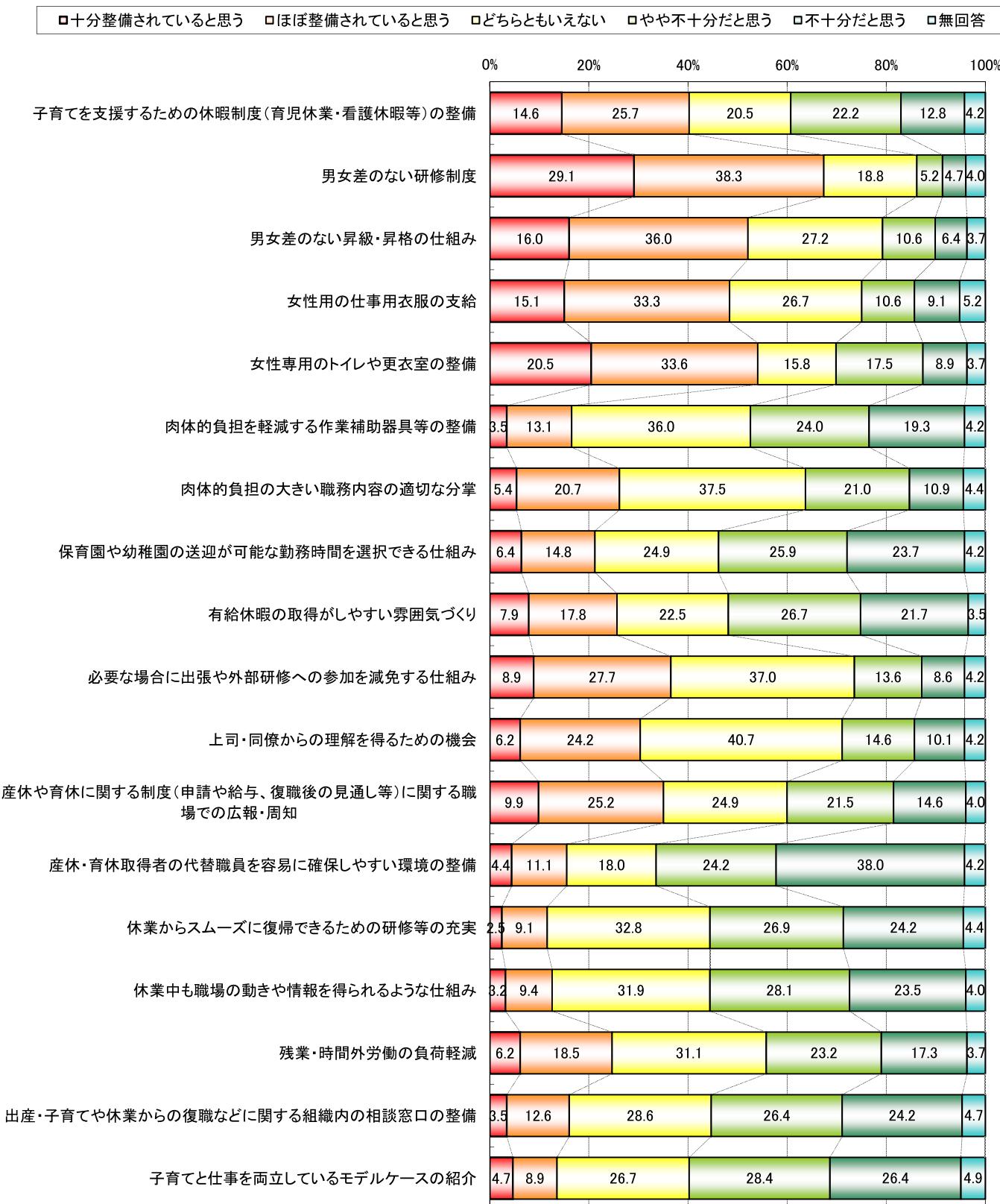
図4-1に産業動物診療分野に従事する男性獣医師、図4-2にその女性獣医師、図5-1に小動物診療分野に従事する男性獣医師、図5-2にその女性獣医師の回答割合を示した。図6-1の公務員男性獣医師、図6-2の公務員女性獣医師と比較して、産業動物診療及び小動物診療とともに、診療に従事する獣医師の「十分整備されている」、「ほぼ整備されている」の回答割合は低かった。特に、新卒者の約半数が進路とする小動物診療分野は、産業動物診療分野と比較して、「十分整備されている」、「ほぼ整備されている」とする回答割合が低く、女性獣医師にとって働きやすい職場とは言い難く、改善が求められていると考えられた。

イ 公務員獣医師

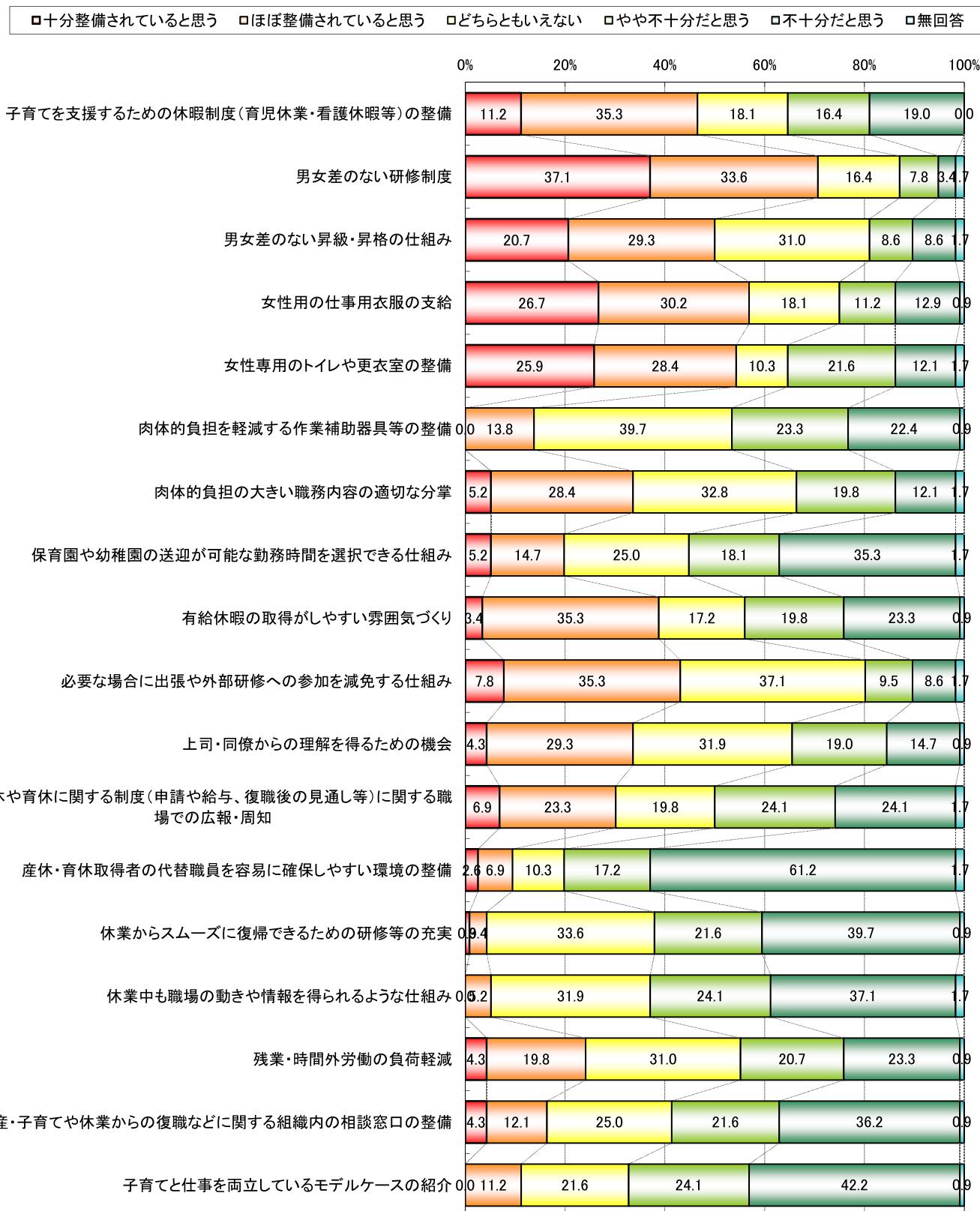
図6-1、図6-2にみられるように、就業上の不安が比較的少なかった公務員獣医師では、就業者の不安感の少なさを裏付けるように、制度的な整備は相当進んでいる様子が伺えた。一方で、「肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備」や「出産休暇・育児休暇取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備」、「休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実」、「休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み」、「子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介」については、「十分整備されている」と「ほぼ整備されている」とする回答割合が低かった。

このことから、公務員獣医師の場合も、就業規則等の制度上の整備は相当程度進んでいるものの、女性特有の問題、たとえば男性に比べて体力的に不利であること、育児休暇や出産休暇の取得をはじめ子育てを不安なく行える職場環境が求められていること、出産や育児で一定期間職場を離れた後のスムーズな職場復帰が求められていること等の就業現場での対応は、必ずしも十分ではない実態が伺えた。

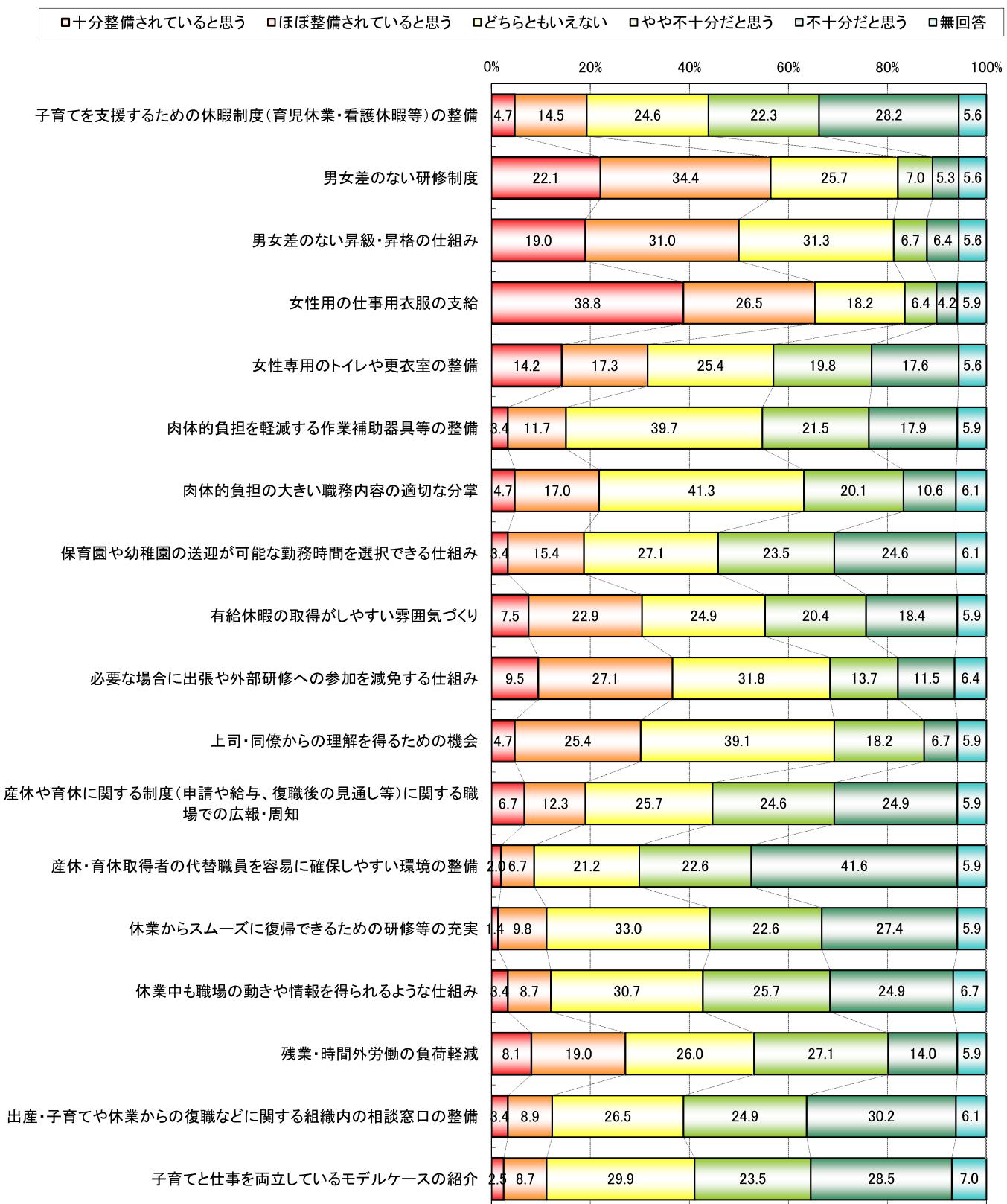
[図4-1] 産業動物診療に従事する男性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



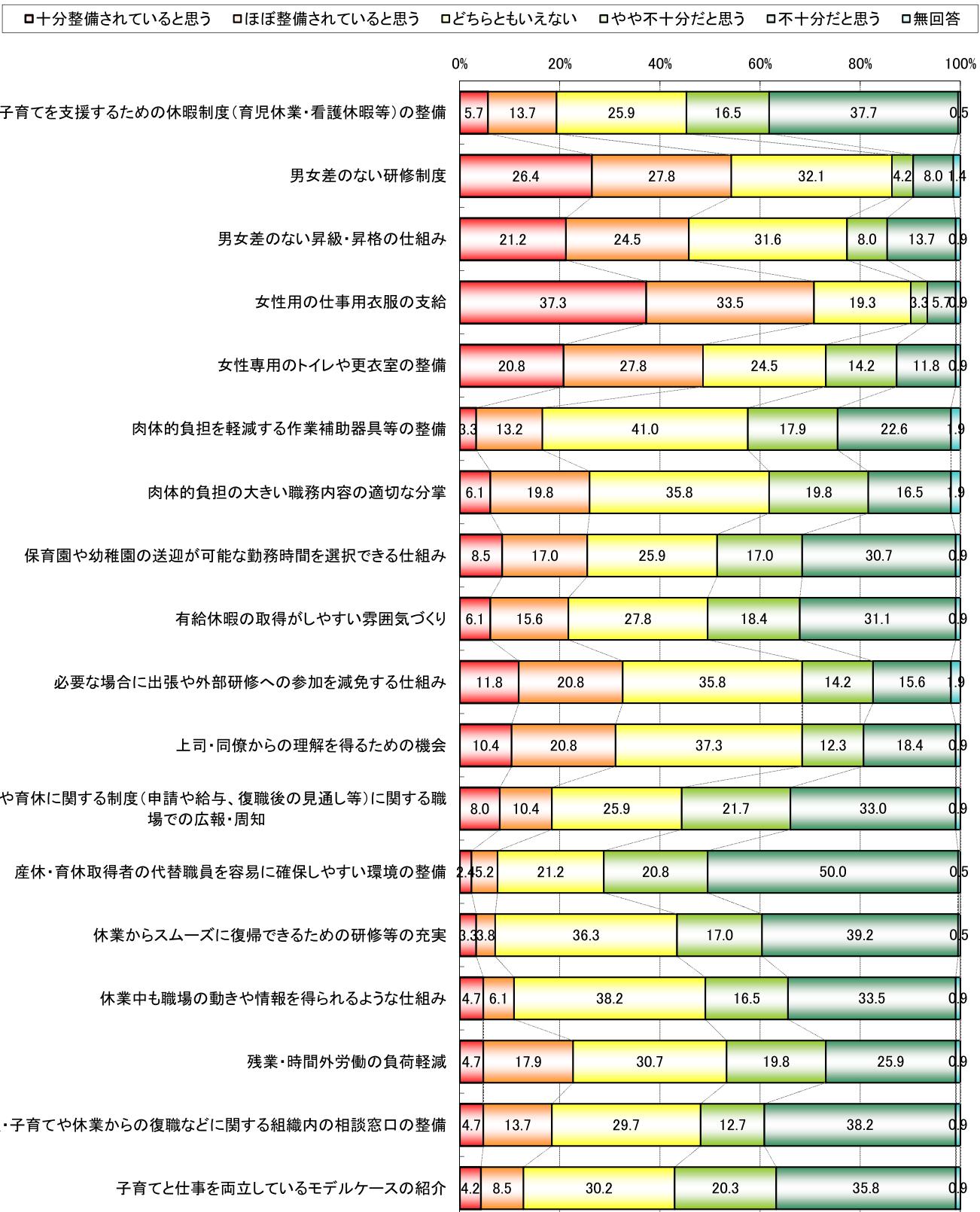
[図4-2] 産業動物診療に従事する女性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



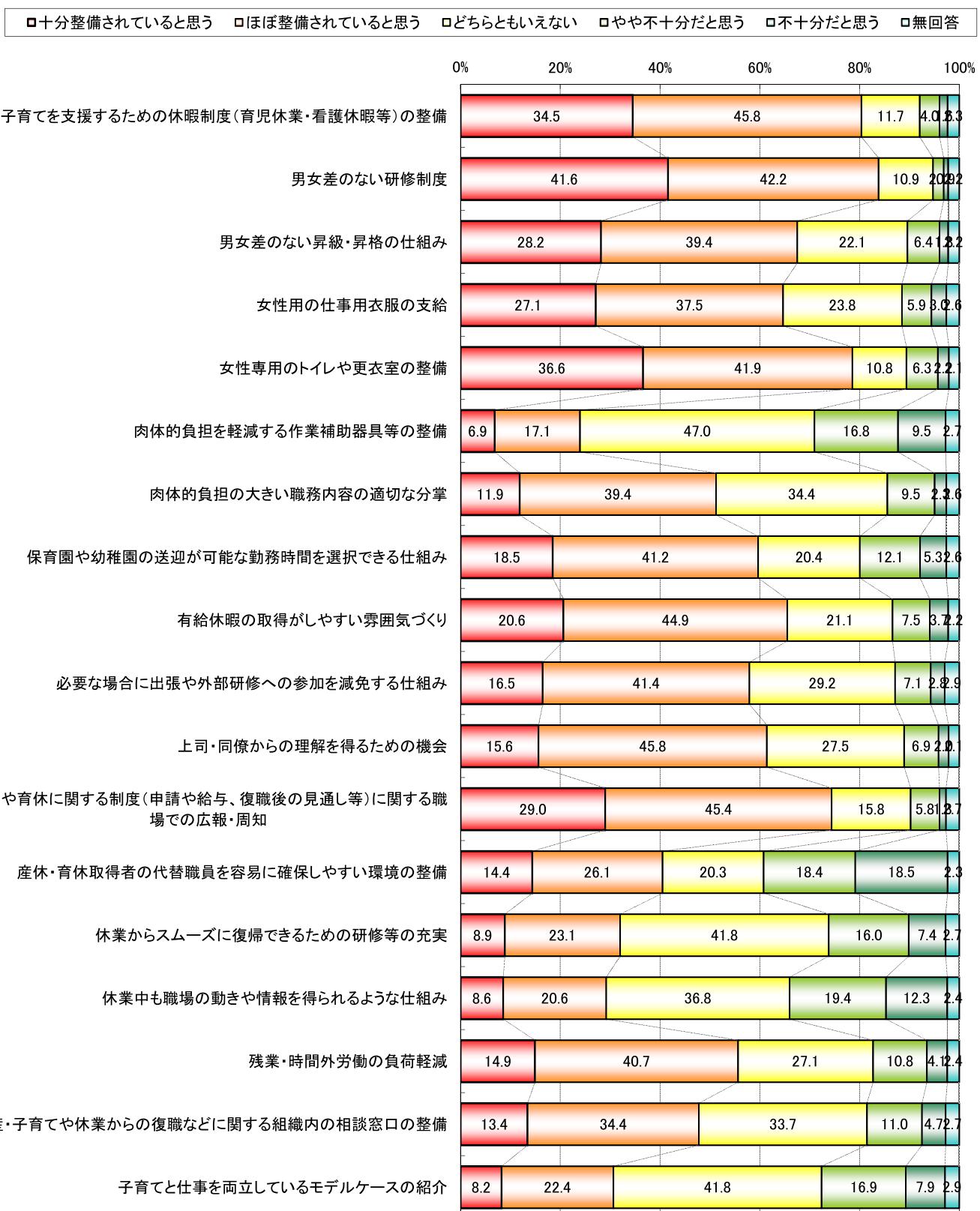
[図5-1] 小動物診療に従事する男性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



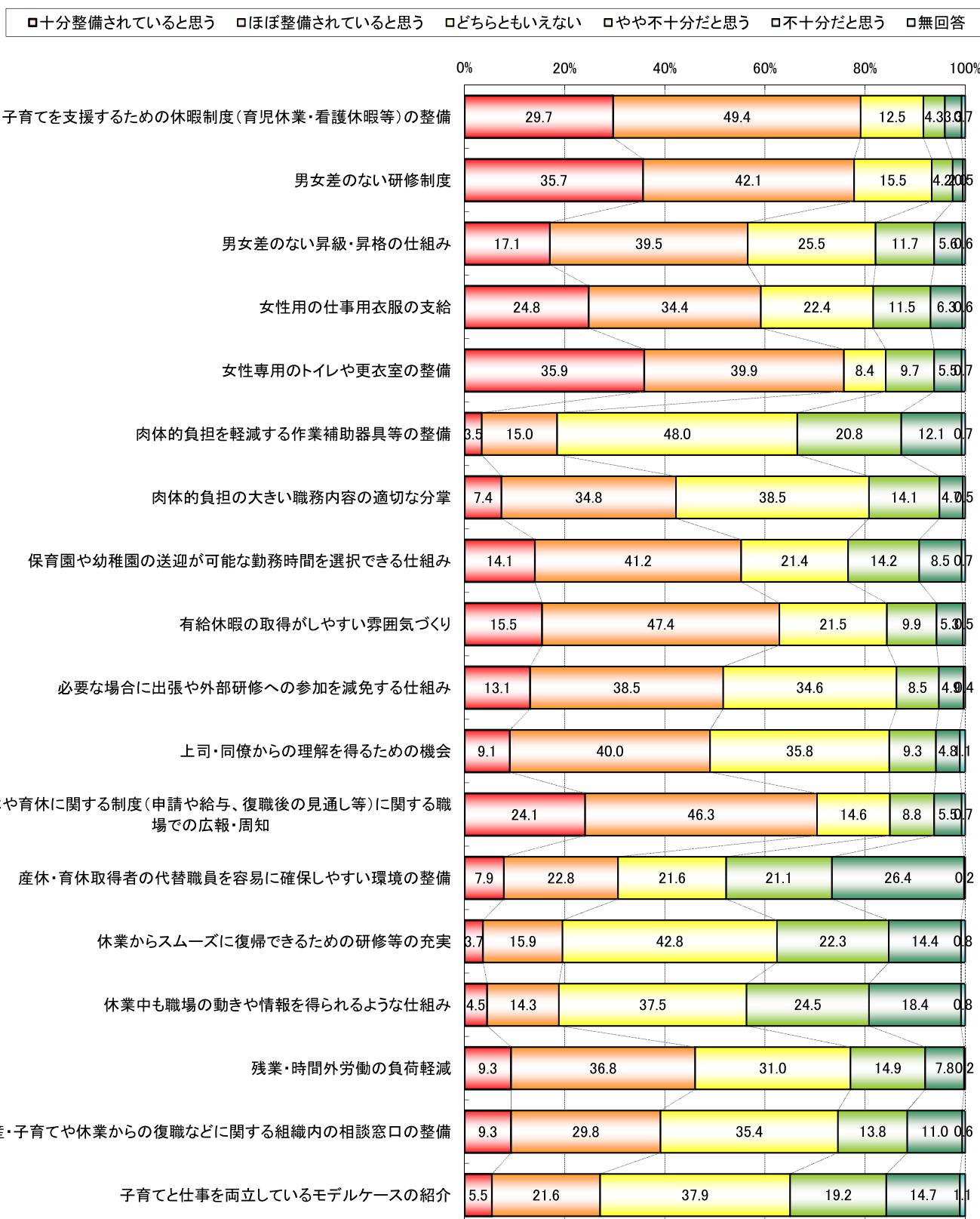
[図5-2] 小動物診療に従事する女性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



[図6-1] 公務員男性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



[図6-2] 公務員女性獣医師からみた職場での女性獣医師就業支援の実感



2 現在無職である女性獣医師の意見

(1) 現在無職である女性獣医師の意見の概要

現在無職である女性獣医師 14 名から寄せられた回答は、以下のとおりであった。なお、回答された 14 名のうち 11 名が 20 代～40 代であり、11 名が既婚者であった。現在、無職である女性獣医師の復職支援に係る検討も今後必要とされることから、14 名の回答について集計を行った。

ア 離職理由

「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」と並び、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」に関する回答が多くかった。

イ 現在もなお無職でいる理由

「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」とする離職理由に一致する理由に加え、「家事」、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」が再就職への大きなハードルになっていることが伺えた。一方、「短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから」、「家の近くに適当な職場がないから」との回答があり、再就職を希望している中で、条件に合う職場が見つからない現状が伺えた。

ウ 再就職への意欲

14 名中 12 名が、獣医師としての資格を活用し、獣医学上の知識を必要とする業務に従事したいと回答していた。短時間勤務など条件が合えば復職したいとの回答が多く、家事や育児等との両立を望んでいることが伺えた。

エ 再就職の際に希望する就業形態・職種

再就職にあたり希望する就業形態は、フルタイム 2 名、パートタイム 9 名、アルバイト等の短時間勤務 1 名であり、14 名中 12 名が時間の融通が利きやすい勤務形態を望んでいることが明らかになった。また、希望する職種は、勤務獣医師として診療業務に就業したいという回答が多くかった。

オ 再就職のための情報の入手先

主にどこから情報を得るかについては、「知人や友人の紹介・クチコミ」、「大学の就職課やゼミの先生・先輩など」と並び、「獣医療関係のホームページ」、「民間の転職・求人サイト」、「求人側のホームページやチラシ」といった web サイトの情報が重視され、旧来のハローワークや就職情報誌等はあまり参考とされていないことが明らかになった。したがって、情報提供の主軸をインターネットが担っている現代の状況と合致していた。

(2) 現在無職である女性獣医師の意見の詳細

表1は、無職である14名の離職理由（複数回答可）をまとめたものである。「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」と並び、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」に関する回答が多かった。

[表1] 現在無職の女性獣医師の離職理由

離職の理由	回答数
精神的に疲れる仕事だったから	4
体力的に自信がなかったから	4
技術的に自信がなかったから	3
業務内容に収入が見合っていないかったから	4
自分には向いていない仕事だったから	1
スキルアップやキャリアアップが望めなかつたから	1
短時間勤務なら可能だったが、その時の職場では難しかつたから	1
時間の融通がきかなかつた、休みが取れなかつたから	1
家の近くに適当な職場がなかつたから	1
他にやりたいことがあつたから	0
家事	3
結婚	5
妊娠・出産	6
育児	6
介護	0
その他の事情（夫の転勤、家族の反対、など）	1

さらに、現在もなお無職でいる理由（複数回答可）を表2にまとめた。表1と同様に、「精神的に疲れる」、「体力的に自信がない」、「技術的に自信がない」、「業務内容に収入が見合っていない」とともに、「家事」、「結婚」、「妊娠・出産」、「育児」が再就職への大きなハードルになっていることが伺えた。一方、「短時間勤務なら可能だが、適当な職場が見つからないから」、「家の近くに適当な職場がないから」との回答も高い数値を示しており、再就職したいが、条件に見合う職場が見つからない現実が伺えた。

再就職への意欲について、14名中12名が獣医師としての資格を活用し、獣医学上の知識を必要とする業務につきたいと考えていた。また、多くは短時間勤務など条件が合えば復職したいと考えており、家事や育児等との両立を望んでいることが伺えた（表3）。

ちなみに、この12名について、再就職の際に希望する就業形態を聞いたところ、フルタイム2名、パートタイム9名、アルバイト等の短時間勤務1名であり、このことからも時間の融通が効きやすい勤務形態を望んでいることが明らかになった。

[表 2] 現在無職の女性獣医師が再就職しない理由

再就職しない理由	回答数
精神的に疲れる仕事だから	3
体力的に自信がないから	3
技術的に自信がないから	3
業務内容に収入が見合っていないから	3
自分には向いていない仕事だから	1
短時間勤務なら可能だが、適当な職場がみつからないから	7
時間の融通がきかない、休みが取れないから	2
家の近くに適当な職場がないから	5
他にやりたいことがあるから	0
家事	6
結婚	3
妊娠・出産	4
育児	7
介護	0
その他の事情（夫の転勤、家族に反対されている、など）	1

[表 3] 現在無職である女性獣医師の獣医師としての復職への意欲

獣医師としての資格をいかした仕事への復職意欲	人 数
すぐにでも就きたい	1
いずれ就きたい	3
短時間勤務など、条件が合えば就きたい	8
就くつもりはない	2

また、復職を希望する職種について調査した結果、複数回答としたことによる回答の分散がみられるが、特に勤務獣医師として診療業務に就業したいという希望が多かった。(表4)

[表4] 現在無職である女性獣医師が獣医師として復職を希望する職種

復職したい職種	回答数
自ら開設する診療施設において診療の業務に従事(開設者又は法人代表者)	3
他の者が開設する診療施設において診療の業務に従事	7
自ら往診のみによって診療の業務に従事	2
他の者に雇用され往診のみによって診療の業務に従事	2
農林畜産関係の行政事務に従事	3
公衆衛生関係の行政事務に従事	4
環境関係の行政事務に従事	2
試験研究(大学を除く)	3
獣医系大学で教育に従事(教官又は教員)	0
製薬関係	2
飼料関係	2
その他	1

[表5] 現在無職である女性獣医師が獣医師として復職しようとする際に参考にする情報源

参考とする情報源	回答数
獣医療関係のホームページ	10
民間の転職・求人サイト	9
大学の就職課やゼミの先生・先輩など	8
ハローワーク	4
就職情報誌や専門雑誌など	4
求人側のホームページやチラシ	8
知人や友人の紹介・クチコミ	11

先に1)で述べた結果からは、小動物診療分野での女性獣医師の就業環境の整備が進んでいない現状が明らかとなつたが、こうした復職希望者を近在の動物病院が短時間の診療業務で雇用しやすい仕組みがあれば、現在就業中の女性獣医師の労働時間の短縮や出産休暇・育児休暇代替職員の確保等に寄与できると思われた。他の職域分野においても同様に、短時間勤務者が対応可能な業務をピックアップし、復職希望者とのマッチングを円滑に進めることができれば、業務の効率化と復職希望者の就業支援につながることが期待できる。

また、復職にあたってどこから主に情報を得るかについては、「知人や友人の紹介・クチコミ」、「大学の就職課やゼミの先生・先輩など」と並び、「獣医療関係のホームページ」、「民間の転職・求人サイト」、「求人側のホームページやチラシ」といったwebサイトの情報が重視され、旧来のハローワークや就職情報誌等は

あまり参考とされていないことがわかった（表5）。したがって、情報提供の主軸をインターネットが担っている現代の状況と合致していた。

（3）自由回答の結果

本調査では、Q18「女性獣医師の就業環境について、現在の職場の問題点や、制度的な改善が必要な部分など、どのような事でも構いませんので、ご自由にお書きください。転職や離職経験のある方は、そのときの状況やほしかった支援策などをお聞かせください。」として自由回答欄を設けた。その結果、1,959名から回答が寄せられた。この中から、現在無職又は獣医学上の知識を必要としない業務に従事している女性獣医師のコメントを抽出したのが表6である。

内容としては、小動物診療施設における労働環境の改善を求める意見や短時間勤務を望む意見、勤務時間や就業地などへの配慮を求める意見等があった。中には、小動物診療と比較して、民間企業や公務員のほうが就労環境が良いという意見とともに、これらのことと大学在学中の学生にもっと伝えてはいかがかとの意見もあった。

[表6] 女性獣医師の就業環境に関するコメント

※回答は原文のまま。

No.	コ メ ン ト	職 種
1	何だかんだ言っても結局は性別による差があると思う。	無職
2	動物病院の診療時間に合わせて働くと勤務時間が長くなりすぎる。 動物病院では残業の代価が払われない事が多い。 公務員になるか開業獣医師と結婚するかしないと必要な育児休業がとれないというのが学生の頃からの定説。	無職
3	給料が安いだけでなく、小動物臨床では社会保険などの制度がきちんと整っていないところが多く、開業しない限り将来における経済的な不安がとても大きい。就業したのち、数年にわたる療養を必要とする病気にかかり、上記の理由から他の安定した業種への転職を選択せざるを得なくなった。	無職
4	短時間の就業で働ける職場が少なく、休みもとれない。	無職
5	小動物の個人病院に勤務していましたが、就労規約があつても実際はその内容のようにはいかないのが当たり前でした。辞める際に一般企業のように有給が消化されることもなく、出産休暇、育児休暇の規約もありましたが、到底とれるように感じませんでした	無職

	した。個人病院は事業主である院長の一存で全てが決まるのが当然で、制度を改善しても結局はその通りにはなかなかいかないよう思います。	
6	診療所勤務において、小さな子供の育児期間中は保育所への送り迎えなどの時間帯を考慮し勤務時間に配慮して頂けると有り難いです。	無職
7	結婚などの環境の変化に伴い、仕事時間や出勤日数を柔軟に対応してもらえたなら助かりました。	無職
8	子育て支援の充実	無職
9	(自身の話ではないですが)都道府県の職員や、農業共済組合など、転勤が多いいため、獣医同士で結婚してもなかなか一緒に住めず、何年も別居生活だったり、単身赴任にならざるを得ない状況がけつこうあるみたいでした。 結婚した夫婦が、できるだけ一緒に住めるよう赴任地や赴任期間などを考慮してあげてほしいと思いました。 また、女性獣医師が出産休暇や育児休暇を取りたい時に必要なだけきちんととれる体制づくりがもっと進めばいいと思います。 そしてその後(長期間休んだ後でも)復職しやすい環境整備、育児との両立を可能にする待遇措置(例…パートタイム労働の許諾・夜間当番の減免など?)の整備が整うと、仕事を辞めずに獣医として働き続けられるのでいいと思います。	無職
10	獣医師の地域偏在があり、地方では獣医師が少ない。そのため、出産休暇・育児休暇・将来の介護休などを職場に迷惑をかけずに取る事が困難	無職
11	女性獣医師に関する点ではないが、医師のようなインターンやリジデント制度があった方が良いと思う。それが、獣医療全体のレベルアップ(特に底辺の)につながり、大学卒業後数年で一定のレベルに達する獣医師が増えれば、それは女性の場合には、育児などが落ち着いた後の復職がしやすくなるのではないか。また、個人で経営する零細企業としての診療施設ではなく、大きな組織としての施設が増えやすくなり、男女問わず就業環境の改善につながるのではないか。	無職
12	育児や出産との両立、また開業などを鑑みると、キャリアプランを考えるのは難しい	獣医学上の知識を必要としない業務

13	公務員では、獣医師の資格を保有していること自体がキャリア形成においてマイナスに働くことが多い。数合わせのための脈絡無い人事異動(業務転換)に巻き込まれる頻度が高く、特に女性は働き方を考えざるを得ない。	獣医学上の知識を必要としない業務
14	<p>小動物臨床をしていたときより労働時間や体力面は民間企業は良いが、偶々入社した会社が男女差別、中途採用者差別のあるところだった為、苦労している。</p> <p>小動物臨床にいた時は、残業手当もなく日付が変わっても働き、通勤時間と家でカルテを書くような毎日で、身体を壊した。仕事内容は好きだが余程良い病院でないと長期間働けない。</p> <p>仕事はつまらなくても企業のほうが給与や休暇など恵まれている。</p>	獣医学上の知識を必要としない業務
15	<p>緊急対応が多すぎ、確実な休日が取りにくい。</p> <p>獣医師が足らず担当が1人であり、かつ仕事量が多すぎて休めない。特に連日の休みを取ると後始末がより大変になり、取れない。重たいもの・大きいものなど力が必要な場面が多い。</p> <p>恫喝する人、気の荒い人等との対応がある。名を名乗るのが不安。職場が寒すぎる。</p> <p>出産休暇・育児休暇を取っている人はいるが、介護休暇を取る人がいない。</p> <p>獣医師のポストではあるが内容はほぼ事務と接客であり、全く学術的でなく仕事内容に魅力がない。</p> <p>民間製薬企業では制度（介護休暇、在宅勤務可：PC持ち帰り・ウェブ会議・資料検索可、フレックス、給与）と人材（適正FTE、派遣社員による補助）が揃っており、働きやすかった。</p>	獣医学上の知識を必要としない業務
16	<p>小動物臨床においての就業環境は、民間企業に比べかなり悪いと思う。卒業して四年経つが、小動物臨床に就職した同期の女性獣医師の半数は退職しているか、民間企業（獣医師の資格を必要としない）に転職している。</p> <p>私自身、そのような環境に不安を覚え獣医師資格を必要としない民間企業に新卒入社したが、臨床と比べても待遇は雲泥の差であった。</p>	獣医学上の知識を必要としない業務
17	獣医師の就業環境に限ったことではないが、フルタイムでなければ重要な分野での仕事を行うことは難しい職場が多いが、パートタイムや短時間勤務でもやりがいのある仕事を行えるようなワークシェアのあり方を早めに考える必要があるのではないでしょう	獣医学上の知識を必要としない業務

	か。	
18	人手不足のため個人にかかる負担がとても大きい。 休みや自分の予定を立てる自由などが制限されている。 一生続けられるような勤務環境の整備が必要。	獣医学上の知識を必要としない業務
19	時短勤務を柔軟に取れる環境作り	獣医学上の知識を必要としない業務
20	民間企業なのでわりと女性社員に対しての制度はいろいろと整備されている方ではあるが、畜産関係はなんだかんだ男社会なので、男性と同じだけのことを求められても正直困る。体力的にも難しい。女性であることへの理解が乏しい。	獣医学上の知識を必要としない業務
21	男尊女卑の改善及び女性上司によるパワハラ	獣医学上の知識を必要としない業務
22	臨床をつづけていくのは生活面を考えると難しいと判断し離職した。今の職場では獣医師免許が不要の仕事ではあるが、福利厚生などしっかりしているので特に不満はない。	獣医学上の知識を必要としない業務
23	獣医師に限ったことではありませんが、出産休暇育児休暇制度の整備、仕事内容に見合った報酬、子育てしながらでも働きやすい環境を整備が必要です。	獣医学上の知識を必要としない業務
24	小動物診療施設に勤務時、10年その病院に勤めていた先輩女性獣医師が出産休暇を機に首になったのを目の当たりにした。また卵巣腫瘍で同僚の女性獣医師が手術入院した際も療養に伴う休暇は与えられず、労働基準法の最低条件の日数しか与えられていなかった有給休暇を年度初めに全て消化せざるを得ない状況になっていた。（従業員を10名ほど雇っていたにもかかわらず保険料の会社負担分を嫌がって厚生年金にも加入していなかったため、傷病手当の支給がなく欠勤も出来なかつたため。）労働基準法違反の勤務体系にも関わらず証拠を残したくないがためにタイムカードや出勤簿の作成を拒んでいた。等々、労基法、社会保障関係の法令違反が業界全体に横行している事実が改善する見込みがなく、雇用者側（複数箇所の診療所に勤務したがどこも大差なかった）の意識の低さにうんざりして、このままこの業界で働き続けてもまともな雇用環境は望めそうにないこと、いつか身体を壊すことになりそうであったこと、結婚や出産を考えたらいつ首になるか	獣医学上の知識を必要としない業務

	わからないこと等、これ以上続けても不毛であると判断し公務員に転職した。	
25	人事異動で配属される職場が限られる（分野が狭い・配置人数が少ない）例えば、動物園に女性獣医師が複数人配属されてもいい。保健所や食肉衛生検査所に配属される女性獣医師の数も少ない。動物管理センターは昨年から増えたが、それまでは少なかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
26	公務員は、男女格差を感じるもの、ある程度整備が整っていると思う。 診療関係では、出産、子育てがしやすい環境（休暇、パートなど）で働ければ良いと思う。小動物臨床の場合、雇用される側の待遇が著しく悪い。給料、休暇、社会保障、福利厚生等の整備が必要。	獣医学上の知識を必要としない業務
27	大学の最終コースが公衆衛生コースだったのですが、その後、公務員になりましたが、臨床をやりたい気持ちはやはり残っているので、なんとか臨床に戻りたいときのため、働きながら思い出せる履修施設があればいいのにな…	獣医学上の知識を必要としない業務
28	女性獣医師という女性枠ではなく、医師や歯科医師と同様の地位の確保をしてほしい。	獣医学上の知識を必要としない業務
29	託児所	獣医学上の知識を必要としない業務
30	出産休暇や育児休暇の制度はあるが、実際に取得できるか、またその後復帰できるか心配である。	獣医学上の知識を必要としない業務
31	再就職するための勉強会など、1度現場をはなれると、知識がおちるので、獣医学をいちから勉強できる場を作ってください。知識や技術がもどれば、自信がつき社会復帰も楽だと思います。	獣医学上の知識を必要としない業務
32	公務員獣医師の待遇改善	獣医学上の知識を必要としない業務
33	出産・育児期間中就業することは難しく、その間フォローする獣医師が院長だけとなり、負担が大きくフォローしきれない。休業中のみ他の獣医師に来てもらうことは到底できない。なので、出産=辞職という形になってしまう。	獣医学上の知識を必要としない業務

34	現在の職場は育児休業や有給休暇が取り易く、子育てと仕事を両立しやすい職場であると思う。しかし、育児休業に伴う臨時職員の採用、給与支出の手続きや他の職員への仕事の負担軽減が十分カバーされているとは思えない部分もあり、休暇取得の際に心苦しく感じる。	獣医学上の知識を必要としない業務
35	育児や介護との両立が難しい。 育児や介護との両立について理解のある人もいることは助かるが、単なるわがままと受け取る人もいて、やはり肩身が狭い。	獣医学上の知識を必要としない業務
36	育児支援	獣医学上の知識を必要としない業務
37	臨床現場においては女性が働きやすい環境が全くなかったので、女性でも体力的に仕事を継続できるよう、シフト制が確立されていると助かる。また、転職をする際に、自分の資格でどんな仕事ができるのか、どういった職があるのかが分からなかつたので、どんな道を選べるのかもっと情報が欲しかつた。現在の職場は女性が働くよう非常に力を注いでいるので、臨床現場とは雲泥の差である。体力的に続けられるようなシステムがしっかりし、労働に見合つた収入を得られるのであれば、臨床を続けていきたかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
38	育児短縮勤務のフレックスタイム制で働いています(1時間短縮)。時間の選択が1時間、2時間しなく変更にも時間がかかり回数制限もあるため、もっとフレキシブルに状況に応じて勤務時間を変更できる制度を希望しています。	獣医学上の知識を必要としない業務
39	時代とともに整備されてきていると思われるが、出産・育児期の代替え職員の確保は未だ難しい状況。	獣医学上の知識を必要としない業務
40	臨床や畜産系の仕事は家庭との両立が難しいため、行政職につきました。行政職の中でも保健所設置市・中核市保健所は勤務地が1箇所なので通勤時間が短くてよい。	獣医学上の知識を必要としない業務
41	労働福祉の充実、労働安全の確保	獣医学上の知識を必要としない業務
42	臨床に就いたことがないのでわかりませんが、民間企業において特に「女性だから」という理由で差を感じたことはありません。むしろ、「女性のほうが優秀」と言われることが多いです。ただ、	獣医学上の知識を必要としない業務

	未だ男性のほうが多いのは、やはり育児等で働き方が変わるところにあると思います。そのことに不満を持っている女性が周りにはいないので、現状維持でよいのではないのでしょうか	
43	いったん辞めた後に続けることが難しい。 体調や体力などへの配慮がない。 短時間勤務の求人情報を入手出来る公の場所がない	獣医学上の知識を必要としない業務
44	男尊女卑の考え方を改める。N O S A I 団体にもかかわらず、女性にお茶くみや洗濯をさせることが当然になっている。仕事を与えない上に、能力を認めない状況がある。助けて欲しい。	獣医学上の知識を必要としない業務
45	子育ての支援（保育所の送迎のための時間の確保）	獣医学上の知識を必要としない業務
46	就業環境に関しては、民間企業と動物病院では雲泥の差がある。 大学はこの現実を学生にきちんと説明し、小動物臨床以外の職業選択肢についても積極的に紹介すべき。動物関連でなくても、獣医師の知識は必ず役立つ。民間企業での獣医師の活躍なくして獣医師の地位・待遇向上と獣医療の発展はありえない。	獣医学上の知識を必要としない業務
47	小動物分野以外で獣医師が活躍できる場を 大学で臨床系の研究室ではなかった学生が就職する際、動物病院で適切な研修や就職支援をしてほしかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
48	育児期間などは、お休みがとりやすい環境がほしかった。	獣医学上の知識を必要としない業務
49	育児休暇中の厚生年金 獣医師でない上司の理解不足（ひがみ等によるもの） 保育室等会社で完備して欲しい	獣医学上の知識を必要としない業務

参考資料4 中間報告後の追加分析

1 自由記載回答から明らかになった課題

自由回答記載事項の解析に当たっては、テキストマイニングの手法を用いて定量的なコンピューター処理を行った。頻出単語の抽出や単語相互の係り受けの関係を専用ソフト（Quick-MINING ASP, マクロミル提供）により集計し、単語相互のつながりを図に示すマッピングにより可視化した。この方法は、コンピューターによる機械的な抽出を行うことに起因して、記載者独自のユニークな言い回しや表記ゆれに必ずしも対応できない点や、個別具体的な事項について表現を読み解きながら深く考察を加えることには向かない点があるが、人の手で分類と集計を行うには膨大な時間がかかる自由記載コメントのビッグデータから、傾向を視覚的につかむことができる点が優れているとされている。

図7 最頻出単語「女性」を中心単語としたマッピング結果（n=502）

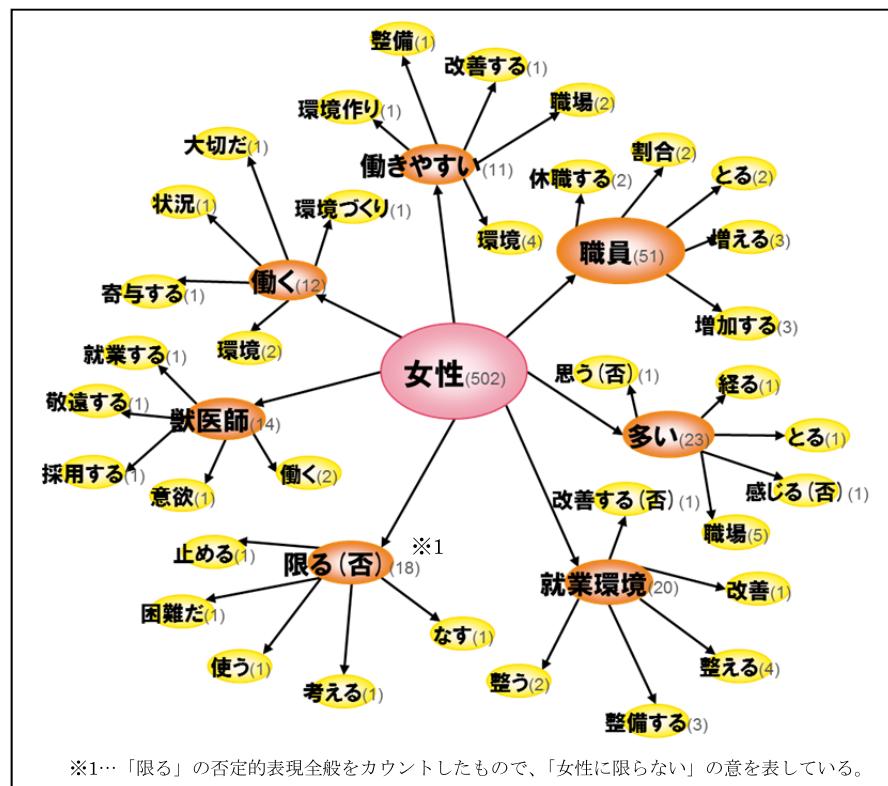
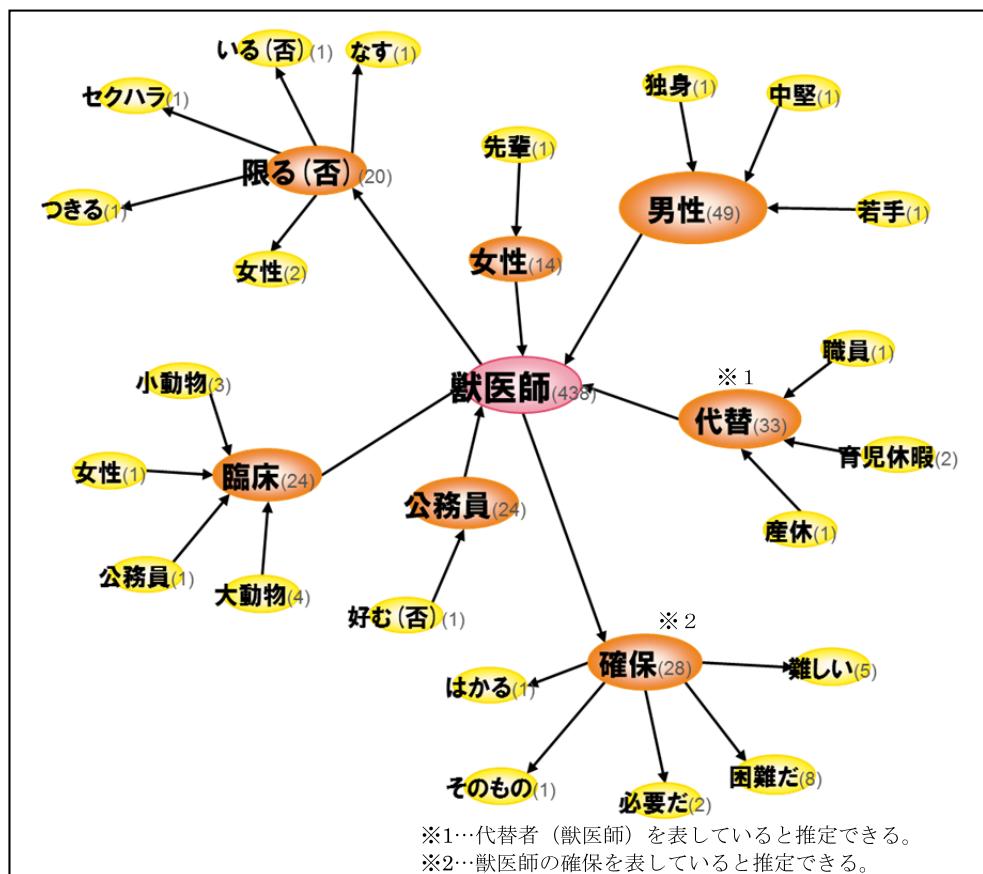


図7は、1,960の自由記載回答の中で最も多い502回答に中心単語として出現した単語「女性」について、係り受けの関係にある頻出語をマッピングしたものである。黒色で示された矢印が単語どうしの出現順を示しており、括弧内の数字が出現数を示している。なお、単語どうしを結ぶ矢印の長さに特に意味はない。すなわち、「女性の職員が…」、「女性が多い…」、「女性の就業環境が…」といった記載があるコメントが多くかったことを示しており、女性獣医師の割合が増える中、女性が働きやすい環境作りを求める内容のコメ

ントが多かったことが理解できる。また、「限る(否)」の表記は、「限らない」、「限るべきではない」、「限ったこととは言えない」など、解析ソフトが「限る」の否定的な表現と判断したコメントをまとめて抽出したことを示している。「女性に限らない」という意味合いのコメントが一定量あったことを示しており、女性のみを対象にした対策に終始することなく、女性が働きやすい職場づくりを職場全体で進めることは、やがてすべての獣医師が働きやすい職場づくりにつながるとした中間報告の提言を裏付けるものと考えられる。

図8 頻出単語「獣医師」を中心単語としたマッピング結果 (n=438)



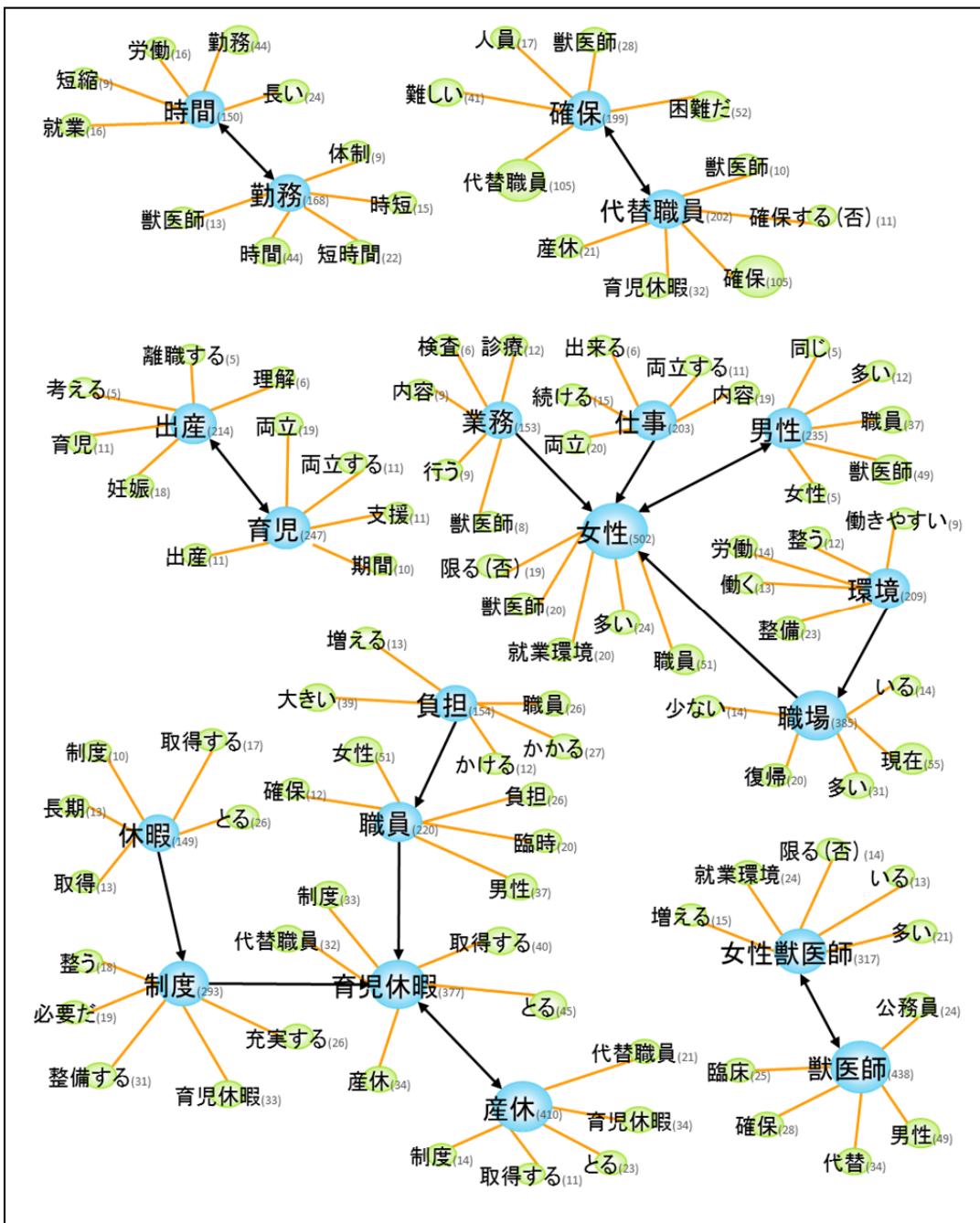
2番目に多く438回答に中心単語として出現した語「獣医師」について、同様にマッピングしたのが図8である。ここでも、「男性獣医師」、「獣医師に限らない」という意味合いの記載内容が多いことから、「女性だけの問題ではない」、「獣医師だけの問題ではない」といった記載が一定数みられたことがわかる。また、産休・育休代替者の確保が困難であるという現場の実感も浮き彫りとなっている。

この手法で1,960件の自由記載コメント全てを一括処理し、中心単語とそこに連なる語を解析ソフトにより抽出してマッピングしたのが図9である。図では、出現順位が上位20以内である単語が中心単語として青色の楕円に、それぞれの中心単語と係り受けの関係にある単語が緑色の楕円にそれぞれ示

され、中心単語との係り受けの関係がオレンジ色の線で示されている。また、中心単語同士が同時出現の関連性が強い場合、その単語の組み合わせと出現順を黒色の矢印で示している。

この結果、①女性獣医師のライフステージの中では、出産と育児が大きなトピックであること、②仕事との両立には、男性も含めた職場環境の整備が必要であること、③その具体策として、産休・育休を取得しやすい仕組みづくりと、休業者以外の人員の、職場での負担を軽減するための代替者確保策が必要であること、④短時間勤務の仕組みが必要とされていること、等のコメントが多くなったことが読み取れ、中間報告において提示した対応策が広く必要とされていることが明らかになった。

図9 全自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果 ($n=1,960$)



同様のマッピングを職域別に実施したのが図10、図11、図12である。いずれの職域においても、全体のマッピング結果と同様の内容を読み取れるが、特に図7の小動物診療従事者の回答データには特徴的な傾向が見られた。

図10 産業動物診療従事者の自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果 (n=286)

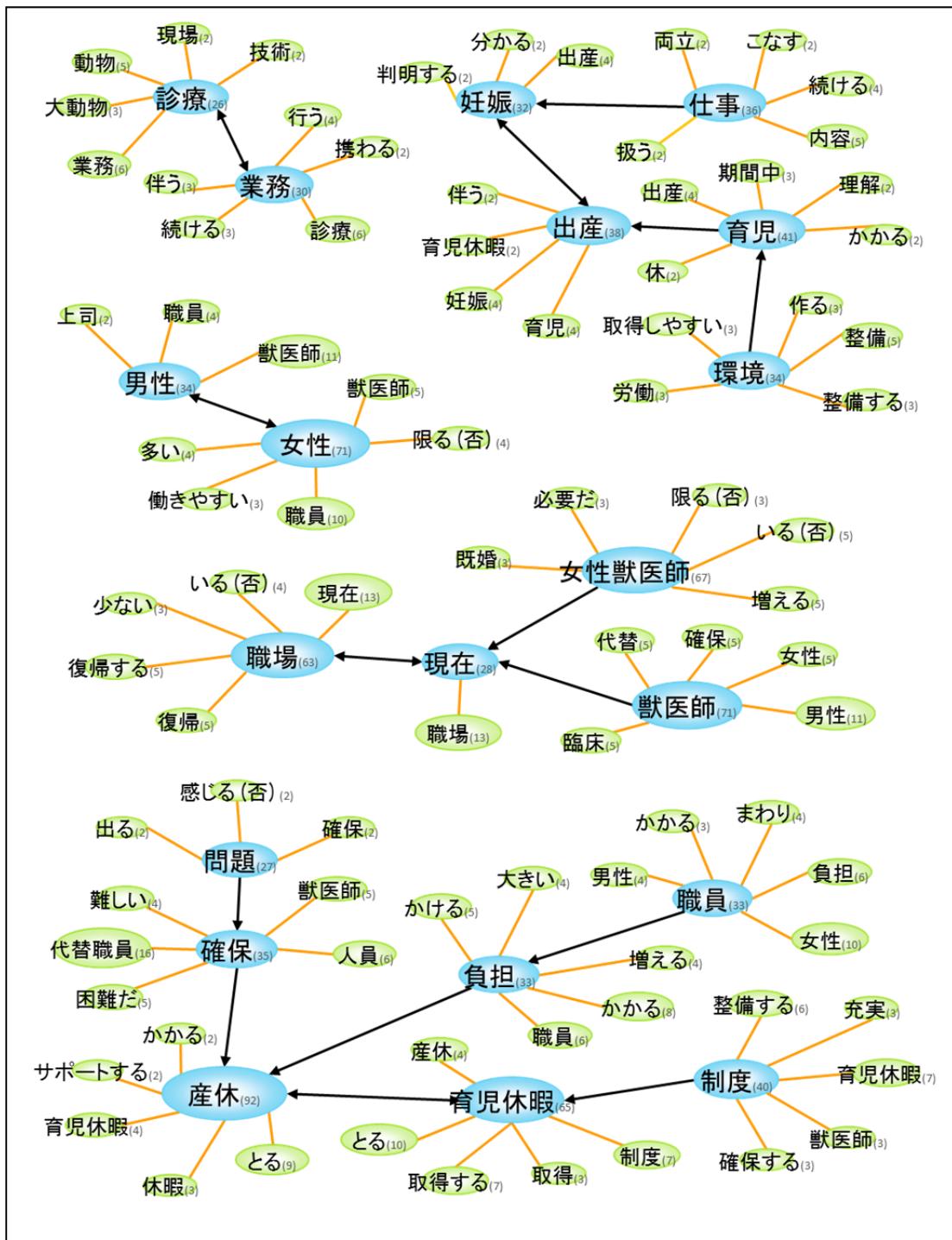


図 11 小動物診療従事者の自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果 (n=292)

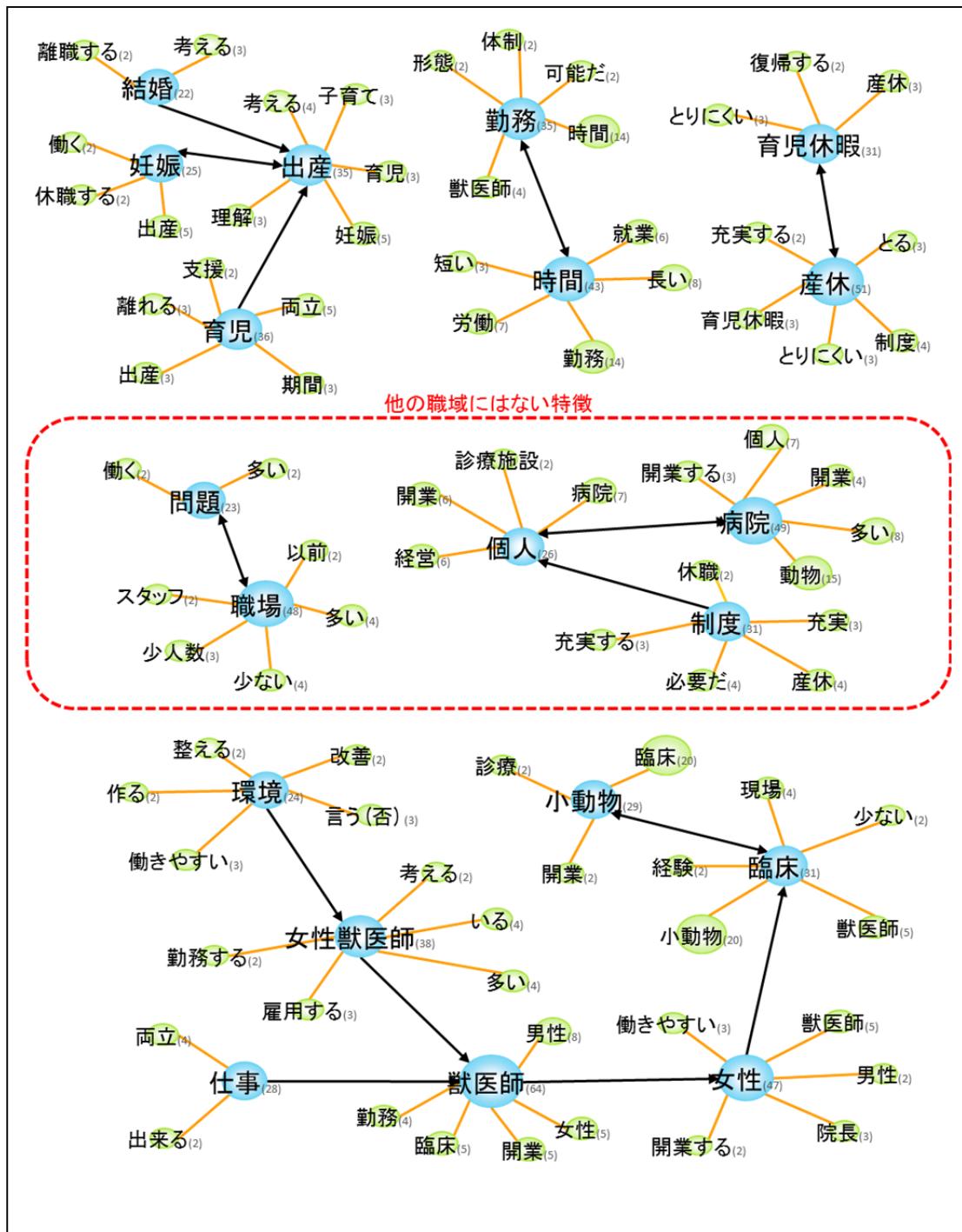


図 12 公務員の自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果 ($n=1,007$)

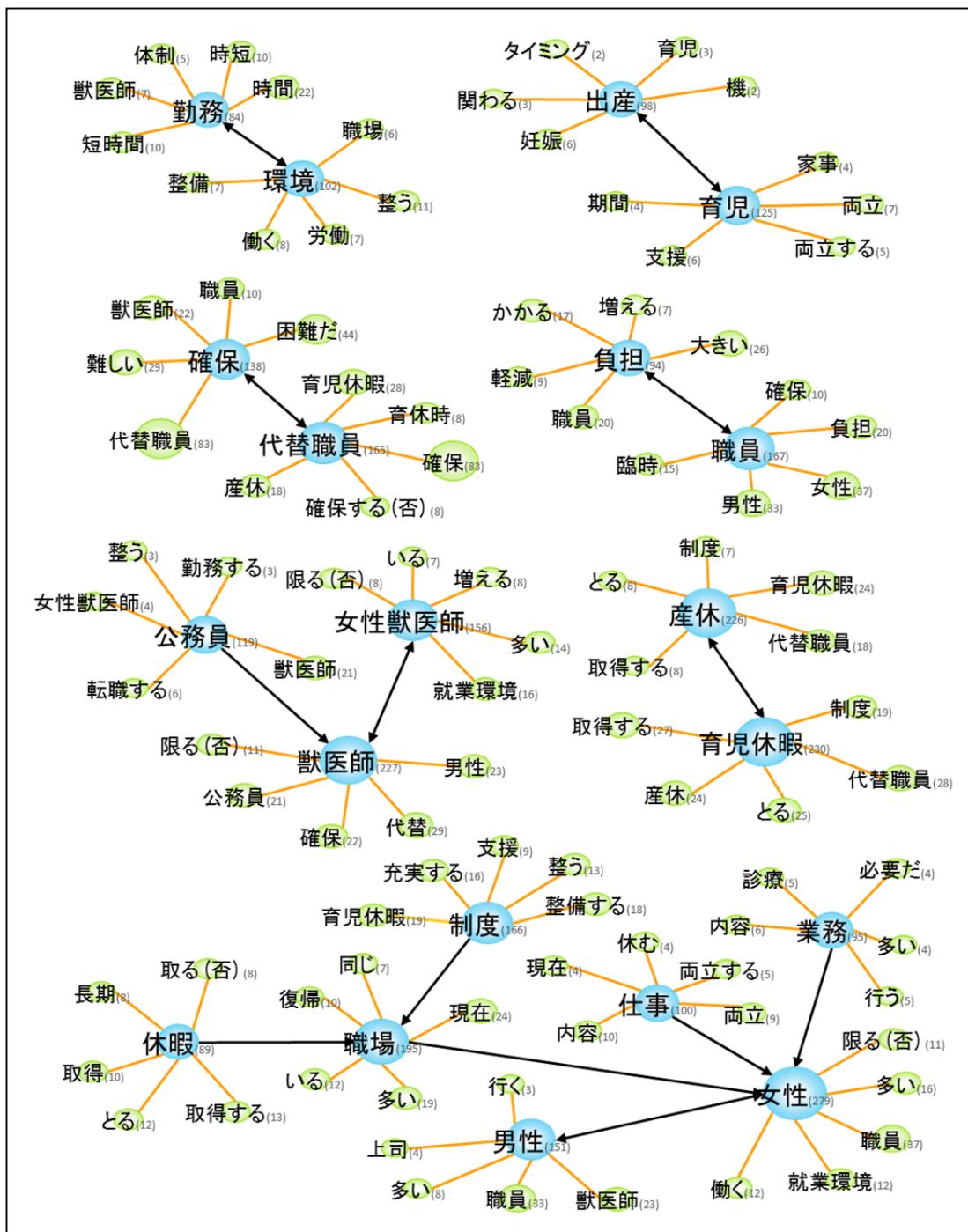


図11中、赤点線で囲んだ部分は、小動物診療従事者の回答に特徴的に見られた単語相互の関係である。ここからは、小動物診療分野では個人経営の小規模な動物診療施設が多く、そのことが女性獣医師がより働きやすい環境づくりに向けた課題となっていることが推定される。動物診療施設を相互につなぐ情報ネットワークの構築や、地域全体での人材確保や女性獣医師就業支援の方策が解決の糸口になることが期待される。

一方、男性獣医師の理解を得ることも働きやすい職場環境づくりに不可欠であるが、表7に示した職場における女性獣医師の就業支援の実感を属性別に集計した結果からは、特に男性の年齢別の結果に特徴がみられた。それぞれの職場で中心的な立場にあると思われる50代の男性は、様々な女性獣医師就業支援策が整備されていると考えている傾向が高く、60代以上の男性は逆に整備されていないと考えている傾向が高いことが明らかになった。

表7 職場における女性獣医師の就業支援の実感（属性別内訳表）

この傾向の要因について、現役の管理職あるいは院長などの施設経営者が多いと思われる50代男性の場合、女性獣医師の就業環境は過去に比べて改善しているという実感が高い一方、60代以上の男性の場合には、女性獣医師に対する支援が現在以上に不十分だった過去の状況を想起しているケースや、自身が開設する動物診療施設において女性獣医師に対する支援が不十分と感じているケースが多いことが考えられた。このため、試みに50代男性と60

代以上の男性について自由記載回答をマッピングしたのが図13及び図14である。

図13 50代男性の自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果(n=420)

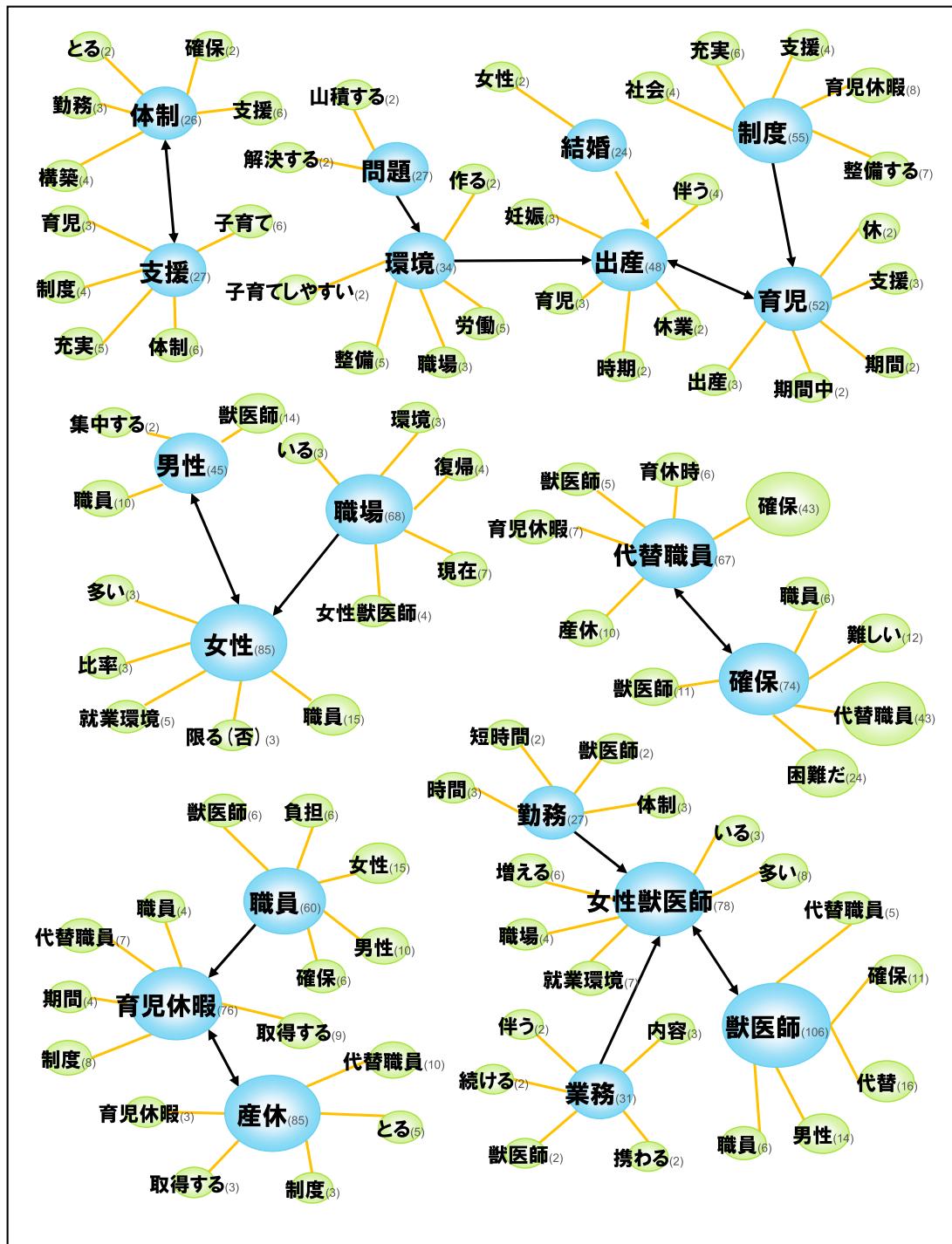
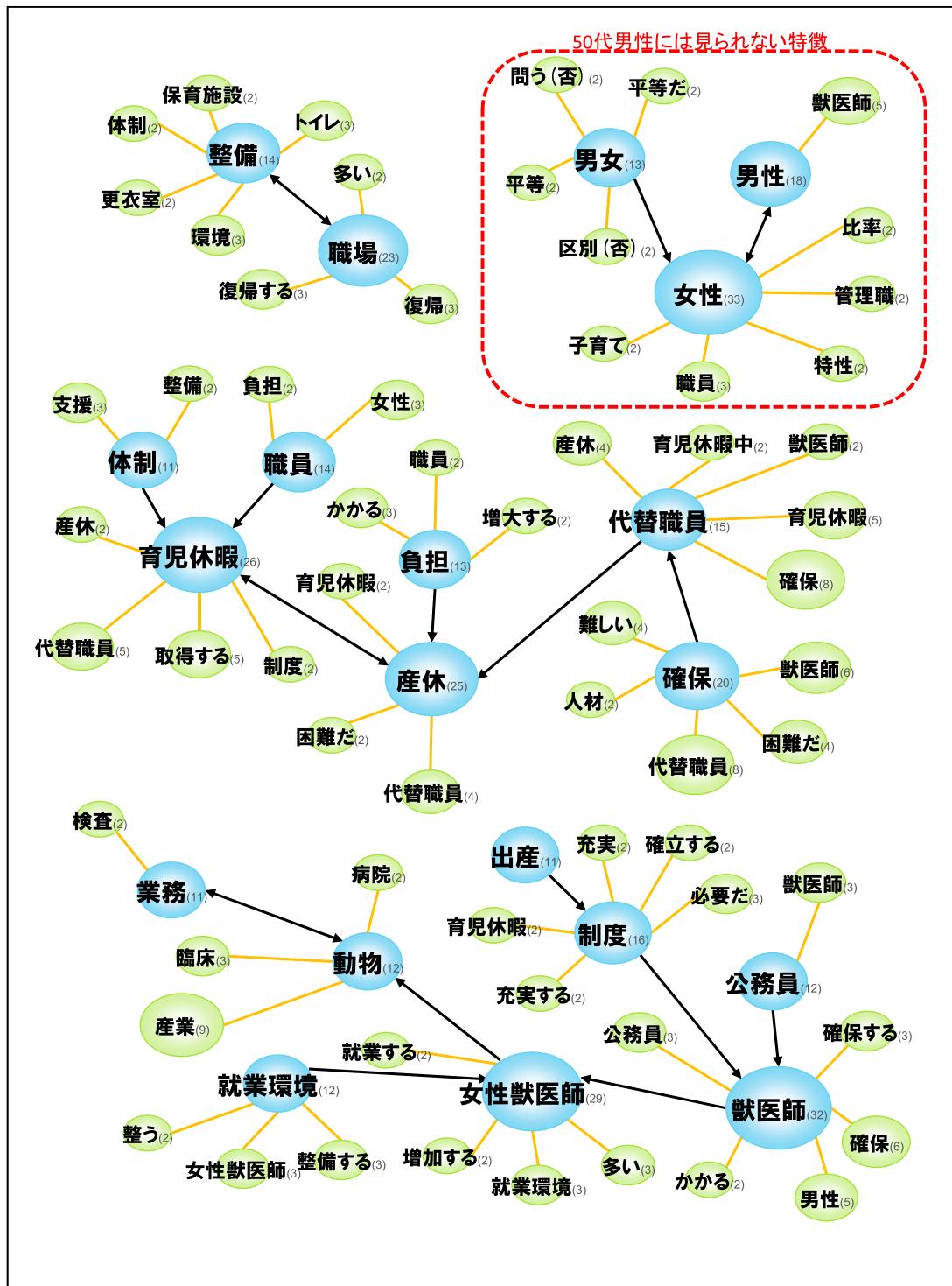


図 14 60 代以上の男性の自由回答から抽出した中心単語のマッピング結果
(n=162)



50代男性の回答を示した図13と、60代以上の男性の回答を示した図14を比較すると、図14では「女性」というキーワードを中心として「男性」、「男女」という性別に関する単語のみを中心単語としたグループが存在している。さらに、中心単語「男女」には「平等」、「区別しない」、「問わない」といった単語が連なっている。

このことから、実際の自由回答欄記載内容に「平等」という単語を含むものをピックアップしてみた。まず、60代以上の男性の解答例を以下に示す(以降、回答の引用はすべて原文のまま)。

- ・女性、男性の就業での注意事項は、体力特に(力関係)を除いては全て平等である(無職 70代以上男性)。
- ・男性 女性 それぞれ性による特性があります。その特性を活かせるようになる。画一的な男女平等はいかがなものかと考えます。大半はその職場で解決できることが多いと思いますので、上のものは責任をもって対処すべきです(小動物開業 60代男性)。
- ・6年の大学教育のなかで、いろいろなことを学び、そのなかで、女性獣医師の役割を知る必要がある。また、男女平等のなかで教育を受けているので、「女性」を自覚する機会がないように思う。私の大学では、女性と男性の比率は1:1でほぼ同じです。しかし、女性の方がはるかに成績が良い。つまり、社会でも十分に働けるし、活躍できる能力を持っている。しかし、例えば、大動物(産業動物)の分野では、まったく歓迎されていない。希望していないわけではなく、「無理」では、との先入観と差別が受け入れ側にある。女性獣医師の優秀さを再認識することから始めるべきでしょう(私立大学教員 60代男性)。

次に、50代男性の回答例を同じく以下に示す。

- ・女性が優遇されすぎている。女性への優遇分の皺寄せが全て男性に行っている。男女平等は、女性を優遇することではない(地方公務員(食肉衛生検査所等) 50代男性)。
- ・男女平等で雇用されているはずなのだが、女性獣医師が優遇されているのが現状(地方公務員(保健所等) 50代男性)。
- ・「男女平等」と認識・表明してはいても、どこかで女性を軽んじる風潮は特に日本ではまだまだ残っていると思う。欧米人女性の部門長は多いが、日本人女性のトップはほとんどいない。日本人の意識改革が必要(製薬関係企業 50代男性)。
- ・現場での肉体労働は女性では限界もあり男女平等といえども双方の理解がなければ円滑な業務の推進がなされない(地方公務員(試験研究) 50代男性)。
- ・男性と女性では概して体力差があり、出産の有無もあり、生理的な差が生じることを前提で考える必要があり、従って全ての職場で男女が同一の仕事をすることを前提に進めることは不可能と思われます。同じ獣医

師であっても女性と男性では性差はあり、特性が異なるという見方をするのが自然であると考える必要がある。女性の特性を職場に活かすことは利があるが、これまで十分に整理されていないのが現状である。過剰に女性をもてはやさなければならないという雰囲気は甘えを助長し、不平等になることも考えられる（地方公務員（家畜保健衛生所等） 50代男性）。

多数の回答の中から「平等」というキーワードで取り出された一部の回答意見ではあるが、60代以上の男性の回答からは「社会人として仕事をしていくうえでの男女平等は当たり前で、性別による能力特性の差は双方が理解し合った上で互いの良い点をいかせるような職場内での配慮が必要」との考えが伺え、一方で50代男性は、「男女平等を女性優遇と感じることもあり、男性にしづ寄せが行っているのではないか」と感じつつ、「女性管理職の登用や女性の肉体労働の限界に対する適切な配慮など、まだまだ意識改革が必要」と考え、女性が働きやすい職場とは何かという問いに未だ迷いながら職場の中心的立場で活躍している状況が伺える。先に示した図11における50代男性と60代以上の男性の回答傾向の差は、50代男性は「近年こんなに女性は優遇されているではないか」と考える傾向がある一方、60代以上の男性は「まだまだ男女が能力を平等に発揮できる環境ではない」と考える傾向にあるとも考えられる。

同じく「平等」というキーワードで回答を抽出すると、女性が優遇されすぎているという意見はほかの世代でも見られる。

- ・女性ということで優遇されすぎている点も多い。平等に扱うべき（地方公務員（本庁等） 30代男性）。
- ・女性、女性と言い過ぎなくらいだと思う。結局、女性を優遇した結果、男性職員の仕事量は増える一方。もちろん、不平等は良くないが、逆に不平等になることが懸念される（国家公務員（検査指導機関） 20代男性）。

一方で、

- ・妊娠した際に、統一した就業体制がしかれていないため、個人の体調や性格によって産休までの仕事内容が異なる。妊娠した女性獣医師自身の言葉が、上層部に行く前に叩きつぶされるような状況さえある。ここ最近になって女性獣医師が様々と産休・育児休業を必要としてきたため、早急に代替要員の補充などの制度が必要である。これまでの慣習や個人の状況に因らず、統一した就業体制を規定してもらいたい。そうでなければ、女性間においても不平等な意識が芽生えてしまう（産業動物診療（NOSAI） 30代女性）。

のように、しっかりした仕組みが整えられない限り、同じ女性の間でも不公

平感が出る、といった意見もあった。また、

- ・産休や育休は整っているので、妊娠はしやすい環境ですが、育児中は男女平等のためか、子供の病気等で休みやすい環境、周囲の理解が十分とはいえないでの、育児は両親の援助がないと困難です。家事優先する人用の待遇があると育児がしやすいと思います（地方公務員（公衆衛生関係行政事務）30代女性）。
- ・開業の大動物診療所では業務時間も非常に長く、休みも週1回の状況で、体力的にも非常にきついものがあった。男女平等ではあったが、本人の希望に合わせた就業体系があると働きづけやすかったかと思う（製薬関係企業 30代女性）。

のように、待遇面等すべてを男性と同じに、ということではなく、女性が希望する形で働ける環境づくりを求める声もあった。さらに、

- ・産休・育休を3～4子連続して取られると困る。現実には職場にいないのに、予算上は存在することになっているので職場の人数を減らされる。男女平等の給与体系というが、実際に仕事に携わって経済活動に貢献していないならば、それは給与をもらうに値すると言えるのか疑問。男性職員も育休は取りたいのである。そのジレンマを理解せずに「男性は育休を取らないで育児を手伝わない。そのくせ女性の育休を蔑視する」と敵対心を勝手に抱かないでもらいたい。（地方公務員（保健所等）20代男性）

のように、表現はいささか辛辣ながらも、現場の実態を踏まえた制度設計を求めるとともに、育休を取りやすい仕組みがあれば男性も育児を手伝いたいという声もある。

このほか、女性から以下のような声が寄せられている。

- ・女性です。現在の職場は制度が充実しており、時短勤務など時間の制約以外は完全に男女平等です。育児中のため帰宅後もまた家事育児に追われる生活で、帰宅したらゆっくり休める男性社員がうらやましいこともあります。女性の就労支援が声高に言われていますが、男性の家事育児支援や、家事育児のアウトソーシングへの援助も併せて考えてほしいと思います（製薬関係企業 30代女性）。
- ・男女平等といつても、伝統的・慣例的に男性の仕事となっているものがあります。また、女性の多くが産育休をとる可能性が高く、その一方で新卒者は女性の方が圧倒的に多いことから、多くの職場で男性を希望する声を聞くのも事実です。これらは、女性でもやってみるといったチャレンジ精神をもつか。意識改善を図るしかないと思います（地方公務員（保健所等）40代女性）。

また、

- ・診療現場では、妊娠を上司に報告すると明日から出勤しなくて良いと言

われた（どんなに法的な整備が行われても民間では無理。まずは行政から行うべき。行政でも男女差別があるが、平等と言い、育児・介護をとる男性職員。内勤が多く、おしゃべりばっかりしている女性職員、双方に悪いと思うが、パワーハラスメントや人事評価を気にし、全く業務に関心のない管理職、古き良き時代の仕事しかしない管理職員では、何も解決できない。女性も産業動物や伝染病に対する危機管理や公務員としての常識がない。獣医師としての専門職もよいが、公務員としてもやるべき業務もきちんと行うよう、人材育成が必要。産業動物も愛玩動物も保定が8割、口蹄疫の応援の際も感じたが、注射器を振りまわすと周りが危険。獣医師として、保定や人を使う事を考えながら業務する事、疫学は農家の聞き取りが重要（人の話を聞く事）。管理職も含め、人材育成の方向性が間違っている（技術の獲得の前にやる事があるはず）（地方公務員（家畜保健衛生所等） 40代女性）

という意見からは、「妊娠を上司に報告すると明日から出勤しなくて良いと言われた」ことについて、回答者はマイナスのイメージを抱いている様子が読み取れるが、ともすると管理職である上司は、診療中のエックス線被曝や共通感染症のリスク等を心配して配慮したことと考えられる。職場内でのコミュニケーションの難しさを感じさせる事例である。中間報告に示された「雇用者（上司）と従事者（部下）双方の意識改革、同僚男性獣医師の協力及び職場の理解促進」の一環として、意識改革の前提となる職場内での相互理解の促進のために、コミュニケーションスキルの向上と、基本的な倫理や就業姿勢に関する研修等についても必要とされていることがわかる。

これに対し、以下のような男性の意見もある。

- ・性差を無視した平等は無理がある。男女の特徴を理解し、性差・特性の差に応じて公平な環境にするには男性獣医師のみならず、女性獣医師自身の女性の特性の理解を要する（小動物開業 30代男性）。
- ・まず女性側として、これまで主に男性主体であった就業環境に女性が進出したという意識を持つべき。設問でも感じられたが、男女平等を謳いながらも、肉体的負担がかかる業務については男性任せが当然。しかしながら役職等出世については平等にというような考えはおかしい。女性に対する就業環境の改善を進める場合は、同時進行で、それに対する男性の就業環境改善も考慮すべき（地方公務員（家畜保健衛生所等） 40代男性）。

2 全体傾向からみた課題

図15は、男性を含むすべての回答者（n=4,314）について、仕事上の不安や負担を感じている割合を職域別にグラフ化したものである。全体の傾向として、給与水準に対する回答と並んで、知識や経験が不足していると感じている割合が高かった。このことは、業務の質の向上に対する意欲の高さを表していると考えられ、様々な研修機会の提供がより良い獣医療の提供と獣医師の就業意欲の向上に有効であることが示されていると推測された。特に小動物診療従事者において、休暇の取りにくさや労働時間の長さを負担に感じている割合が高く、これらの解決が小動物診療獣医師のワーク・ライフ・バランスの改善に必要であることが明らかになった。

小動物診療施設において、雇用者でもある診療施設開設者が、職場における女性獣医師の就業支援の実感をどのように感じているかを、回答者全体の結果と比較したのが表8である。ここからは、設問に示した項目の多くで、雇用者が現状の就業支援が不十分であることを実感していることがわかった。このことから、更なる意識改革と産休・育休代替者の確保や勤務時間の多様化等の具体的支援があれば、状況は十分に改善し得るものであると考えられた。

また、図16では、代替者の確保の必要性のほか、復職を支援する研修の充実、子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介や相談窓口の設置、支援制度等に係る情報提供と休業中でも情報を得られる仕組みの構築、多様な勤務時間を選択できる仕組みについて整備が不十分と回答した割合が高く、これらについて対応すべきとした中間報告における提言の必要性が確認できた。

一方、中間報告では雇用者側の意識改革と休職中の代替者確保策の必要性を指摘したが、診療獣医師を雇用者と被雇用者に分けてみると、例えば休暇の取りにくさについて、雇用者である獣医師の76.3%が、労働時間の長さについては同じく66.9%が不安・負担を感じており、被雇用者である獣医師の、それぞれ56.8%、53.5%より高い値を示していた。これは、代替者の確保が容易ではなく、施設経営者である雇用者の負担がより増大していることを示していると考えられた。

図 15 職域別に見た仕事上の不安感

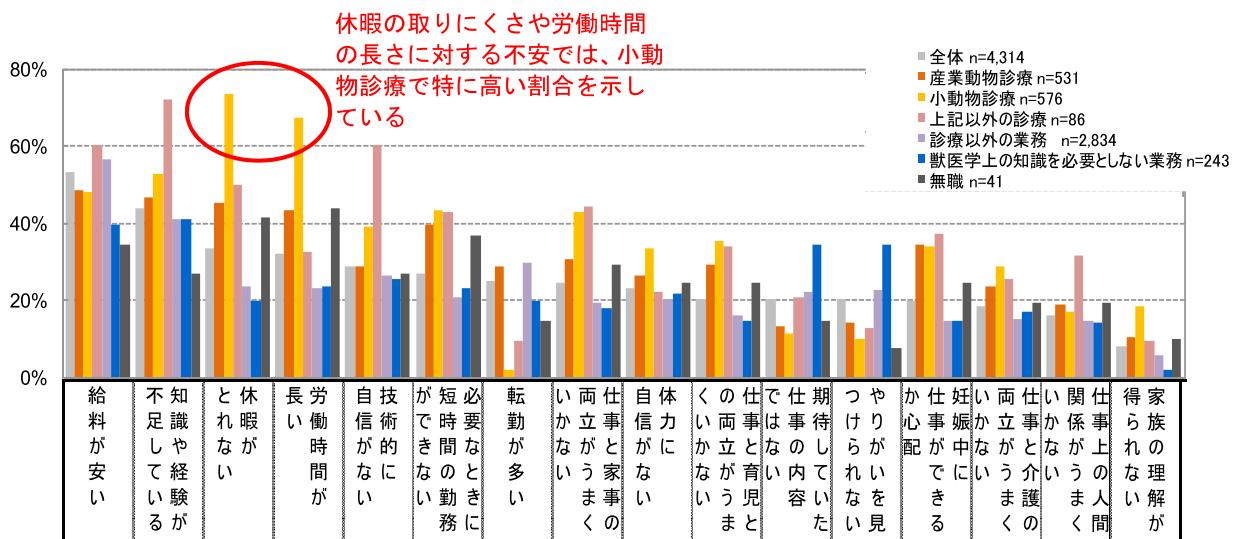


図 16 職場における女性獣医師の就業支援の実感（全体集計）

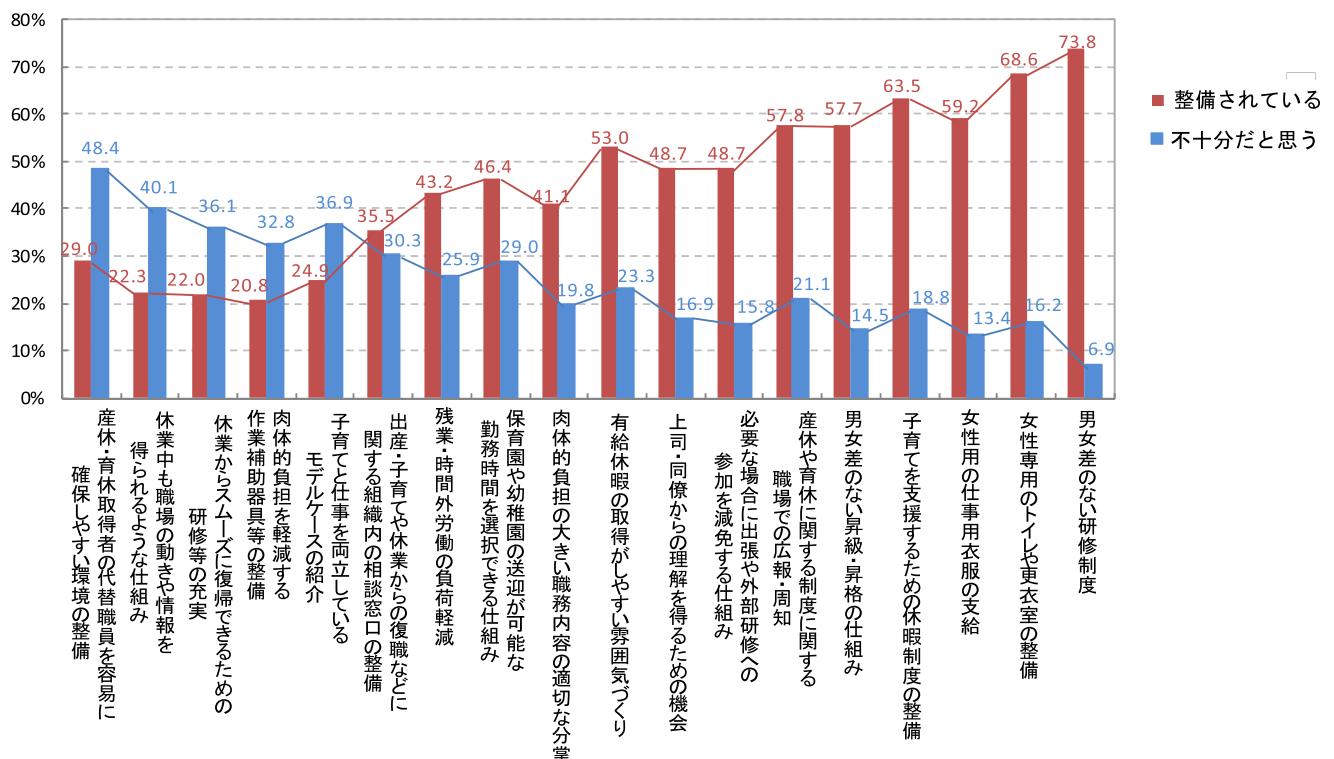


表8 職場における女性獣医師の就業支援の実感（全体と小動物診療施設開設者との比較）

※数字は上段が回答数、下段が%。

	合計	十分整備されていいと思う	ほぼ整備されていいと思う	どちらともいえない	やや不十分だと思う	不十分だと思う	無回答
Q11 職場での女性の就業支援はどの程度整備されていると思われますか。 以下の項目ごとに、お気持ちに近いものをお選びください。 ※現在仕事をしていない方は、仕事をしていた時の状況を思い出してお答えください。							
全 体	4270 100.0	1068 25.0	1654 38.7	650 15.2	405 9.5	390 9.1	103 2.4
子育てを支援するための休暇制度(育児休業・看護休暇等)の整備	小動物診療施設開設者	364 100.0	24 6.6	49 13.5	93 25.5	75 20.6	105 28.8
全 体	4270 100.0	1489 34.9	1667 39.0	720 16.9	172 4.0	119 2.8	103 2.4
男女差のない研修制度	小動物診療施設開設者	364 100.0	82 22.5	118 32.4	103 28.3	21 5.8	21 5.8
全 体	4270 100.0	929 21.8	1543 36.1	1080 25.3	388 9.1	229 5.4	101 2.4
男女差のない昇級・昇格の仕組み	小動物診療施設開設者	364 100.0	72 19.8	102 28.0	125 34.3	23 6.3	24 6.6
全 体	4270 100.0	1116 26.1	1411 33.0	1055 24.7	333 7.8	242 5.7	113 2.6
女性用の仕事用衣服の支給	小動物診療施設開設者	364 100.0	151 41.5	97 26.6	64 17.6	19 5.2	13 3.6
全 体	4270 100.0	1391 32.6	1543 36.1	543 12.7	443 10.4	249 5.8	101 2.4
女性専用のトイレや更衣室の整備	小動物診療施設開設者	364 100.0	52 14.3	74 20.3	95 26.1	68 18.7	57 15.7
全 体	4270 100.0	218 5.1	671 15.7	1870 43.8	819 19.2	575 13.5	117 2.7
肉体的負担を軽減する作業補助器具等の整備	小動物診療施設開設者	364 100.0	15 4.1	54 14.8	140 38.5	68 18.7	66 18.1
全 体	4270 100.0	387 9.1	1376 32.2	1546 36.2	591 13.8	254 5.9	116 2.7
肉体的負担の大きい職務内容の適切な分掌	小動物診療施設開設者	364 100.0	22 6.0	65 17.9	152 41.8	66 18.1	35 9.6
全 体	4270 100.0	597 14.0	1394 32.6	935 21.9	677 15.9	550 12.9	117 2.7
保育園や幼稚園の送迎が可能な勤務時間を選択できる仕組み	小動物診療施設開設者	364 100.0	23 6.3	55 15.1	107 29.4	74 20.3	84 23.1
全 体	4270 100.0	671 15.7	1602 37.5	912 21.4	553 13.0	434 10.2	98 2.3
有給休暇の取得がしやすい雰囲気づくり	小動物診療施設開設者	364 100.0	31 8.5	79 21.7	93 25.5	67 18.4	73 20.1
全 体	4270 100.0	572 13.4	1516 35.5	1394 32.6	417 9.8	253 5.9	118 2.8
必要な場合に出張や外部研修への参加を減免する仕組み	小動物診療施設開設者	364 100.0	42 11.5	90 24.7	124 34.1	46 12.6	39 10.7
全 体	4270 100.0	489 11.5	1598 37.4	1358 31.8	466 10.9	250 5.9	109 2.6
上司・同僚からの理解を得るための機会	小動物診療施設開設者	364 100.0	22 6.0	87 23.9	150 41.2	55 15.1	30 8.2
全 体	4270 100.0	913 21.4	1563 36.6	787 18.4	514 12.0	383 9.0	110 2.6
産休や育休に関する制度(申請や給与、復職後の見通し等)に関する職場での広報・周知	小動物診療施設開設者	364 100.0	25 6.9	48 13.2	99 27.2	82 22.5	90 24.7
全 体	4270 100.0	393 9.2	851 19.9	859 20.1	875 20.5	1189 27.8	103 2.4
産休・育休取得者の代替職員を容易に確保しやすい環境の整備	小動物診療施設開設者	364 100.0	11 3.0	21 5.8	83 22.8	77 21.2	153 42.0
全 体	4270 100.0	240 5.6	707 16.6	1668 39.1	855 20.0	683 16.0	117 2.7
休業からスムーズに復帰できるための研修等の充実	小動物診療施設開設者	364 100.0	12 3.3	31 8.5	117 32.1	86 23.6	99 27.2
全 体	4270 100.0	276 6.5	678 15.9	1491 34.9	932 21.8	778 18.2	115 2.7
休業中も職場の動きや情報を得られるような仕組み	小動物診療施設開設者	364 100.0	16 4.4	27 7.4	128 35.2	82 22.5	90 24.7
全 体	4270 100.0	469 11.0	1391 32.6	1209 28.3	683 16.0	417 9.8	101 2.4
残業・時間外労働の負荷軽減	小動物診療施設開設者	364 100.0	33 9.1	72 19.8	102 28.0	86 23.6	51 14.0
全 体	4270 100.0	417 9.8	1106 25.9	1343 31.5	686 16.1	603 14.1	115 2.7
出産・子育てや休業からの復職などに関する組織内の相談窓口の整備	小動物診療施設開設者	364 100.0	14 3.8	37 10.2	106 29.1	77 21.2	109 29.9
全 体	4270 100.0	269 6.3	799 18.7	1499 35.1	864 20.2	710 16.6	129 3.0
子育てと仕事を両立しているモデルケースの紹介	小動物診療施設開設者	364 100.0	14 3.8	32 8.8	116 31.9	72 19.8	106 29.1
							6.6

表中の色かけは、小動物診療施設開設者のポイントが全体よりも5%以上差がある場合には薄く、10%以上差がある場合には濃く色を付けている。

